



平成 26(2014)～令和3(2021)年度

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業  
「次世代研究者育成プログラム」

# 未来を拓く地方協奏プラットフォーム 成果報告書

---

令和4(2022)年3月



科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業

「次世代研究者育成プログラム」

# 未来を拓く 地方協奏プラットフォーム

平成26(2014)～令和3(2021)年度

## 成果報告書

令和4(2022)年3月

## 目次

1. はじめに.....	1
2. 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の概要.....	2
2-1. 概要.....	2
2-2. 連携機関.....	3
2-3. 推進体制.....	5
2-3-1. 令和3(2021)年度の推進体制.....	6
2-3-2. HIRAKU 運営協議会開催実績.....	7
2-4. 年次計画(数値目標).....	9
2-4-1. コンソーシアム教員の採用人数.....	9
2-4-2. 長期インターンシップ生の派遣人数.....	9
3. テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム.....	10
3-1. コンソーシアム教員の公募・審査・採用実績.....	10
3-2. コンソーシアム教員の着任状況.....	13
3-3. コンソーシアム教員の育成.....	20
3-3-1. 自立的な研究環境確保等について.....	20
3-3-2. コンソーシアム教員研修について.....	20
3-3-3. メンター制度など.....	21
3-4. コンソーシアム教員の評価.....	22
4. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム.....	24
4-1. 長期インターンシップ.....	24
4-2. 未来博士3分間コンペティション.....	26
4-3. 課題提案型ワークショップ.....	29
4-4. コンソーシアム人材セミナー.....	30
5. 成果報告会.....	44
6. 若手研究人材の意識啓発を促す取組.....	47
6-1. ウェブサイト.....	47
6-2. 学生むけ小冊子 HIRAKU.....	49
6-3. 学生むけ小冊子 HAKUSHI.....	54
6-4. 4年手帳.....	56

<b>7. 若手研究人材のキャリアスタート支援</b> .....	57
7-1. 若手研究人材ポートフォリオ HIRAKU-PF .....	57
<b>8. 代表機関および共同実施機関独自の取組</b> .....	65
8-1. 広島大学独自の取組 .....	65
8-1-1. 広島大学特別研究員制度 .....	65
8-1-2. HIRAKU 実践プログラム .....	66
8-1-3. 博士人材キャリア相談室 .....	68
8-1-4. ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム .....	69
8-1-5. 4年手帳 .....	69
8-2. 山口大学独自の取組 .....	70
8-2-1. 実施体制 .....	70
8-2-2. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム .....	70
8-2-3. テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム .....	73
8-3. 徳島大学独自の取組 .....	74
8-3-1. 実施体制 .....	74
8-3-2. 若手研究者の自立・流動促進プログラム .....	74
8-3-3. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム .....	75
<b>9. 外部評価</b> .....	79
9-1. 外部評価委員会 .....	79



## 1. はじめに

本報告書は、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業（次世代研究者育成プログラム）」に採択された「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」（平成 26（2014）～令和 3（2021）年度）の 8 年間の活動とその成果をまとめたものです。

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」（HIRAKU）は、広島大学が代表機関、山口大学と徳島大学が共同実施機関として、また、本書で述べるように、多くの連携機関の協力を得て推進してきました。博士課程後期学生を含む若手研究人材の育成を目的とするプラットフォーム（HIRAKU-PF）を共同で構築し、自己啓発や専門的能力開発の環境をつくり、また、長期インターンシップや共同研究等の機会を増やしました。さらに、テニュアトラック研究者をコンソーシアムとして共同で公募・選考し、より多くの優秀な若手研究人材を国内外から集め、多様な研究環境と雇用形態を提供しています。また、優秀な女性研究者に活躍の場を提供する取組も進めています。

若手研究人材の養成やキャリアスタート支援は、一つの大学だけでできるものではありません。社会全体の問題として、多くの機関が協力して行うべきです。本コンソーシアムはこの考え方を基調として、問題意識を共有している大学や企業等が、組織の壁を越えて、連携し実施しています。HIRAKU では、代表及び共同実施機関の 3 大学だけでなく、多くの連携大学に所属する大学院生にも、長期インターンシップに派遣する機会を提供してきました。

広島大学では、科学技術人材育成費補助金「イノベーション創出若手研究人材養成」に採択された「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」（平成 21（2009）～平成 25（2013）年度）の取組により、若手研究人材を社会に輩出する、ということ意識して実施するようになりました。また、科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」に採択された「広大システム改革による女性研究者活躍促進」（平成 22（2010）～平成 26（2014）年度）の取組により、女性限定公募を取り入れました。HIRAKU は、これらの取組を実施してきた経験と実績をふまえて、事業全体を設計し、実行してきました。

HIRAKU 事業は、平成 28（2016）年度に中間評価を受けました。すべての項目で所期の計画どおりに取組を進めている、と認められ、また、大きな波及効果があることも認めていただきました。平成 30（2018）年度で補助期間が終了し、その後は、自己経費で、これまでの取組内容と成果を検証しつつ、より効果的であるように事業を継続してきました。

博士課程後期の学生に対する国の支援も拡充されつつあり、HIRAKU で培ってきた博士人材の育成システムは、今後、さまざまなプロジェクトのなかで活用されていきます。テニュアトラック教員という制度は多くの大学において根付いてきておりますので、テニュアトラック教員の育成システムは、今後ますます重要になっていきます。

HIRAKU の 8 年間は、長いものではありませんでしたが、充実したものでした。これも、多くのみなさまの積極的なご協力があったからこそ、です。若手研究人材の育成と多様なキャリアパスの構築の取組は、これで終わるものではなく、今後も続いていきます。これからも引き続きご支援いただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。

令和 4（2022）年 3 月 7 日

広島大学 学長特命補佐（研究人材育成担当）

相田 美砂子

## 2. 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の概要

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、平成 26 (2014) 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業 (次世代研究者育成プログラム)」に申請し、採択された。以降、毎年度の報告書を作成し、事業最終年度となる本報告書は、これまでの 8 年間の概要と令和 3 (2021) 年度の成果をまとめたものである。

### 2-1. 概要

コンソーシアムの名称： 未来を拓く地方協奏プラットフォーム

代表機関名： 国立大学法人広島大学

総括責任者名： 広島大学長

共同実施機関名： 国立大学法人山口大学、国立大学法人徳島大学

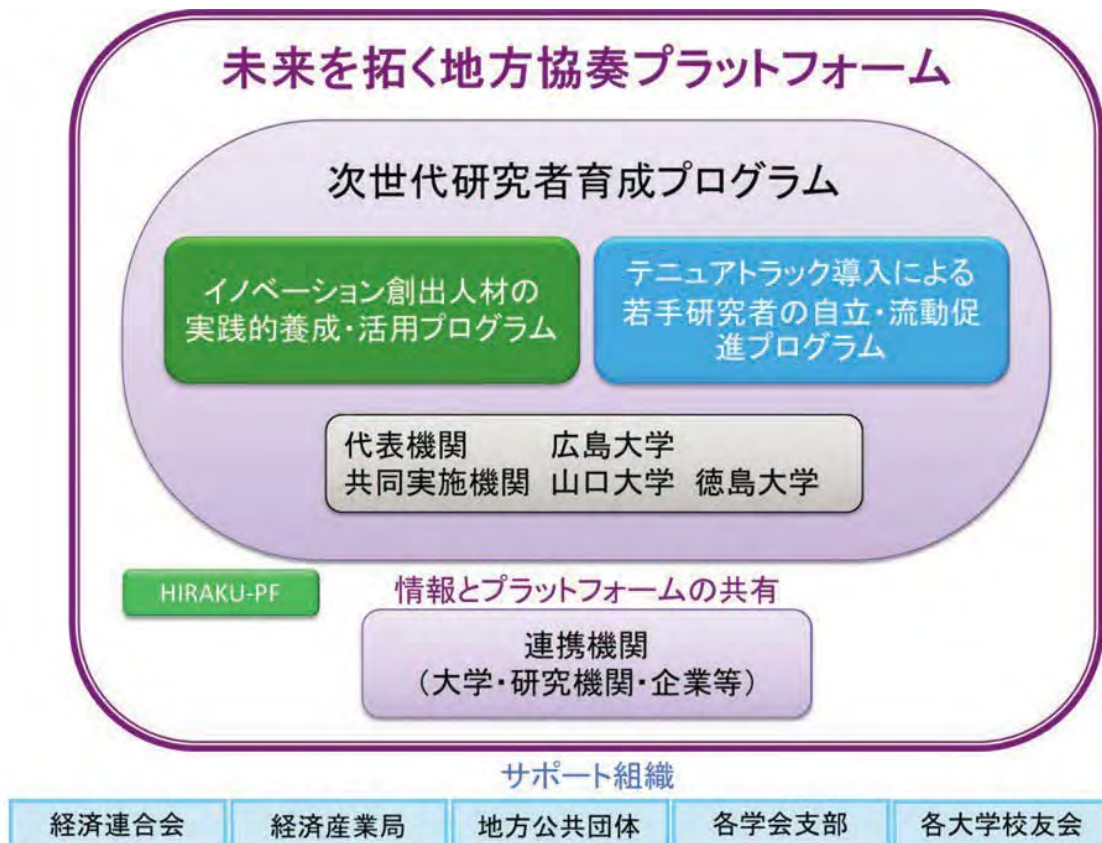
実施予定期間： 平成 26 (2014) 年度～令和 3 (2021) 年度

取組の概要：

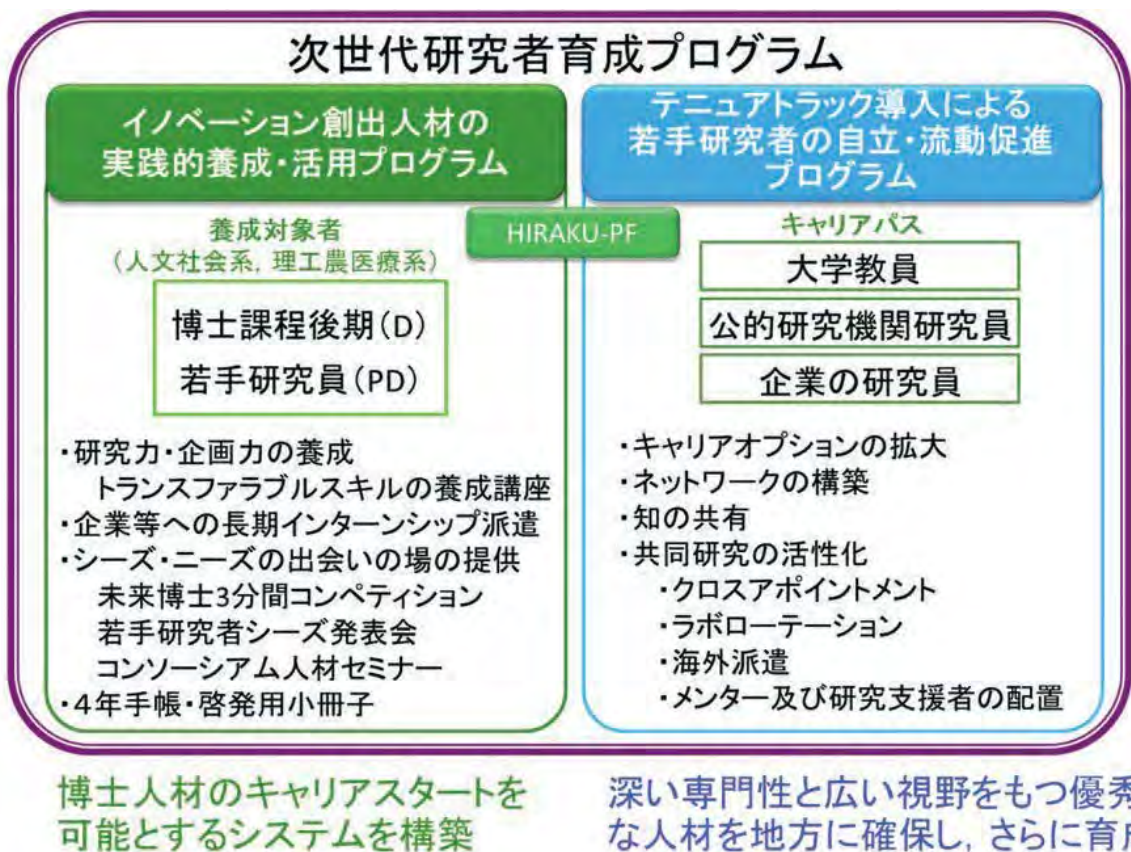
中国・四国地方を中心とする西日本の大学等を中心としたコンソーシアムを構築し、共同でテニュアトラック研究者を公募，選考する。より多くの優秀な若手研究人材を国内外から集める。多様な雇用・流動形態（クロスアポイントメント，ラボローテーション等）の導入により，彼らが異なる知と交わり，ネットワークを構築できるよう支援する。女性枠を設定し，女性の活躍促進につなげる。

博士課程後期学生を含む若手研究人材が，地域や国際社会を変革するイノベーターとして自立できるよう，彼らの実践的な養成・活用を可能とするプラットフォームを共同で構築する。トランスファラブルスキル養成に必要なリソースの共有を図り，シーズ・ニーズのマッチングにより，インターンシップ，就職，共同研究等の機会を増やす。

若手研究人材の養成・活用を通じて，コンソーシアム内外の知の循環を加速させ，地域全体の社会的課題の解決やイノベーション創出を図り，地方創生につなげる。







## 2-2. 連携機関

本事業採択当初の平成26（2014）年10月に20機関で開始した連携機関は、令和4（2022）年2月末現在では、次のとおり計66機関（50音順）となった。

### 国立大学法人

1	愛媛大学
2	岡山大学
3	香川大学
4	岐阜大学
5	高知大学
6	島根大学
7	鳥取大学
8	鳴門教育大学
9	国立遺伝学研究所／ 総合研究大学院大学生命科学研究科 遺伝学専攻

### 公私立大学法人

1	県立広島大学
2	高知工科大学
3	広島市立大学
4	広島国際大学
5	立命館大学

### 行政

1	広島県
---	-----

公的研究機関

1	国立研究開発法人産業技術総合研究所四国センター
2	国立研究開発法人産業技術総合研究所中国センター
3	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構西日本農業研究センター
4	独立行政法人酒類総合研究所

公的団体

1	公益財団法人くれ産業振興センター
2	一般社団法人中国経済連合会
3	一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会
4	地方独立行政法人山口県産業技術センター

企業

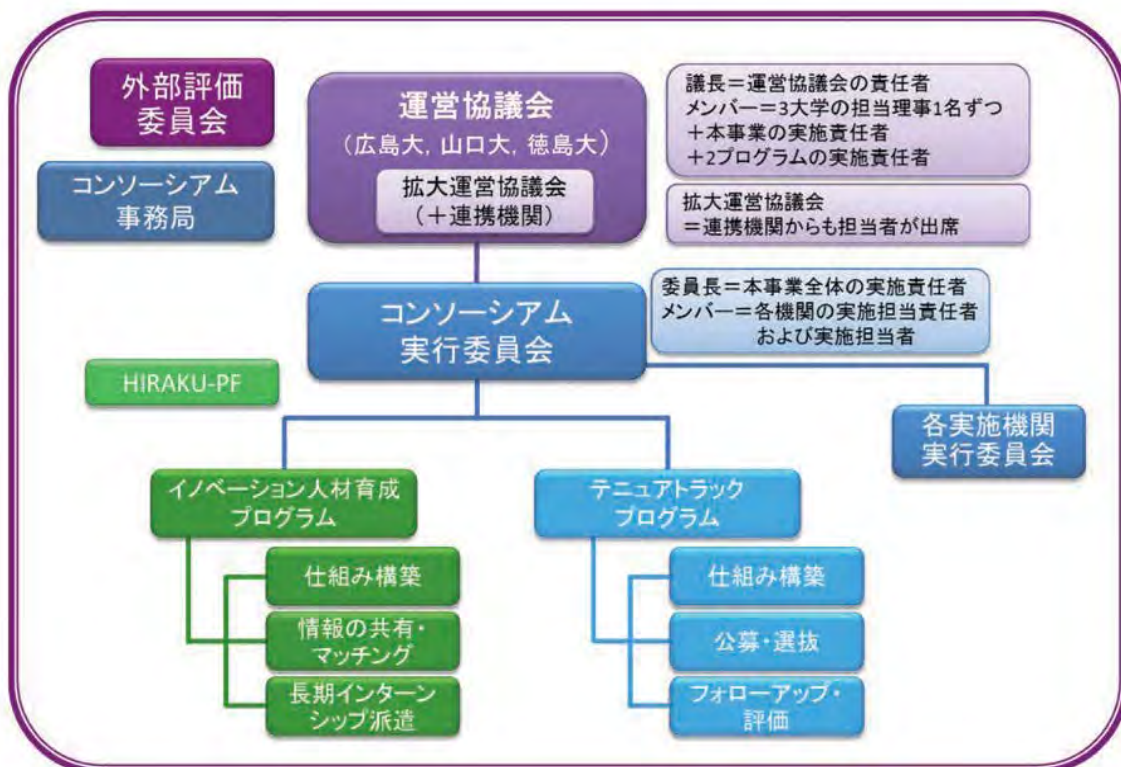
1	株式会社アカリク
2	株式会社あじかん
3	株式会社アビー
4	EY新日本有限責任監査法人（FAAS事業部CCaSS国際公共チーム）
5	大塚製薬株式会社
6	倉敷紡績株式会社
7	株式会社計測リサーチコンサルタント
8	コニカミノルタ株式会社
9	株式会社サタケ
10	三新化学工業株式会社
11	JFEスチール株式会社
12	株式会社ジェイ・エム・エス
13	株式会社ジェーイーエル
14	シュプリンガー・ネイチャー
15	昭和電工株式会社
16	中外テクノス株式会社
17	中国電力株式会社エネルギー総合研究所
18	帝人ナカシマメディカル株式会社
19	東ソー株式会社
20	株式会社東洋高圧
21	株式会社トクヤマ 徳山製造所
22	戸田工業株式会社
23	西川ゴム工業株式会社
24	日本アイ・ビー・エム株式会社
25	株式会社日本製鋼所 広島製作所
26	日本製鉄株式会社 技術開発本部
27	日本ハム株式会社 中央研究所
28	株式会社野村総合研究所

29	株式会社フェニックスバイオ
30	富士通Japan株式会社 関西・中国エリア本部 広島支社第一ビジネス部
31	フマキラー株式会社
32	ベネッセ教育総合研究所
33	株式会社ペンタスネット
34	マツダ株式会社
35	マナック株式会社
36	株式会社MICOTOテクノロジー
37	三菱ケミカル株式会社 広島研究所
38	三菱重工株式会社 広島製作所
39	メドエルジャパン株式会社
40	矢崎総業株式会社 技術研究所
41	株式会社リバネス
42	他 1 社

海外機関

1	Vitae (イギリス)
---	--------------

2-3. 推進体制



運営協議会は、実施機関である広島大学，山口大学，徳島大学の各担当理事，本事業の実施責任者，およびプログラム責任者で構成する。また，運営協議会のサブ組織として拡大運営協議会を置く。拡大運営協議会は，運営協議会に連携機関の実施責任者を加えたメンバーで構成する。

運営協議会において、コンソーシアム全体および各機関の意思疎通を図る。運営協議会の下にコンソーシアム実行委員会を設置し、コンソーシアムとしての活動を進める。各実施機関においては、それぞれ実行委員会等を設置し、活動を進める。

運営協議会、拡大運営協議会、コンソーシアム実行委員会を必要に応じ開催し、各機関の事情をふまえながらコンソーシアム全体としての方針を決定し、実行する。

## 2-3-1. 令和3（2021）年度の推進体制

### (1) コンソーシアムとしての責任者

総括責任者： 広島大学 学長 越智 光夫  
実施責任者： 広島大学 学長特命補佐（研究人材育成担当） 相田 美砂子  
運営協議会責任者： 広島大学 理事・副学長（学術・社会連携担当） 安倍 学  
（担当事務：学術・社会連携室学術・社会連携部  
企画GL 太呉 壮一）  
運営協議会メンバー： 山口大学 理事・副学長（学術研究担当） 上西 研  
徳島大学 理事・副学長（研究担当） 佐々木 卓也  
広島大学 学長特命補佐（研究人材育成担当） 相田 美砂子  
広島大学 グローバルキャリアデザインセンター長 三須 敏幸

コンソーシアム実行委員会：

「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」責任者  
広島大学 学長特命補佐（研究人材育成担当） 相田 美砂子  
「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」責任者  
広島大学 グローバルキャリアデザインセンター長 三須 敏幸

### (2) 各実施機関の責任者

#### ◆広島大学

「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」  
広島大学 理事・副学長（学術・社会連携担当） 安倍 学  
（担当事務：学術・社会連携室学術・社会連携部  
企画GL 太呉 壮一）

「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」  
広島大学 グローバルキャリアデザインセンター長 三須 敏幸  
（担当事務：教育室教育部キャリア支援GL 新田 雅浩）

#### ◆山口大学

山口大学 理事・副学長（学術研究担当） 上西 研  
（担当事務：学術研究部研究推進課長 野田 好人）

#### ◆徳島大学

徳島大学 理事・副学長（研究担当） 佐々木 卓也  
（担当事務：研究・産学連携部 常三島研究・  
産学支援課長 河野 勉）

### (3) HIRAKU 運営協議会事務局

専任職員

事務職員（教育室）

梶田 真理（キャリア支援G主任）

推進員

岡崎 亜紀子

協力職員

学術・社会連携室

太呉 壮一（企画GL）

田尾 若菜（企画G主査）

#### 2-3-2. HIRAKU 運営協議会開催実績

平成 26（2014）年度：第 1 回～第 6 回 （計 6 回）

平成 27（2015）年度：第 7 回～第 12 回 （計 6 回）

平成 28（2016）年度：第 13 回～第 19 回 （計 7 回）

平成 29（2017）年度：第 20 回～第 25 回 （計 6 回）

平成 30（2018）年度：第 26 回～第 30 回 （計 5 回）

平成 31・令和元（2019）年度：第 31 回～第 32 回 （計 2 回）

令和 2（2020）年度：第 33 回～第 34 回 （計 2 回）

令和 3（2021）年度：第 35 回～第 36 回 （計 2 回）

#### 令和 3（2021）年度実績

##### (1) 第 35 回 HIRAKU 運営協議会

【日 時】 令和 3（2021）年 7 月 30 日（金）15：44～16：40

【場 所】 Zoom オンライン会議

【出席者】 （山口大学）上西理事，（徳島大学）佐々木理事

（広島大学）安倍理事，相田特任教授，

三須グローバルキャリアデザインセンター長，原学術・社会連携部長

（連携機関）シュプリンガー・ネイチャー 山根アカウント・ディベロップメント・

マネージャー

他 20 名（合計 27 名）

##### 【議題と報告事項】

- ・令和 4（2022）年度以降の HIRAKU 事業について
- ・HIRAKU 連携機関への新規申込みについて
- ・コンソーシアム教員の年度評価について
- ・コンソーシアム教員の中間評価について
- ・コンソーシアム教員の最終評価について
- ・第 14・15 期（2021 年度）コンソーシアム教員公募について
- ・2014-2020 年度コンソーシアム教員の採用状況について
- ・未来博士 3 分間コンペティション 2021 について ほか

##### (2) 第 36 回 HIRAKU 運営協議会

【日 時】 令和 4（2022）年 3 月 4 日（水）15：50～17：10

【場 所】 Zoom オンライン会議

【出席者】 （山口大学）上西理事，（徳島大学）佐々木理事

（広島大学）安倍理事，相田学長特命補佐，三須センター長

（連携機関）大塚製薬（株）川染部長，倉敷紡績（株）西井主席研究員

他 32 名（合計 39 名）

【議題と報告事項】

- ・令和4（2022）年度以降のHIRAKU事業について
- ・HIRAKU連携機関への新規申込みについて
- ・「未来博士3分間コンペティション2021」開催報告及び今後について
- ・2021年度長期インターンシップ派遣状況について
- ・コンソーシアム教員の年度評価について
- ・コンソーシアム教員の中間評価について
- ・コンソーシアム教員の最終評価について
- ・2014-2021年度コンソーシアム教員の採用状況について
- ・令和3（2021）年度外部評価委員会の総評及び要望について
- ・博士後期課程学生へのフェローシップ支援事業について                   ほか

## 2-4. 年次計画（数値目標）

### 2-4-1. コンソーシアム教員の採用人数

	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度
春着任		第 2 期	第 4 期	第 6 期	第 8 期	第 10 期	第 12 期	第 14 期
秋着任	第 1 期 (冬)	第 3 期	第 5 期	第 7 期	第 9 期	第 11 期	第 13 期	第 15 期
広島大学	4	5	6	6	6	6	6	6
山口大学	0	2	1	1	1	1	1	1
徳島大学	0	1	1	1	1	1	1	1
計	4	8	8	8	8	8	8	8

### 2-4-2. 長期インターンシップ生の派遣人数

	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度
前期		第 2 期	第 4 期	第 6 期	第 8 期	第 10 期	第 12 期	第 14 期
後期	第 1 期	第 3 期	第 5 期	第 7 期	第 9 期	第 11 期	第 13 期	第 15 期
広島大学	4	14	14	14	14	14	14	14
山口大学	0	2	2	2	2	2	2	2
徳島大学	2	2	2	2	2	2	2	2
計	6	18	18	18	18	18	18	18

### 3. テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム

#### 3-1. コンソーシアム教員の公募・審査・採用実績

	平成 26(2014)年度	平成 27(2015)年度		平成 28(2016)年度	
春着任		第 2 期		第 4 期	
秋着任	第 1 期(冬)		第 3 期		第 5 期
広島大学	4	2(2)	3(1)	2(2)	4(4)
山口大学	0	2	0	1(1)	0
徳島大学	0	0	1	1	0
公募開始	平成 26(2014)年 11 月 25 日	平成 26(2014)年 12 月 26 日	平成 27(2015)年 4 月 28 日	平成 27(2015)年 10 月 13 日	平成 28(2016)年 4 月 28 日
公募締切	平成 26(2014)年 12 月 22 日	平成 27(2015)年 1 月 29 日	平成 27(2015)年 6 月 25 日	平成 27(2015)年 12 月 10 日	平成 28(2016)年 6 月 30 日
コンソーシアム内 公開ヒアリング	平成 27(2015)年 1 月 23 日	平成 27(2015)年 3 月 5 日	平成 27(2015)年 8 月 26 日	平成 28(2016)年 2 月 29 日	平成 28(2016)年 8 月 26 日
採用者計	4[2]	4[2]	4[1]	4[4]	4[4]
	平成 29(2017)年度		平成 30(2018)年度		令和元 (2019)年度
春着任	第 6 期		第 8 期		第 10 期
秋着任		第 7 期		第 9 期	
広島大学	2(1)	4(2)	3(2)	3(2)	3(1)
山口大学	0	1	0	1	0
徳島大学	1	0	0	1	0
公募開始	平成 28(2016)年 10 月 11 日	平成 29(2017)年 3 月 10 日	平成 29(2017)年 9 月 1 日	平成 30(2018)年 2 月 2 日	平成 30(2018)年 8 月 2 日
公募締切	平成 28(2016)年 12 月 12 日	平成 29(2017)年 5 月 15 日	平成 29(2017)年 10 月 31 日	平成 30(2018)年 4 月 2 日	平成 30(2018)年 10 月 1 日
コンソーシアム内 公開ヒアリング	平成 29(2017)年 2 月 1 日	平成 29(2017)年 7 月 31 日	平成 29(2017)年 12 月 25 日	平成 30(2018)年 7 月 19 日	平成 30(2018)年 12 月 13 日
採用者計	3[1]	5[2]	3[2]	5[3]	3[1]
	令和元 (2019)年度	令和 2(2020)年度		令和 3(2021)年度	
春着任		第 12 期		第 14 期	
秋着任	第 11 期		第 13 期		第 15 期
広島大学	3(1)	4(1)	2(1)	5(2)	1(1)
山口大学	1	0	1	0	1(1)
徳島大学	1	1(1)	0	1	0
公募開始	平成 31(2019)年 3 月 26 日	令和元 (2019)年 7 月 29 日以降随時		令和 2(2020)年 6 月 17 日以降随時	
公募締切	令和元(2019)年 5 月 27 日				
コンソーシアム内 公開ヒアリング					
採用者計	5[2]	5[3]	3[1]	6[2]	2[2]

(括弧内の数) →女性限定公募の件数 (内数)

[括弧内の数] →採用者の内の女性の数 [内数]

「次世代研究者」の公募について、本コンソーシアムでは、実施機関（広島大学、山口大学、徳島大学）がそれぞれ事業計画及び大学の計画に従った募集分野・人数・職階の候補を提案し、コンソーシアム運営協議会において決定した後、コンソーシアムで公募、選考を行い、実施機関で採用を行った（本スキームで採用された教員を、以下コンソーシアム教員と記す）。公募の実施にあたっては、運営協議会での決定を受けて、コンソーシアム実行委員会と事務局が実施した。



コンソーシアム教員の公募にあたっては、実施機関側にはその職に求める条件として、テニユアトラック制での処遇を求めた。また、各実施機関内での早期定着、安定的で迅速な研究環境の確保、雇用後の流動性の担保などの観点から、各大学の制度に則った上で、いわゆる定員枠の教員と可能な限り同じ取扱いを求めた。そのため、広島大学では、コンソーシアム教員について、特殊な職階を設定せず、全て（通常の）助教として公募、採用した。

コンソーシアム教員となるものについては、以下の点を共通した要件とした。

- ・博士号を取得後 10 年以内(※1)又は同等程度の研究経歴(※2)を有し、かつ、40 歳未満(※3)である若手研究者（ただし、臨床研修を課せられた医学系分野においては 43 歳未満）
  - ※1 産前・産後休暇および育児休暇を取得した者は、その取得期間について 10 年を越えることが可能。
  - ※2 博士課程に標準年限以上在学し、所定の単位を修得した上、退学した（いわゆる「満期退学者」）で、退学後 10 年以内の研究者。
  - ※3 文部科学省の平成 26（2014）年度科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業による補助対象のため、雇用対策法施行規則第 1 条の 3 第 1 項第 3 号ニに該当するとして実施。
- ・英語によるコミュニケーション能力を有すること。
- ・日本語又は英語による学部・大学院生への授業及び研究指導ができること。
- ・科学技術イノベーションの実現に向けて積極的な研究活動を行う意志をもつこと。

これらの共通する要件に加え、各機関・分野で必要と認められた要件については、特有事項として追記した。

世界中から優秀かつ多様な人材を呼び込むために、国際公募とし、海外にも積極的に情報を展開した。また、公募要領上では、各機関で共通する内容については、可能な限り詳細な情報を掲示すると共に、各機関・分野の HP などを紹介し、外国在住者でも応募しやすくなるよう心がけた。さらに、国内外から寄せられた問い合わせに対しては、事務局で可能な限り迅速かつ丁寧な対応を行った。

従来の教員公募においては、各機関の人事担当部署及び各公募の責任教員が直接個別に対応しており、特に国際公募では大きな負担となっているが、これをコンソーシアムとして一括で対応し、Q&A として公開することで、応募者、事務双方の負担の軽減を図った。

加えて、女性教員の少ない分野では、各実施機関に対して女性限定公募を行うよう積極的に働きかけた。その結果、第 1 期（平成 26（2014）年度から第 15 期（令和 3（2021）年度）までの全公募期間において、60 件の公募のうち 26 件を女性限定公募として行った。また、女性限定公募でない場合も、公募要領上に女性研究者への支援を明記し、各機関の環境整備状況を明記することにより、女性への積極的な応募を促した。

全公募期間において、外国籍教員の採用は 2 割の 12 名となっており、全採用教員 60 名のうち半数以上にあたる 32 名の女性教員の採用につながった。研究分野のみでなく、ジェンダー、国籍などで多様なメンバーで構成されていると言える。

コンソーシアム教員は、各分野での優秀な教員候補であるのみならず、多様な人材に対してリーダーシップを発揮しなければならない将来の産学官のリーダー候補であるが、本コンソーシアムではその目的に沿った人材を公正なシステムに基づいて採用できた。

なお、応募にあたっては、以下の内容を共通して求めた。

- ① 履歴書
- ② 業績リスト※ 主要論文（5 編以内）のコピーを添付すること。
- ③ これまでの研究概要（A4 4 ページ以内、図表含む）
- ④ 本コンソーシアムにおける研究計画（A4 4 ページ以内、今後 5 年間の研究計画）

⑤ 科学技術イノベーションへの貢献に向けた抱負

⑥ 推薦者リスト（推薦者の所属、氏名、電話番号、電子メールアドレスを2名分記載）

公募情報は、JREC-IN Portal, コンソーシアム HP, 各大学 HP 等において英語及び日本語で公開し、公募期間は2か月以上となるように設定した。

応募者には、コンソーシアムが指定する日英共通様式（フォーム）に記入して提出することを求めた。世界中から幅広い人材の応募を得るために、応募書類はすべて電子メールで受け付けた。

選考にあたっては、コンソーシアム事務局における応募の取りまとめの後、各公募分野において一次選考を実施し、コンソーシアム運営協議会において審議（メール審議）を行い、その結果を各大学に通知し、各大学が採用手続きを進める形で行った。

従来の大学教員採用においては、他機関がその人材を知る機会が少なかったが、コンソーシアムとしての強みである複数大学での共同実施による協力体制のもと、優秀な若手研究人材を積極的に活かすための仕組みを構築できており、中国四国地域を活性化するための一歩となったと言える。

◆第14期・第15期公募（令和3（2021）年度後期）

・JREC-IN, コンソーシアム HP, 各大学 HP にて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会 HP, メーリングリスト等においても周知。

・令和2（2020）年12月以降、随時公募開始。令和3（2021）年10月1日（金）以降採用予定。

・公募分野：エネルギー変換材料工学, エネルギー貯蔵材料（広島大学・女性限定公募）, 建築計画学・都市計画学分野（山口大学・女性限定公募）

・再公募2分野（AI研究 特に機械学習の理論とその応用に関する研究分野（広島大学）, 情報ネットワーク（徳島大学））を加えた4分野合計で13名の応募を得た（うち女性6名）。

### 3-2. コンソーシアム教員の着任状況

(所属先名称は着任時のもの)

公募分野	所属先	氏名	採用日	テニユアトラック 期間終了日	その後
第1期 (平成26(2014)年度 後期)					
欧米文学語学・言語学	広島大学 大学院文学研究科 助教	松本 舞	平成27(2015)年3月1日	令和元(2019)年9月30日	広島大学学術院 助教 (大学院文学研究科) (テニユア)
マクロ経済学	広島大学 大学院社会科学研究科 助教	中川 雅央	平成27(2015)年3月1日	令和元(2019)年9月30日	広島大学学術院 助教 (大学院社会科学研究科) (テニユア)
反応性機能分子の化学	広島大学 大学院理学研究科 助教	Shang Rong	平成27(2015)年3月1日	令和元(2019)年9月30日	広島大学学術院 助教 (大学院理学研究科) (テニユア)
宇宙科学	広島大学 大学院理学研究科 助教	岡部 信広	平成27(2015)年3月1日	令和元(2019)年9月30日	広島大学学術院 助教 (大学院理学研究科) (テニユア) 2020年4月准教授昇任
第2期 (平成27(2015)年度 前期)					
病態制御学講座・獣医衛生学分野	山口大学 共同獣医学部 助教	渋谷 周作	平成27(2015)年4月1日	令和2(2020)年1月31日	山口大学 共同獣医学部 准教授 (テニユア)
整形外科学	広島大学 大学院医歯薬保健学研究院(医) 助教	中島 祐子	平成27(2015)年4月1日	平成30(2018)年3月31日	広島大学 共同研究講座 准教授 (任期付) (延長の可能性有)
細胞生物学もしくは発生生物学	山口大学 大学院医学系研究科 助教	原 裕貴	平成27(2015)年6月1日	令和2(2020)年3月31日	山口大学 大学院創成科学研究科 (理学) 講師 (テニユア)
水産生物学	広島大学 大学院生物圏科学研究科 助教	若林 香織	平成27(2015)年7月1日	平成31(2019)年3月31日	広島大学学術院 准教授 (大学院統合生命科学研究所) (テニユア)
第3期 (平成27(2015)年度 後期)					
地球環境計画学	広島大学 大学院工学研究院 助教	Lam Chi Yung	平成27(2015)年11月1日	令和2(2020)年9月30日	広島大学学術院 研究員 (大学院先進理工系科学研究科) 2021年4月 北陸先端科学技術大学院大学 准教授

公募分野	所属先	氏名	採用日	テニュアトラック 期間終了日	その後
家畜繁殖学	広島大学 大学院生物圏科学 科学研究科 助教	星野 由美	平成 27(2015) 年 11 月 1 日	令和 2(2020) 年 3 月 31 日	日本女子大学 講師 (テニュア)
老年看護学	広島大学 大学院医歯薬保 健学研究院 (保) 助教	梶原 弘平	平成 28(2016) 年 2 月 1 日	令和 2(2020) 年 3 月 31 日	日本赤十字九州国際 看護大学 准教授 (テニュア)
家畜繁殖学	徳島大学 大学 院生物資源産業 学部 特任助教	谷原 史倫	平成 28(2016) 年 2 月 1 日	令和 2(2020) 年 9 月 30 日	自治医科大学 先端 医療技術開発センタ ー 准教授 (テニュ ア)
第 4 期 (平成 28(2016)年度 前期)					
果樹園芸学	山口大学 大学 院創成科学研究 科 農学系学域 助教	金 貞希 (Kim Junghee)	平成 28(2016) 年 4 月 1 日		
有機合成薬学	徳島大学 大学 院医歯薬学研究 部 特任助教	Karanjit Sangita	平成 28(2016) 年 4 月 1 日	令和 3(2021) 年 3 月 31 日	徳島大学 大学院医 歯薬学研究部 助教 (テニュア)
食品科学	広島大学学術院 助教 (大学院生 物圏科学研究 科)	Kumrungsee Thanutchaporn	平成 28(2016) 年 4 月 1 日	令和 2(2020) 年 3 月 31 日	広島大学学術院 准 教授 (大学院統合生 命科学研究科) (テ ニュアトラック)
スポーツ栄養 学	広島大学学術院 助教 (大学院総 合科学研究科)	緒方 ひとみ	平成 28(2016) 年 9 月 1 日	平成 31(2019) 年 3 月 31 日	広島大学学術院 准 教授 (大学院総合科 学研究科) (テニュ ア)
第 5 期 (平成 28(2016)年度 後期)					
物性科学	広島大学学術院 助教 (大学院理 学研究科)	真木 祥千子	平成 28(2016) 年 11 月 1 日	平成 30(2018) 年 10 月 31 日	東北大学 講師 (任期付)
大気海洋循環 制御論	広島大学学術院 助教 (大学院生 物圏科学研究 科)	岩本 洋子	平成 29(2017) 年 2 月 1 日	平成 31(2019) 年 3 月 31 日	広島大学学術院 准 教授 (大学院統合生 命科学研究科) (テ ニュア)
半導体・ナノ テクノロジー	広島大学学術院 助教 (大学院先 端物質科学研究 科)	水川 友里	平成 29(2017) 年 3 月 1 日	令和 2(2020) 年 9 月 30 日	ソニーセミコンダク タマニュファクチャ リング株式会社
文化人類学	広島大学学術院 助教 (大学院総 合科学研究科)	栗田 梨津子	平成 29(2017) 年 3 月 1 日	平成 31(2019) 年 3 月 31 日	神奈川大学外国語学 部 助教 (テニュ ア) 准教授昇任

公募分野	所属先	氏名	採用日	テニユアトラック 期間終了日	その後
第6期（平成29(2017)年度 前期）					
代謝栄養学	徳島大学 大学院医歯薬学研究部 特任助教	黒田 雅士	平成29(2017)年4月1日	令和4(2022)年3月31日	徳島大学 大学院医歯薬学研究部 助教（テニユア）
生理化学	広島大学学術院 助教（大学院医歯薬保健学研究科（薬））	小藤 智史	平成29(2017)年6月1日	令和元(2019)年11月30日	東京医科歯科大学 講師（任期付）
放射線防護・線量評価	広島大学学術院 助教（原爆放射線医科学研究所）	廣田 誠子	平成29(2017)年10月1日	令和2(2020)年2月29日	広島大学学術院 助教（原爆放射線医科学研究所）（テニユアトラック）
第7期（平成29(2017)年度 後期）					
認知科学・実験心理学	広島大学学術院 助教（大学院総合科学研究科）	吉本 早苗	平成29(2017)年10月1日	令和4(2022)年9月30日	広島大学学術院 助教（大学院人間社会科学研究所）（テニユア）
応用動物遺伝学	広島大学学術院 助教（大学院生物圏科学研究科）	中村 隼明	平成29(2017)年10月1日		
生物情報工学	広島大学学術院 助教（大学院先端物質科学研究科）	加藤 節	平成29(2017)年12月1日		
統計学	広島大学学術院 助教（大学院理学研究科）	伊森 晋平	平成30(2018)年1月18日	令和2(2020)年3月31日	広島大学学術院 准教授（大学院先進理工系科学研究科）（テニユア）
応用化学	山口大学 大学院創成科学研究科 工学系学域准教授	吉田 真明	平成30(2018)年3月1日		
第8期（平成30(2018)年度 前期）					
構造生物学	広島大学学術院 助教（大学院医歯薬保健学研究科（医））	東浦 彰史	平成30(2018)年4月1日		

公募分野	所属先	氏名	採用日	テニュアトラック 期間終了日	その後
生命医療科学	広島大学学術院 助教 (大学院理学研究科)	高橋 治子	平成 30(2018)年 4 月 1 日		
天文学	広島大学学術院 助教 (宇宙科学センター)	稲見 華恵	平成 31(2019)年 2 月 1 日		
第 9 期 (平成 30(2018)年度 後期)					
ロボット工学	徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 助教	松井 保子	平成 30(2018)年 10 月 1 日	令和 2(2020)年 9 月 30 日	辞職
物理化学	広島大学学術院 助教 (大学院理学研究科)	村松 悟	平成 30(2018)年 10 月 1 日	令和 3(2021)年 9 月 30 日	広島大学学術院 助教 (大学院先進理工系科学研究科) (テニユア)
生命医療科学	広島大学学術院 助教 (大学院医歯薬保健学研究科 (医))	Kasaragod Deepa kamath	平成 30(2018)年 11 月 1 日		
構造材料工学	広島大学学術院 助教 (大学院工学研究科)	George Riya Catherine	平成 30(2018)年 12 月 1 日		
循環環境工学	山口大学 大学院創成科学研究科 工学系学域 准教授	石井 治之	平成 31(2019)年 2 月 1 日		
第 10 期 (平成 31(2019)年度 前期)					
統計学	広島大学学術院 助教 (大学院社会科学研究科)	高島 哲也	平成 31(2019)年 4 月 1 日		
数理モデリング	広島大学学術院 助教 (大学院理学研究科)	藤井 雅史	平成 31(2019)年 4 月 1 日	令和 4(2022)年 2 月 28 日	広島大学学術院 助教 (大学院先統合生命科学研究所) (テニユア)

公募分野	所属先	氏名	採用日	テニュアトラック 期間終了日	その後
農学応用生命科学(応用動物生命科学)	広島大学大学院 助教(大学院統合生命科学研究所)	松崎 芽衣	平成 31(2019)年 4 月 1 日		
第 1 1 期 (令和元(2019)年度 後期)					
次世代フォトニクス研究	徳島大学 ポストLED フォトニクス研究所 特任助教	長谷 栄治	令和元(2019)年 10 月 1 日		
応用有機化学	広島大学大学院 助教(大学院工学研究科)	河崎 陸	令和元(2019)年 10 月 1 日		
植物生産学	広島大学大学院 助教(大学院統合生命科学研究所)	田中 若奈	令和元(2019)年 12 月 1 日		
材料科学に立脚した物性物理学	広島大学大学院 助教(大学院理学研究科)	Kim Sangwook	令和 2(2020)年 2 月 1 日		
知能情報工学	山口大学大学院創成科学研究科工学系学域 助教	相田 紗織	令和 2(2020)年 3 月 1 日		
第 1 2 期 (令和 2(2020)年度 前期)					
化学工学・サステイナブル工学・表面科学・材料科学	広島大学大学院 助教(大学院先進理工系科学研究科)	Lee Ji Ha	令和 2(2020)年 4 月 1 日		
家禽生理学	広島大学大学院 助教(大学院統合生命科学研究所)	新居 隆浩	令和 2(2020)年 4 月 1 日		
放射線生物学・放射線防護学	広島大学大学院 助教(原爆放射線医科学研究所)	神代 紗央理	令和 2(2020)年 4 月 1 日		

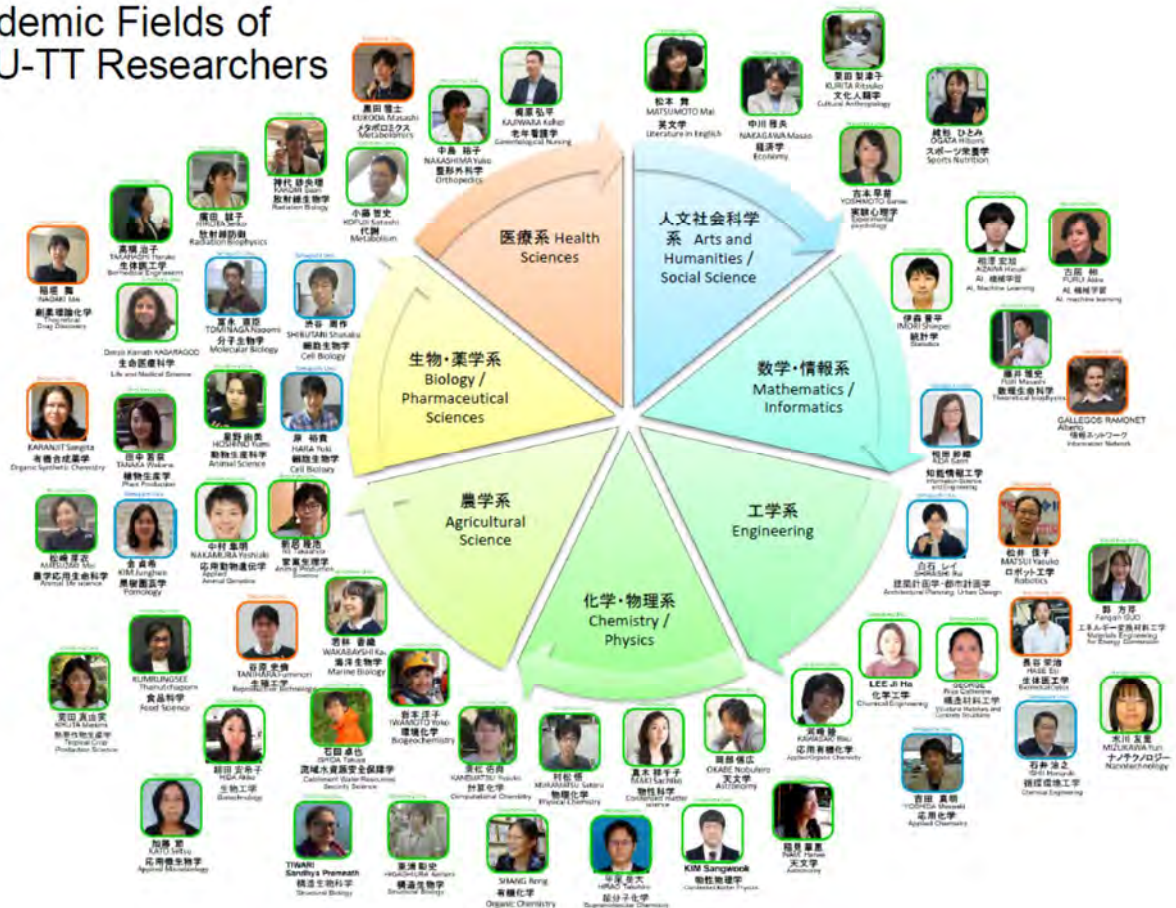
公募分野	所属先	氏名	採用日	テニュアトラック 期間終了日	その後
流域水資源安全保障学	広島大学大学院 助教 (大学院先進理工系科学研究科)	石田 卓也	令和2(2020)年4月1日		
創薬理論化学	徳島大学 大学院医歯薬学研究部 助教	稲垣 舞	令和2(2020)年4月1日		
第13期 (令和2(2020)年度 後期)					
有機材料化学	広島大学大学院 助教 (大学院先進理工系科学研究科)	兼松 佑典	令和2(2020)年10月1日		
構造生物科学	広島大学大学院 助教 (大学院統合生命科学科学研究科)	Tiwari Sandhya Premnath	令和3(2021)年3月1日		
分子生物学分野	山口大学大学院 医学系研究科	富永 直臣	令和3(2021)年3月1日		
第14期 (R3(2021)年度 前期)					
AI 研究 特に画像解析に関する研究分野	広島大学大学院 助教 (大学院先進理工系科学研究科)	相澤 宏旭	令和3(2021)年4月1日		
生物工学 (環境バイオテクノロジー)	広島大学大学院 助教 (大学院統合生命科学科学研究科)	緋田 安希子	令和3(2021)年4月1日		
熱帯作物生産学	広島大学大学院 助教 (大学院統合生命科学科学研究科)	菊田 真由実	令和3(2021)年4月1日		
超分子化学	広島大学大学院 助教 (大学院先進理工系科学研究科)	平尾 岳大	令和3(2021)年4月1日		



公募分野	所属先	氏名	採用日	テニュアトラック 期間終了日	その後
AI 研究 特に機械学習の理論とその応用に関する研究分野	広島大学大学院助教 (大学院先進理工系科学研究科)	古居 彬	令和 3(2021)年 10 月 1 日		
情報ネットワーク	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 助教	Gallegos Ramonet Alberto	令和 3(2021)年 10 月 1 日		
第 15 期 (R3(2021)年度 後期)					
エネルギー変換材料工学, エネルギー貯蔵材料	広島大学大学院助教 (大学院先進理工系科学研究科)	郭 方芹 (Guo Fangqin)	令和 3(2021)年 10 月 1 日		
建築計画学・都市計画学分野	山口大学大学院創成科学研究科 助教	白石 レイ	令和 3(2021)年 10 月 1 日		

コンソーシアム教員の実分野分布

Academic Fields of HIRAKU-TT Researchers



### 3-3. コンソーシアム教員の育成

#### 3-3-1. 自立的な研究環境確保等について

コンソーシアムを通じた公募により採用された若手研究者は、基本的には各機関のテニュアトラック教員として採用されている。これにより、外部資金雇用の若手研究者等と比較し、各段に安定した身分と共に、研究内容・研究場所の自由が与えられており、安定性と流動性を同時に満たしている。

テニュアトラック教員として採用されることで、任期中の自立的な環境を得ると共に、業績に応じて将来の安定した職が担保されている。また、PI (Principal Investigator) としての自覚を促し、研究環境を担保することで、外部資金を獲得し自立的に責任をもって研究を遂行することができている。

また、通常の教員としての取扱いをコンソーシアムとして各機関に強く求めており、例えば広島大学においてコンソーシアム教員は、基盤経費（校費）の面においても、他の助教と同じ取り扱いを受けている。加えて、本事業からのスタートアップ経費の支出により、真に自立的な研究環境の確保を担保した。

あわせて、コンソーシアム教員には積極的なラボローテーションやクロスアポイントメントを推奨しており、各機関・部局との協力体制のもと、これまで数件のラボローテーションの実施に繋がっている。クロスアポイントメントに関しては、可能性を含めて現在検討中である。また、コンソーシアム教員内での、今後の共同研究に向け相談を開始する事例も発生している。

研究環境状況については、定期的な半期毎の進捗状況の報告を受けている他、各年度の評価面談等で、コンソーシアム実行委員会及び事務局が実情を常時把握している。これらを通して、必要に応じて所属する部局長等とコンソーシアム実行委員会及び事務局との意見交換も実施しており、所属内だけでは解決が困難であることも、コンソーシアムが客観的に関わることで、研究エフォートの確保、研究と教育のバランス、本人のキャリア段階に応じた職務の割振り等を目指している。

#### 3-3-2. コンソーシアム教員研修について

コンソーシアム教員は、各大学で通常の助教として採用されるため、各大学の新任教員に対するファカルティーディベロップメント (FD) などを通じて、助教としての基礎力を身に着けることになる。例えば、広島大学では、教育の質保証に資するため、新任教員に対して、教員として働くために知っておくべき基本的知識の獲得やスキル向上の機会を提供することを目的として、平成25 (2013) 年10月以降新たに着任する教員に対して、新任教員研修プログラムの20時間以上の受講を必須化し、平成26 (2014) 年4月からプログラムの運用を開始している。広島大学に在籍するコンソーシアム教員は現在まですべてこの対象者であり、随時、新採用教職員研修や大学教育論などを通年で受講している。

加えて、コンソーシアム教員には、産学連携等を通じ幅広い舞台で活躍する能力、異分野と連携する能力が求められている。コンソーシアムとしては、教員の状況をモニタリング (評価) し、必要に応じて情報提供・指導を行い、FD等と相補的な研修を実施する、無駄の少ない継続的な仕組みの構築を目指している。

また、他の組織が主催するセミナー等についても、その目的が合致するものについてコンソーシアムが共催となり、コンソーシアム教員への多様な研修機会を提供している。なお、平成28(2016)年度以降開催の研修については、積極的にTV会議システムを用いて、参加しやすい環境を構築している。

令和3（2021）年度

□Nature 誌の編集者による英語論文執筆ワークショップ

（第43回コンソーシアム教員研修）（令和3（2021）年9月27日（月）～10月2日（土））

広島大学 学術・社会連携部支援部 主催

Nature 誌の編集者によるインタラクティブな論文執筆ワークショップ・講義を3部構成（一般・理工系・医療系）のウェビナー形式で開催し、各人の研究分野にあった論文執筆のポイント・ノウハウを学んだ。

□HIRAKUコンソーシアム教員イベント

（令和3年12月22日（水））

HIRAKUコンソーシアム事務局 主催

HIRAKU-Global事業のプログラスマネージャー及びHIRAKUコンソーシアム事業メンターによる教育研究活動におけるキャリア形成に関わる研修の実施、テニユアトラック教員間の交流を図り教員間のネットワーク構築や共同研究棟への促進につながるように、紹介・フリーディスカッションを行った。

□2021年度広島大学新任教員研修プログラム「研究マネジメント研修」

（第44回コンソーシアム教員研修）（令和4（2022）年1月12日（水）、1月24日（月））

広島大学 学術・社会連携室 主催

本学の研究者（主にDR：Distinguished Researcher）による講義を通じて、研究マネジメントの方法を学び、自身の環境改善に役立てる事を目的とし、自身の研究分野に即した研究者からのアドバイスを受ける。

□2021年度広島大学新任教員研修プログラム「研究マネジメント研修」

（第45回コンソーシアム教員研修）（令和4（2022）年2月28日（月））

広島大学 学術・社会連携室 主催

内閣府総合科学技術・イノベーション会議議員・上山隆大氏を講師に招き、「第6期科学技術・イノベーション基本計画等について」と題して講演をいただくことにより、研究力強化に向けた国の動向や現状を理解する。

### 3-3-3. メンター制度など

各コンソーシアム教員には、2人以上のメンターが配置されている。コンソーシアムとして、企業等における研究経験の豊富な方をコンソーシアムメンターとして雇用し、産学連携を目指したコンソーシアムからの立場で、各コンソーシアム教員に助言・指導を行っている（鈴木榮一郎広島大学客員教授）。加えて、各コンソーシアム教員と同じ専門性を持つ教員（通常は配属先のシニア教員）を配属先メンターとしている。配属先メンターは、分野の特性に応じた指導を行うと共に、身近にいて日々の指導、助言を行う。このコンソーシアムメンターと部局メンターの二人で両面から助言、指導を行うことで、産学連携からの視点を培うと同時に、教員としてのキャリア構築に向けた支援を受けることができる。

また、自立的、主体的に研究を実施するためには、競争的資金の獲得は特に欠かすことができない。このため、コンソーシアム教員からの希望に沿って、個々の専門分野・特性に応じたURAの紹介、各種のセミナーの周知等の支援を実施している。こうした配属先メンターの指導と、実行委員会・事務局の支援により着任直後から競争的資金獲得に向けて動くことが可能となっている。科研費獲得についても積極的に取り組んでおり、令和3（2021）年度は広島大学所属のコンソーシアム教員のうち9名（コンソーシアム離籍者4名を含む）が、新たに研究代表者として採択された。

### 3-4. コンソーシアム教員の評価

コンソーシアム実行委員会が中心となり、コンソーシアムとして毎年の評価を実施している。コンソーシアム教員の着任後1年目、2年目の評価は面談を中心としたものであり、そこで得た情報を元に、より良い研究キャリア構築に向けて、必要に応じて配属先への働きかけ、配属先メンターとの相談を行っている。

また着任3年後までに中間評価、4年半後までには最終評価を実施し、各教員の配属先のテニユア移行審査と連携して行った。

#### ◆毎年度評価

1年目評価及び2年目評価は、コンソーシアム教員の現状確認及びモニタリングを主とし、以下に基づき実施している。

評価目的：

コンソーシアム教員の活動状況や研究環境等を把握し、必要に応じて助言を与え、状況を改善する。

評価主体：

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」コンソーシアム実行委員会に評価部会を設置し、実施する。評価部会は、実行委員長が必要と認める者、2名以上で構成する。

評価方法：

① 以下の内容について、被評価者が資料を作成し、提出。

1. 原著論文数、研究発表数、共同研究数、外部資金獲得実績、講義数等の定量的な状況報告
2. 自己評価（自己アピール）、次年度計画の記述
3. 上記1に関連してそれぞれの具体的な情報の記述

② ①で提出された資料を元に評価者が各教員の現状を把握。

③ 評価部会による被評価者への面談。

④ 評価部会は運営協議会に評価結果を提出。

評価結果のフィードバック：

評価結果を被評価者、メンターに通知する。必要に応じて被評価者への新たな支援の検討や、各大学、配属先に状況の改善について働きかけを行う。

#### ◆中間評価

コンソーシアム教員に対して、着任から3年後までの間に、中間評価を以下のとおり実施している。教員に求めている情報及び基本的な流れは、毎年度評価とほぼ同様の内容である。令和3（2021）年度は、第8期から第11期採用教員9名について中間評価を実施した。

中間評価の目的：

コンソーシアム教員としての任期の半分を過ぎるにあたり、これまでの教員としての活動状況を元に、コンソーシアムとしての評価を行う。また、各教員のテニユア審査に向けた進捗状況に照らし合わせて、必要に応じて本人に助言を与え、また所属機関及びコンソーシアム等各組織に評価結果を伝えることで、コンソーシアム教員のより良いキャリアに資することを旨とする。

評価の実施：

コンソーシアム実行委員会に評価部会を設置し、実施する。評価部会は、実行委員長が必要と認める者、3名以上で構成する。

評価の方法：

コンソーシアム教員が作成した報告書及び事務局が作成したコンソーシアムでの活動実績等を元に、評価部会において面談を実施し評価を行う。

評価項目は、研究、教育、外部資金獲得、社会貢献、コンソーシアム活動の各項目及び総合評価とする。コンソーシアム活動については、外部との共同研究のほか教員研修への参加状況、その他コンソーシアム事業への積極的な関与等をもとに評価する。

評価結果の取扱い：

コンソーシアム実行委員長が各評価委員の評価結果を取りまとめる。その評価結果を、コンソーシアム教員、各所属組織長及びコンソーシアム運営協議会にそれぞれ通知、報告を行う。

#### ◆最終評価

コンソーシアム教員に対して、着任から4年半後までの間に、最終評価を以下のとおり実施している。教員に求めている情報及び基本的な流れは、毎年度評価とほぼ同様の内容である。令和3（2021）年度は、第4期1名、第7期4名について最終評価を実施した。

最終評価の目的：

テニュアトラック期間が満了するまでに、コンソーシアム教員の活動状況や研究実績等を評価し、テニュアを付与するかどうかの最終審査を実施する。なお、最終審査の時期は、所属（配属）先の規則等に定められた時期によるものとする。

評価の実施：

コンソーシアム実行委員会に評価部会を設置し、実施する。評価部会は、実行委員長が必要と認める者、3名以上で構成する。

評価の方法：

コンソーシアム教員が作成した報告書及び事務局が作成したコンソーシアムでの活動実績等を元に、評価部会において面談を実施し評価を行う。

評価項目は、研究、教育、外部資金獲得、社会貢献、コンソーシアム活動の各項目及び総合評価とする。コンソーシアム活動については、外部との共同研究のほか教員研修への参加状況、その他コンソーシアム事業への積極的な関与等をもとに評価する。

評価の取扱い：

コンソーシアム実行委員長が各評価委員の評価結果を取りまとめる。その評価結果を、コンソーシアム教員、各所属組織長及びコンソーシアム運営協議会にそれぞれ通知、報告を行う。



<令和3（2021）年度実績（14期・15期）>

【募集期間】令和3（2021）年4月1日（木）～令和3（2021）年11月30日（火）

【募集対象】

（代表実施機関）広島大学

（共同実施機関）山口大学，徳島大学

（連携機関）

岡山大学，島根大学，鳥取大学，愛媛大学，香川大学，高知大学，鳴門教育大学，岐阜大学，国立遺伝学研究所，県立広島大学，高知工科大学，広島市立大学，広島国際大学，立命館大学に在籍中の博士課程（博士課程前期を除く。）の学生あるいは博士課程（博士課程前期を除く。）修了後5年程度以内の任期付研究者。

令和3（2021）年度 第14期派遣者 ※学年は派遣時

	所属		性別	国籍	学年	派遣先	派遣期間	審査状況
1	広島大学	人間社会科学 研究科	女	マレー シア	D1	UNITAR 広島事務所	2021/9/1 ～ 2022/1/31	広島大学 (2021/9/1)
2	広島大学	人間社会科学 研究科	女	中国	D1	公益財団法人 平山郁夫美術館	2021/9/6 ～ 2021/10/8	広島大学 (2021/8/2)
3	広島大学	人間社会科学 研究科	女	中国	D2	公益財団法人 平山郁夫美術館	2021/9/6 ～ 2021/10/8	広島大学 (2021/8/2)
4	広島大学	先進理工系科 学研究科	女	日本	D2	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	2021/9/27 ～ 2022/3/31	広島大学 (2021/8/17)

令和3（2021）年度 第15期派遣者 ※学年は派遣時

	所属		性別	国籍	学年	派遣先	派遣期間	審査状況
1	広島大学	人間社会科学 研究科	女	中国	D1	UNITAR 広島事務所	2021/11/1 ～ 2022/3/31	広島大学 (2021/11/1)

## 4-2. 未来博士3分間コンペティション

未来博士3分間コンペティションは、博士課程後期学生が3分間の限られた時間内に自身の研究のビジョンと魅力を分かりやすく伝えるスピーチ大会である。大会を通して、自身のコミュニケーション力やアピール力の向上を図るとともに、社会における博士人材と博士研究に対する理解を広めることを目的としている。(H27(2015)年度～R3(2021)年度 計7回)

### 未来博士3分間コンペティション実績



- ◎2015年大会(平成27年11月1日 リーガロイヤルホテル広島)  
発表者: 7大学37人 聴衆: 約300人(高校生含む)
- ◎2016年大会(平成28年9月24日 東広島芸術文化ホールくらら)  
発表者: 10大学38人 聴衆: 約240人(高校生含む)  
※この年から英語部門も開催
- ◎2017年大会(平成29年11月25日 東広島芸術文化ホールくらら)  
発表者: 10大学36人 聴衆: 約260人(高校生含む)
- ◎2018年大会(平成30年9月15日 東広島芸術文化ホールくらら)  
発表者: 9大学31人 聴衆: 約280人(高校生含む)
- ◎2019年大会(令和元年9月14日 東広島芸術文化ホールくらら)  
発表者: 6大学25人 聴衆: 約270人(高校生含む)
- ◎2020年大会(令和2年11月21日 オンライン開催)  
発表者: 12大学20人  
応募数: 24大学62件  
聴衆(Zoom参加者): 495人(日・英両部門合計)
- ◎2021年大会(令和3年11月3日 オンライン開催)  
発表者: 13大学22人  
応募数: 38大学230件  
聴衆(Zoom参加者): 346人(日・英両部門合計)

### <令和3(2021)年度実績>

#### 「未来博士3分間コンペティション2021」

博士課程後期の学生が、3分間の限られた時間内に自身の研究ビジョンや魅力を、中学生、高校生を含む一般聴衆にもわかるように伝える。学生のコミュニケーション力の向上を図ると同時に社会における博士人材と博士研究に対する理解の向上につなげる。2021年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインで開催。

【日 時】令和3(2021)年11月3日(水・祝)

英語部門: 10:30~12:30

日本語部門: 14:30~16:30

【開催方法】オンライン

【参加者】英語部門: 204人

日本語部門: 142人

【英語部門プログラム】

10:30 英語部門オープニング

開会挨拶 越智 光夫(広島大学長)

来賓挨拶 Alastair McEwan(豪州クイーンズランド大学 副総長)

10:40 博士課程学生による3分間プレゼンテーション

11:40 博士課程学生によるパネルトーク

モデレーター: 今羽右左 デイヴィッド 甫

(京都大学 総務部 広報課 国際広報室 室長)





12:15 クロージング

表彰式

閉会挨拶 原山 優子

(理化学研究所 理事 / 前 総合科学技術 イノベーション会議常勤議員)



【日本語部門プログラム】

14:30 日本語部門オープニング

開会挨拶 越智 光夫 (広島大学長)

来賓挨拶 Alastair McEwan (豪州クイーンズランド大学 副総長)

14:40 博士課程学生による3分間プレゼンテーション

15:40 博士課程学生によるパネルトーク

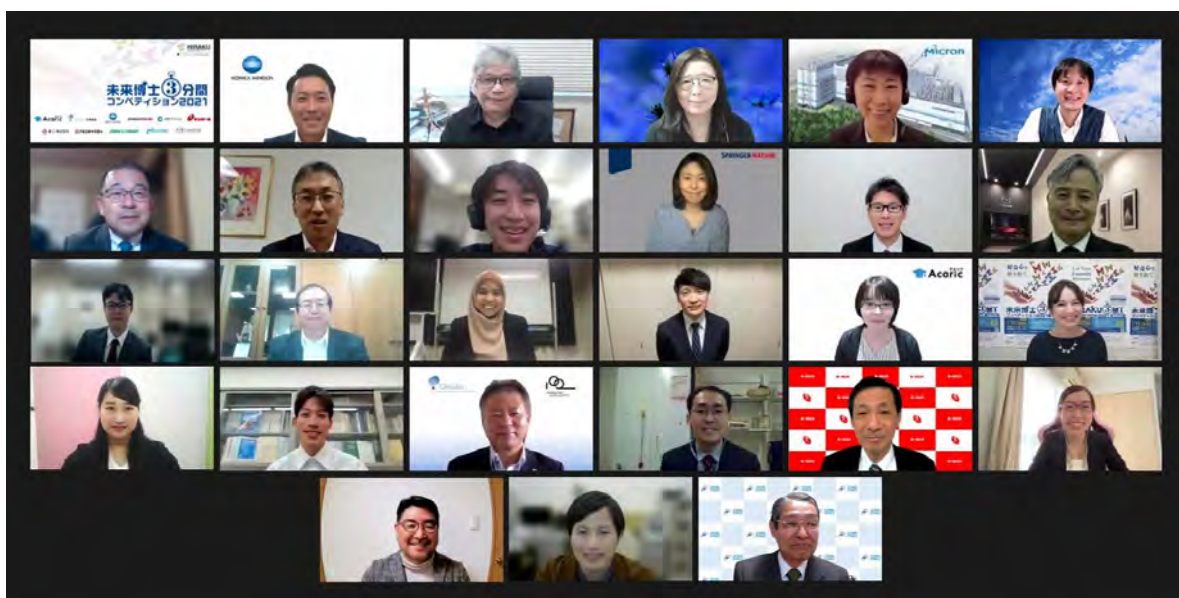
モデレーター: 本田 隆行 (科学コミュニケーター)

16:15 クロージング

表彰式

閉会挨拶 山本 恵司

((国研)科学技術振興機構 プログラム主管 / 千葉大学 名誉教授)



【審査結果（英語部門）】

賞名	受賞者		タイトル
最優秀賞	東京大学	島村 勇徳	Atomic-scale “chest X-rays” with ultrasmall mirrors
優秀賞	金沢大学	Daniel LE	In Search of Home: The return of the Vietnamese Westerners
オーディエンス賞	山口大学	LITA RAKHMA YUSTINASARI	A Mysterious Messenger in Placenta Break Down the Problems in Preeclampsia: Possible?

特別協賛企業動画賞（英語部門） ※事前投稿動画により審査

賞名	受賞者		タイトル
Acaric Award	京都大学	Srishti TRIPATHI	Grief across cultures: Are there any differences?
Otsuka Award	日本体育大学	Eunbin JEE	Acetaldehyde dehydrogenase 2 (ALDH2): a factor of regulating Asian skeletal muscle mass?
Springer Nature Award	山口大学	LITA RAKHMA YUSTINASARI	A Mysterious Messenger in Placenta Break Down the Problems in Preeclampsia: Possible?

【審査結果（日本語部門）】

賞名	受賞者		タイトル
最優秀賞	広島大学	浅尾 友里愛	お口の健康から子どもたちの未来を育む
優秀賞	徳島大学	渡辺 智貴	超解像観察に向けた金属ナノ構造の3次元配置技術
オーディエンス賞	広島大学	Mutia KUSUMAWATI	ほめ言葉を通じた異文化理解

特別協賛企業動画賞（日本語部門） ※事前投稿動画により審査

賞名	受賞者		タイトル
アカリク動画賞	東京都立大学	柳沢 直也	泡沫の崩壊を解明！～泡沫の安定性制御への指針～
大塚動画賞	東京大学	竹内 雅樹	失われた声を取り戻すデバイス Syrinx
コニカミノルタ動画賞	山口大学	伊藤 賢治	クラウド型 再生医療細胞品質管理システム
<i>Nature</i> ダイジェスト動画賞	広島大学	浅尾 友里愛	お口の健康から子どもたちの未来を育む
中外テクノス動画賞	広島大学	矢野 諒子	貧栄養化と強光が植物プランクトンの種遷移を引き起こす！？
テンパール工業動画賞	広島大学	片山 春菜	電気回路の中に宇宙をつくる
戸田工業動画賞	大阪府立大学	濱田 拓哉	直接型グリセリン燃料電池のためのアノード触媒の開発
JSW 日本製鋼所動画賞	徳島大学	渡辺 智貴	超解像観察に向けた金属ナノ構造の3次元配置技術
マイクロン動画賞	広島大学	片山 春菜	電気回路の中に宇宙をつくる
マツダ動画賞	広島大学	阪井 浩人	手先の動きから簡単に認知機能検査！

### 4-3. 課題提案型ワークショップ

若手研究者と社会をつなぎ、企業や地域社会の課題解決貢献を目指すマッチング事業。協力企業から提供された課題に基づきワークショップを開催。広島大学大学院共通科目「イノベーション演習」の一環として実施してきた。

#### 課題提案型ワークショップ実績

年度	開催日	課題提案企業・団体
2016	6月2日	(株)イズミ、シグマ(株)、武田薬品工業(株)、日本IBM(株)、日本たばこ産業(株)、広島県、鳥取県
2017	10月13日～12月15日<計5回>	(株)ヒロツク、(株)トイロ
2018	10月10日～12月12日<計6回>	(株)ラックス、(株)プランニングサプライ、(株)小泉新聞舗
2019	10月2日～11月27日 <計8回>	(株)ヒロツク
2020	10月7日～11月25日 <計8回>	(株)JT広島支店、(株)バク宙
2021	10月6日～11月24日 <計8回>	大学発ベンチャー(電動アシスト自転車シェアリング)



#### <令和3(2021)年度実績>

##### 「第6回課題提案型ワークショップ」

受講者内でチームを組み、企業から提供された課題の解決策についての討論など、グループワークを中心とした演習を行う。令和3年度のワークショップでは、大学発スタートアップとして事業展開を目指す、電動アシスト自転車シェアリングサービス企業を提案企業とし、西条酒蔵通りへの若者誘致を課題として取り組んだ。フィールドワークや検討ワークショップを通し、最終的に課題提案企業に解決策を提案した。

広島大学大学院共通科目「イノベーション演習」の一環として行い、履修生11名が、企業参加者と交流しながら英語でワークショップを進めた。コロナ禍で入国できない留学生のために完全オンラインで実施し、アフリカ、欧州、アジア各地から参加。酒蔵通りからオンラインでライブ中継するなど、遠隔でのフィールドワークに挑戦した。



#### ◆スケジュール

第1回	オリエンテーション	10月6日(水)	14:35-17:50
第2回	チーム編成/チームビルディング	10月13日(水)	14:35-17:50
第3回	バーチャルフィールドワーク	10月20日(水)	14:35-17:50
第4回	インタビュー/プロトタイプ作成	10月27日(水)	14:35-17:50
第5回	インタビュー/プロトタイプ作成	11月1日(月)	14:35-17:50
第6回	インタビュー/プロトタイプ作成	11月10日(水)	14:35-17:50
第7回	検討ワークショップ/発表準備	11月17日(水)	14:35-17:50
第8回	成果発表会/振り返り	11月24日(水)	14:35-17:50

#### ◆会場

全てZoomによるオンライン実施。

#### 4-4. コンソーシアム人材セミナー

コンソーシアム人材セミナーは「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の取組の一環および広島大学「大学院共通科目（高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント）」として開催してきた。

セミナーは、「グローバル化と科学技術の進展に伴い、社会における人材ニーズも時代とともに変化している中、多様な業界の関係者や職業に従事されている方々からの講義やディスカッションを通じて、研究経験を有する専門性の高い人材が活躍できるキャリアの選択肢と必要な能力や資質等を理解する」ことを目的とし、様々な業界でのキャリアに焦点をあて、大学院での研究経験を活かしつつ新たなキャリアに挑戦する意義や魅力について紹介する。

HIRAKU 2021年度 コンソーシアム人材セミナー オンラインセミナー開催案内

～ 自らの強みを生かし、定評ある道を長続きさせるためのキャリアデザインを学ぶ ～

1 開講目的 2 講師陣 3 効果

2021年度1～3月

6/19(月)14:35～16:05	業界への就職の現状を知る	神中俊明氏
6/18(日)14:35～16:05	アカデミックキャリアへの旅支度	山口陽子氏 米陀正英氏
6/23(金)14:35～16:05	JREC-IN Portal を用いたキャリアデザイン～キャリアパスの探索方法	小知和裕美氏 郷田秀樹氏 吉澤剛氏

#### コンソーシアム人材セミナー実績（2014～2021年度）

年度	開催回	セミナー回数 (うち広大、山大、 徳大)	参加者 延べ人数
2014	第 1～3 回	3 回(1,1,1)	109
2015	第 4～17 回	14 回(9,2,3)	646
2016	第 18～35 回	18 回(13,2,3)	713
2017	第 36～52 回	17 回(12,1,4)	621
2018	第 53～72 回	20 回(16,2,2)	960
2019	第 73～92 回	20 回(16,1,3)	692
2020	第 93～112 回	20 回(16,2,2)	823
2021	第 113～134 回	22 回(16,3,3)	972

\* 第 92 回（徳大）は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止

#### コンソーシアム内ライブ配信



第 40 回セミナー



第 56 回セミナー

#### <令和3（2021）年度実績>

回	開催地	日程	講演テーマ	講師
第 113 回	広島	令和 3(2021)年 6 月 9 日(水) 14:35～16:05	産業界への就職の現状を知る	神中 俊明 氏 株式会社アカリク
第 114 回	広島	令和 3(2021)年 6 月 16 日(水) 14:35～16:05	・アカデミックキャリアへの旅支度 ・JREC-IN Portal を用いたキャリアデザイン～キャリアパスの探索方法	山口 陽子 氏 米陀 正英 氏 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)
第 115 回	広島	令和 3(2021)年 6 月 23 日(水) 14:35～16:05	官公庁向けシンクタンク・コンサルティングとは？～持続可能なより良い社会に向けて～	小知和 裕美 氏 郷田 秀樹 氏 吉澤 剛 氏 EY新日本有限責任監査法人

回	開催地	日程	講演テーマ	講師
第 116 回	広島	令和 3(2021)年 6月 30 日(水) 14:35～16:05	企業研究所におけるキャリア	吉田 英司 氏 株式会社富士通 ICT システム研究所
第 117 回	広島	令和 3(2021)年 7月 7 日(水) 14:35～16:05	イノベーションのための多様な キャリア形成～統合型人材の ススメ～	北 弘志 氏 コニカミノルタ株式会社
第 118 回	広島	令和 3(2021)年 7月 14 日(水) 14:35～16:05	博士が起業すると？	平賀 督基 氏 株式会社モルフォ
第 119 回	広島	令和 3(2021)年 7月 28 日(水) 14:35～16:05	海外で研究者になるために必要 なこと	前田 拓也 氏 Cornell University (米国) 日本学術振興会 (JSPS) 海外特別研究員
第 120 回	広島	令和 3(2021)年 8月 4 日(水) 14:35～16:05	長期インターンシップからの着 地点～博士人材に必要な柔軟 性～	安原 大樹 氏 マイクロメモリ ジャパン合同会社
第 121 回	広島	令和 3(2021)年 12月 1 日(水) 14:35～16:05	博士課程学生の継続的なキャ リア開発	神中 俊明 氏 株式会社アカリク
第 122 回	広島	令和 3(2021)年 12月 8 日(水) 14:35～16:05	アカデミックでのキャリアを活か す	吉澤 剛 氏 EY新日本有限責任監査法人
第 123 回	広島	令和 3(2021)年 12月 15 日(水) 14:35～16:05	企業の研究所で基礎研究畑を 歩いてみて・・・	森口 晃治 氏 日本製鉄株式会社
第 124 回	広島	令和 3(2021)年 12月 22 日(水) 14:35～16:05	製薬企業における博士人材	大澤 浩一 氏 大正製薬株式会社
第 125 回	広島	令和 4(2022)年 1月 12 日(水) 14:35～16:05	多様なキャリアパスを知る～ア カデミックから企業へ～	米谷 悠 氏 フューチャー株式会社
第 126 回	広島	令和 4(2022)年 1月 19 日(水) 14:35～16:05	海外の大学、国内の研究機関 でのキャリアを活かす	郷田 秀樹 氏 EY新日本有限責任監査法人
第 127 回	広島	令和 4(2022)年 1月 26 日(水) 14:35～16:05	博士取得2年目の研究者が話 す今までとこれから	林 兼輔 氏 国立研究開発法人 物質・材料研究機構 (NIMS)
第 128 回	広島	令和 4(2022)年 2月 2 日(水) 14:35～16:05	博士が起業すると？	平賀 督基 氏 株式会社モルフォ

回	開催地	日程	講演テーマ	講師
第 129 回	山口	令和 3(2021)年 6 月 3 日(木) 12:50～14:20	企業における博士の価値と役割	岡本 篤志 氏 日立金属株式会社
第 130 回	徳島	令和 3(2021)年 7 月 27 日(木) 8:40～10:10	ヘッドハンターが語る!“自分のキャリアの始め方、作り方。”	谷奥 恵美子 氏 K2 Partnering Solutions 株式会社
第 131 回	徳島	令和 3(2021)年 8 月 3 日(火) 8:40～10:10	Tiktok 採用 Head に聞く、インターンシップのこと、面接のこと、キャリアのこと。	谷奥 恵美子 氏 K2 Partnering Solutions 株式会社 土岐 素子 氏 ByteDance KK Tiktok 北岡 和義 氏 徳島大学教養教育院 准教授
第 132 回	山口	令和 3(2021)年 12 月 23 日(木) 12:50～14:20	企業における研究と必要とされる人材(1 回目)	北山 健司 氏 株式会社ダイセル
第 133 回	山口	令和 3(2021)年 12 月 24 日(金) 12:50～14:20	企業における研究と必要とされる人材(2 回目)	北山 健司 氏 株式会社ダイセル
第 134 回	徳島	令和 4(2022)年 3 月 3 日(木) 18:00～19:30	ライフサイエンスアントレプレナーシップ:よくある落とし穴と誤解	Dr. Oded Ben-Joseph, Ph.D., MBA 米国 Outcome Capital 社 代表取締役

◆第 113 回コンソーシアム人材セミナー（広島）： 株式会社アカリク

【開催方法】 オンライン（Zoom）

【参加者】 47人

【開催報告】

講師の神中氏は、理学博士を取得後、研究員として大学や研究所で働いてこられました。現在は、(株)アカリクにて大学院生をはじめとする対研究者のキャリア面談や法人営業に従事する企業人としての顔を持つ一方、研究員としてもご活躍中です。

セミナーでは、はじめに、一般社会から見た大学院生についてお話しいただきました。少数派かつ局在しているため、無理解と向き合わなければいけないこと、また大学院生もそのことを理解し、どのように自己表現すべきなのか考える必要があります。

後半部では、修了後の就職事情についてデータを概観しながら、大学院生が抱えている懸念を考えていきました。「博士は行き先がない」とは、本当にそうなのでしょう。専門分野に特化した能力は、「分解・一般化しても、研究生活を経たからこそ秀でた、社会で求められている高度な技能」です。その中から選んだ好きなことが仕事になるのだ、と職業選択の視野を広げていただきました。

セミナー全体を通して、神中氏自身がポスドク・企業転職を経たからこそ語られる言葉が多く、聴き手にとって研究や働くことについて前向きに捉え、自信を持てる機会となりました。

◆第114回コンソーシアム人材セミナー（広島）：国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)

【開催方法】 オンライン（Zoom）

【参加者】 51人

【開催報告】

山口氏は医学博士を取得後、研究員として国内外の研究所で勤務されたご経験を持ち、米陀氏はJST入構後、研究ファンド構築システムや研究者向けキャリア支援ポータルサイトの運用に従事されるなど、両名共にアカデミックキャリアに精通されています。

セミナー前半では、山口氏より、日本のアカデミアについてお話しいただきました。法改正により変遷があるものの「自主自律文化」と「同僚性」が特徴としてあること、そして若手研究者への支援事業が、昨今推進され始めたことなどを示していただきました。また、研究者は自己と向き合うことも必要で、自分のキャリアアンカーを知ること、そして研究者としての自分の能力を把握することも大切であるとお話しいただきました。

後半は、米陀氏より、アカデミアへ進むための実践的な話題が提供されました。まずはresearchmapなどを活用し自分をプロパガンダしていくことです。そして常にアンテナを張り、JREC-IN Portalなどから活躍の場を見つけ挑戦することです。

質疑応答の時間では多くの率直な質問が投げかけられ、「業績が出やすい研究を選択すべきか」という学生からの質問に対しては、「研究の裏に思想や哲学があるものが面白いのだから、自分が楽しいと思う研究をしてほしい」と、山口氏より聴講者へメッセージもありました。

◆第115回コンソーシアム人材セミナー（広島）：EY新日本有限責任監査法人

【開催方法】 オンライン（Zoom）

【参加者】 40人

【開催報告】

小知和氏はシステムズバイオロジー、郷田氏は脳下垂体に関する研究、吉澤氏は科学技術政策の分野で、博士号を取得され、各々が国内外での研究職を経て、現在はEY新日本有限責任監査法人にて政策課題の解決に向けたコンサルティングに従事されています。

セミナー冒頭では、EYグループのPurpose「より良い社会の構築を目指して」のご説明を含めた法人紹介をしていただき、その後、各講師のキャリアについてご紹介いただきました。

小知和氏には、アカデミア時代は自分の興味関心という個の視点にあったこと、そして官公庁入庁からセクターや社会へと視点が広がったと、意識の変化についてお話しいただきました。郷田氏は、理系という観点からアカデミアと企業における研究職について比較されました。業務フローは一見似ているようですが、資金確保からテーマ設定、関わる人々など質的に異なる面があります。そして、科学を別の視点から見たいと大学院で文転をした吉澤氏より、アカデミア(文系)とシンクタンクの違いについてお話しいただきました。

最後に、「大切に考えているMy Purposeと今後のありたい姿」について、講師を交えたグループディスカッションを行い、各受講者が自分のキャリアについて考える機会となりました。

◆第116回コンソーシアム人材セミナー（広島）：富士通株式会社

【開催方法】 オンライン（Zoom）

【参加者】 37人

【開催報告】

吉田氏は、修士号取得後に株式会社富士通研究所(現：富士通株式会社)へ入社し、メモリ

の共同開発事業へ従事され、また海外で客員研究員としてキャリアを積まれた後、博士課程の社会人コースにて博士(工学)を取得されています。

セミナーでは、はじめに、世の中の課題をICTで解決する同社についてご紹介いただきました。多業種での豊富なICT構築実績から、今日求められるDXビジネスを実現する会社です。同社におけるキャリア形成の考え方は、「自分でデザインする」ことです。必要な学びの基盤やキャリア選択の機会が整えられ、自ら選び進んでいくことができます。

それから、吉田氏自身の歩んでこられたキャリアパスについてもご紹介いただきました。社内制度を活用した海外留学を経験され、修士と博士の差や、今後の研究員としての更なる飛躍を考え、博士課程に進まれました。まさにご自身のキャリアを自らデザインすることを体現されていらっしゃると思いました。

最後に、博士は新しい領域を開拓した経験があるとみなされ、研究所では即戦力として期待される、とお話いただきました。そして、未来を切り開く研究を進める心構えについて、「社会を変える研究になると信じる」という強い信念が大事であるとメッセージをいただきました。

#### ◆第117回コンソーシアム人材セミナー（広島）：コニカミノルタ株式会社

【開催方法】 オンライン（Zoom）

【参加者】 35人

【開催報告】

北氏は修士(工学)取得後、小西六写真工業(現コニカミノルタ)株式会社に入社し技術開発分野で功績を残されてきました。海外企業を含むプロジェクト統括や客員教授など責任あるポジションを務められる傍ら、社会人コースにて博士(理学)を取得されています。現在は同社の技術フェローであるとともに、広島大学の客員教授も兼任されています。

セミナーでは、はじめに、Society5.0において技術・研究開発の即時性・高速化が求められていることをお話しいただきました。続いて、産学官または企業連携が進む中で組織という壁はなくなりつつあり、個人力の高さがイノベーションを起こす要であり、そして、研究者として持つべき思考の在り方としては、従来型の演繹的から帰納的推論がDXに必要であり、アブダクションを減らすことが第4次産業革命を切り拓くのだと、北氏は話されました。組織ではなく「共感」を高めることが人を繋ぎ、事業を継いでいくのだと、ご自身の経験を振り返りお話しいただきました。

セミナー全体を通して、一企業の立場を超えて、これからの社会を切り拓く企業人・産業人としての在り方を私たちに説かれているようでした。最後に、「人生の在り方の起点」についてグループディスカッションを行い、受講生は理解を深めました。

#### ◆第118回コンソーシアム人材セミナー（広島）：株式会社モルフォ

【開催方法】 オンライン（Zoom）

【参加者】 32人

【開催報告】

平賀氏は博士(理学)取得後、一般企業への就職を経て、2004年に株式会社モルフォを創業されました。2011年には東証マザーズにIPO、現在は100名を超えるエンジニアと共に「全てのカメラに知能をもたせる」ことを目指して事業を推進されています。

セミナーでは、はじめに、同社が世界に先駆けて実現したことをお話しいただきました。ソフトウェアでの手ぶれ補正、HDR、パノラマ撮影、またクラウド上で写真を自動分類する画像認識技術など、日常生活の様々なところで見ることができます。



次に、起業家に大切な資質について、ご自身のご経験を踏まえお話しいただきました。大学院生時代に、自作のものが世の中に出る面白さを感じ、多くの人に使ってもらえるものを作りたいという想いから起業を選択したが、思惑が違ったこと。IPO後の急速な業績落込みにより事業の方向性の見直しと同時に組織再編を迫られたこと。しかし、それらを乗り越え生き残れたのは、博士課程で養った自ら課題設定・解決するという自走する力と、「変化できる者」であったからだと平賀氏は言われます。

質疑応答の時間では、「就職不安」を抱える学生に対して、「根拠のない自信を持つこと、ポジティブシンキングができる人は、はじめの一步を踏み出す強さがあり、変化にも柔軟に対応できる」と、姿勢の在り方についてお話しいただきました。

◆第119回コンソーシアム人材セミナー（広島）：日本学術振興会 海外特別研究員(Cornell University)

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】39人

【開催報告】

前田氏は、1年短縮して課程を修了し博士(工学)を取得され、日本学術振興会海外特別研究員としてコーネル大学で勤務されています。

セミナーではまず、博士の進路を概観し、差別化して自分の価値を高める必要性についてお話しいただきました。前田氏は博士課程を振り返り、自分の能力を駆使して未知の自然科学と向き合う研究の面白さに触れたといいます。

そして世の中の役に立つ研究、これまでにない機能を持ったデバイスを創りたいという想いを実現するため、海外を選ばれました。迷いはあり、正解のない問いだからこそ、「十分に情報を収集し、メリット/デメリットを客観的に並べ、主観的に評価」した上で、意志決定をしたそうです。「行ってみないと分からない。だから行ってみよう！」と。

次に、海外に行くために考えなければいけないこととして、金銭的な事柄、留学先の見つけ方、ビザのこと、モチベーションの考え方を話しいただきました。

必要な知識・能力は時代と共に変わりゆくものですが、経験、思考、人脈は代替不可能なものであり、それを積み重ねる毎に研究者として深みができるのではと、キャリアを進める上で重要な視点を投げかけられました。

セミナー全体を通して、海外での研究者を選択することの意義や前田氏がポスドクとしてキャリアをスタートさせた今の率直な気持ちをお話しいただき、広い視野で進路を考える契機となりました。

◆第120回コンソーシアム人材セミナー（広島）：マイクロンメモリ ジャパン合同会社

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】33人

【開催報告】

安原氏は、在学中に長期インターンシップをご経験され、博士(理学)取得後、自動車部品メーカーに就職、現在はマイクロンメモリ ジャパン合同会社にて生産技術エンジニアとして活躍されています。

セミナーでは、はじめに、同社で長期インターンシップや就職等の窓口を担当されている小倉氏から東広島をはじめ世界に13の開発・生産拠点を持つ世界的半導体メモリメーカーである同社についてお話しいただきました。

次に、安原氏よりこれまでのキャリアを振り返り博士人材に必要な柔軟性についてお話しいただきました。化学専攻の安原氏は、就職の視野を広げようと加工食品メーカーでの

長期インターンシップに取り組み、量産品を作ることの大変さを実感したと言います。大学の実験室で「つくる」と、企業の製品として「つくる」ことは異なり、後者では協調性と柔軟性が必要であったと言います。また、長期インターンシップのメリットとして、マルチタスクの練習になったことや業界の繋がりを体感として理解できたことを挙げられました。長期インターンシップでの体験が、転職の早期決断に活かされたとも言います。

また安原氏は博士人材に求められる能力は、専門領域な知識の強さに加え、柔軟性だと言います。柔軟性を身につけるに至ったのは好奇心だと言います。専門以外のことを本気でやってみることが柔軟性を養い、また新しい職業機会に出会うことに繋がると、メッセージをいただきました。

◆第121回コンソーシアム人材セミナー（広島）：株式会社アカリク

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】30人

【開催報告】

講師の神中氏は、理学博士を取得後、大学や研究所での博士研究員を経て、現在は、(株)アカリクにて大学院生や研究者へのキャリアアドバイザーとしてご活躍されています。

セミナーでは、「博士課程学生の継続的なキャリア開発」と題して、博士課程学生が産業界に就職活動するうえで気を付けることについて、具体的な事例やご自身の経験を踏まえ、お話しいただきました。

(株)アカリクが最近取り組んでいるジョブ型研究インターンシップ推進事業の事務局、JREC-INとの連携、大学・学会でのキャリアセミナーの実施等についての紹介に続いて、博士課程学生の産業界での就職活動について説明とアドバイスがありました。

産業界では博士号取得者は希少な存在であること、コロナ禍により新卒面接開始時期が前倒しになっていること、機械・電子、IT系等では企業ニーズが研究者分布を上回っていることなどのお話がありました。

就職活動では、研究で培われる能力は社会でも活用できること、得意なものを組み合わせて業界や職種を検討すること、譲れないことは何かを考えることなどのアドバイスがありました。

面接では、相手が何を確認したいかを考えること、研究内容は大学1年生に伝わる言葉・レベルでわかりやすく説明すること、就職理由は前向きな動機を用意することなどについて話されました。

また、専門外に就職した心理学博士、人文科学博士、哲学博士、国際関係博士などの事例紹介を踏まえ、視野狭窄に気を付けるようアドバイスがありました。

講義後、「博士が企業就職する上で『学術的な専門性』は重要か？」をテーマに、グループディスカッションを行いました。

◆第122回コンソーシアム人材セミナー（広島）：EY新日本有限責任監査法人

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】24人

【開催報告】

吉澤氏は、大学院進学時に文転し、東京大学大学院総合文化研究科にて修士号取得後に、民間のシンクタンクで環境・情報分野の調査研究に従事されました。業務を通して科学技術政策に触れ、「もう少し自分の専門性をもちたい」という思いから、イギリスのサセックス大学大学院へ進まれ、2008年に科学技術政策博士を取得されました。その後、現職のEY新

日本有限責任監査法人へ就職するまでの約10年間は、国内大学各所の特任講師や准教授等として、そして海外大学のポスドク(リサーチフェロー)として、「科学技術の市民関与」や「科学技術と社会に関する社会的・倫理的な問題」について考えてこられました。

今回のセミナーでは、EY新日本有限責任監査法人や、国際公共チームが提供する教育・科学技術に関するコンサルサービスについてご紹介いただいたうえで、吉澤氏が歩んでこられた上記のような多彩なキャリアパスや転機について、具体的にお話しいただきました。そしてご自身の軌跡を振り返り、一貫して「未来志向で科学技術と社会・政策をつなぐ」ことに尽力してきたこと、シンクタンクに属しながらも副業でNPO法人等と常に関わってきたこと等もお話しいただきました。

最後に、「将来、本業の他に、どのようなところで、どのようなことをして働きたいか」という問いが講師から学生へ投げかけられ、各々が考えを深める時間となりました。

◆第123回コンソーシアム人材セミナー（広島）：日本製鉄株式会社

【開催方法】 オンライン（Zoom）

【参加者】 26人

【開催報告】

森口氏は修士(理論固体物性)取得後、住友金属工業株式会社(現日本製鉄株式会社)に入社し、鉄鋼業の研究所で、計算機シミュレーションを使った基礎研究畑を歩まれています。この間、十数本の論文を仕上げ、工学博士(論文博士)を取得されています。また、2018年度からは東北大学大学院 環境科学研究科の客員教授も兼任されています。

セミナーでは、最初に、研究開発拠点として3研究所と7ワークスラボを全国的に有し、鉄材料、製鉄プロセス、新材料・環境等の先端技術の研究を行っている同社について紹介がありました。また、鉄鋼業界について、成熟産業と思われがちだが圧倒的な安さと加工・リサイクルの優位性等から、今後も需要は伸び続けること、職業としてはあらゆる要素技術の集合体であり75%以上が材料系以外であること、鉄の永遠のテーマは「伸び」と「強さ(切れない)」の両立等の説明がありました。

次いで、森口氏のキャリアを踏まえたアドバイスとして、3つの研究開発フェーズ(基礎、応用、開発)のうち、何をしたいかを早めに見極めることの必要性、論文執筆の重要性、そして特許を重要なアウトプットに考えることを挙げられました。また、変化が大きく、近未来ですら予測できない現在では強いメンタルが必要であるとも話されました。

最後に、森口氏の入社した1991年以降、日本経済がいかに停滞しているかを説明のうへ、最近の日本の若者はスポーツ界等で世界的に活躍していることに着目し、昔の若者(親世代)と今の若者のどこが違うのか、大成功を収めている秘訣は何かをテーマにグループディスカッションを行いました。

◆第124回コンソーシアム人材セミナー（広島）：大正製薬株式会社

【開催方法】 オンライン（Zoom）

【参加者】 31人

【開催報告】

大澤氏は埼玉大学理学部を卒業後、大正製薬株式会社に研究職として入社、入社後、静岡県立大学で食品栄養科学博士を取得されています。

セミナーでは、まず、製薬企業は、研究・開発に多くの費用をかけている、景気に左右されにくい、社会的貢献度が高いので働き甲斐があり、その中で同社は、セルフメディケーション事業と医薬事業が両輪となっていることや、研究職、開発職、生産技術職等の業務内容についてご紹介いただきました。

また、転機となった部署内異動や国内大学出向、海外への試験委託を例に、「新試験法の開発」、「先生とのネットワーク構築」、「海外知見の収集」に取り組み、マインドチェンジをしながら現在に繋がっていること、そして、苦手な対人コミュニケーション克服のために努力した経験等も挙げながら、これまでのキャリアパスをご紹介いただきました。

セミナー後半では、同社が博士人材に期待することを、修士卒と博士卒とで比較しながら示していただき、特に博士卒には「専門性、知識、経験則、勘、応用力」や「マネジメント力」に期待しているところの説明がありました。

最後に、「現在習得中の知識、スキル、経験以外に、どんなことで社会人として貢献、活躍できるか」をテーマに参加者間でディスカッションを行いました。

#### ◆第125回コンソーシアム人材セミナー(広島): フューチャー株式会社

【開催方法】 オンライン (Zoom)

【参加者】 28人

【開催報告】

米谷氏は筑波大学大学院にて社会工学博士を取得後、文部科学省 科学技術・学術政策研究所の研究者として政府統計、各種調査・分析を担当、現在はフューチャー株式会社にてデータ分析をされています。

セミナーでは、まず、フューチャー株式会社のITコンサルティング&サービス事業とビジネスイノベーション事業の特徴等についてご説明がありました。

続いて、ご自身の経歴のご紹介があり、大学、大学院、社会人それぞれの時代について当時の選択の考えと現時点での振り返りのお話がありました。進路選択が「やりたいこと」「なりたいこと」よりも前所属で得たものに大きく影響されていたが、現時点で思えば、前所属までに得たことは「やりたいこと」「なりたいこと」を実現するための一つのツールだと話されました。

また、進路選択は「やりたいこと」「なりたいこと」がどの組織で実現できそうかを検討すべきではないか、イノベーションの源泉は「課題」であり技術や専門性はイノベーション実現のためのツールではないか、とメッセージがありました。

最後に、自分の「やりたいこと」「なりたいこと」から次の所属(社会人等)を想像する、をテーマに全体でディスカッションを行いました。

#### ◆第126回コンソーシアム人材セミナー(広島): EY新日本有限責任監査法人

【開催方法】 オンライン (Zoom)

【参加者】 27人

【開催報告】

郷田氏は埼玉大学大学院 理工学研究科にて博士を取得されています。在学中、米国Tulane大学に留学されています、修了後、理化学研究所、医療機器メーカーを経て、現在はEY新日本有限責任監査法人にてマネージャーとしてご活躍されています。

セミナーでは、まず、EY新日本有限責任監査法人のパーパス(より良い社会の構築を目指す)や業務概要(公的機関への監査、課題解決に向けた支援サービス等)についてご説明がありました。

続いて、ご自身の経歴を踏まえ、アカデミアと企業の違いを、研究・開発開始時、研究・開発中、終了時毎に、特に、「テーマ設定」と「関わる人々」の観点から話されました。

テーマ設定時に、アカデミアでは論文のイントロダクションに準ずる内容、企業では事業企画書に準ずる内容が求められたこと、また、企業では社内の各部署(開発、営業、法務等)や

社外の関係者への説明が求められたことについて紹介がありました。加えて、課題解決の思考・プロセス(課題深堀⇒仮説⇒検証、次の課題発見)は共通しているとも話されました。また、企業は博士人材に、テーマ(開発課題)を専門家、かつ、自分事として推進する力やテーマ推進のための周囲巻き込み、協力を得る力を期待していると話されました。

最後に、自分の「Purpose」から考える自分の職業についてグループディスカッションを行い、その後、全員が順に発表し、郷田氏からそれぞれコメントがありました。

◆第127回コンソーシアム人材セミナー(広島): 国立研究開発法人 物質・材料研究機構

【開催方法】オンライン (Zoom)

【参加者】32人

【開催報告】

林氏は岐阜大学大学院で博士を取得されています。博士課程の時に、物質・材料研究機構(NIMS)で長期インターンシップに取り組み、それを契機に日本学術振興会(学振)PDとしてNIMS国際ナノアーキテクトゥクス研究拠点(MANA)に在籍、現在は長期出張でマサチューセッツ工科大学(MIT)材料科学工学科にて研究されています。

セミナーでは最初に、MANAは世界トップレベルの国際研究拠点、MITはQS世界大学ランキング9年連続1位、ノーベル賞受賞者数97人と職場紹介がありました。

安く、速く、省エネの磁気メモリを開発すべく日々頑張っていると話されました。研究に関連して、磁石について分かりやすく説明があり、「磁石にくっつくものは全部磁石である」と話されました。

博士取得後の就活に関して、ポスドクの実態やご自身の体験の紹介がありました。現在は学振PDとして自身がやりたい研究を、自身が望む環境でできているが、期限があるので、現実的には定年制の研究者を目指すことになると話されました。

長期インターンシップに取り組みられた経緯、取り組むことのメリット、デメリットについても話されました。

最後に、行ってみたいインターンシップ先で何を得たいかについて、全聴講者から発言を求め、林氏からそれぞれコメントがありました。

◆第128回コンソーシアム人材セミナー(広島): 株式会社モルフォ

【開催方法】オンライン (Zoom)

【参加者】29人

【開催報告】

平賀氏は東京大学大学院にて理学博士を取得、2002年IT企業に就職されましたが、2004年に最先端イメージングテクノロジーの会社株式会社モルフォを創業され、CEO兼CTOとしてご活躍されています。

セミナーでは、まず、同社が画像処理と画像認識技術ライセンスを有するエンジニア中心の技術者集団であり、世界中のスマートフォンカメラに技術が採用されていること、クラウドや車載カメラ、医療向けにも進出していること、画像処理技術と画像認識技術を用いて、「Internet of Vision」の実現を目指していることについて、具体的な例を示して話されました。

続いて、起業された経緯について、大学院時代にVFX制作活動に関わったことでビジネスに関心を持ったことや全国的に博士で大学教員になる数が少ないことなどから、最先端のイメージングのソフトウェアを自ら開発してビジネスをしたいという想いを具現化したと話されました。起業後、当初の思惑が外れ、売れるはずの静止画手振れ補正ソフトウェアがデジカメメーカーに相手にされなかったが、携帯電話向けに採用されたことを契機に順調に業績

を伸ばしたことで、東証マザーズにIPOした翌年の業績の落ち込みを海外展開、組織の再編で回復したこと、現在は米中貿易戦争や世界的な半導体不足により売上が減少しているが、事業活動の変革で対応していることなどを話されました。

最後に、今後の進路、起業への準備、起業した場合のハードルについて、全体でディスカッションを行いました。

#### ◆第129回コンソーシアム人材セミナー(山口)：日立金属株式会社

【開催方法】オンライン

【接続数】22ヶ所

【開催報告】

6月3日(木)オンラインにて、「第129回コンソーシアム人材セミナーin山口」と「キャリアデザインⅡ(2021年度第8講)」の共催セミナーを開催し、他大学や山口大学OBからの聴講者も含めて、22ヶ所(講師除く接続数)からの参加がありました。

冒頭の望月信介教授(キャリアパスデザイン推進室長)の挨拶と、HIRAKU事業担当者による同事業の紹介に続き、講師の岡本篤志氏から「企業における博士の価値と役割」と題した講演をいただきました。岡本氏は本学の工学部応用化学工学科を卒業され、直ちに大学院博士前期課程に進学され、修了後は日立金属株式会社に入社され、研究開発に従事された後、本学大学院博士後期課程に社会人入学され、博士(工学)の学位を取得されました。現在は、同社のグローバル技術革新センターで主任研究員を務めておられます。

The poster is for an online seminar. At the top, it says 'オンライン開催' (Online) and 'キャリアデザインⅡ 第8講 第129回コンソーシアム人材セミナー in 山口' (Career Design II, 8th Lecture, 129th Consortium HR Seminar in Yamaguchi). The main title is '企業における博士の価値と役割' (Value and Role of Doctors in Companies). It includes the date and time: '令和3年6月3日(木) 12:50~14:20' and the format: 'webexによるオンライン開催' (Online via Webex). A red button says '事前申込必要' (Advance registration required). Below the title, there are images of a person and some technical components. At the bottom, there is a small photo of the speaker, Prof. Tsunehiko Okamoto, and his affiliation: '【講師】 岡本 篤志 氏 日立金属株式会社 グローバル技術革新センター主任研究員兼 主任研究員'.

講演では、日立金属株式会社を例に、会社における技術系社員の担当分野の広さや研究開発の進め方(テーマの決め方、研究の方向、研究体制)が紹介されました。その中で、会社での研究と大学の研究との違いや、ご自身が会社で研究を進める過程で、博士前期課程時代のテーマであったリチウムイオン電池の電極研究から電気化学全般に「守備範囲」を広げ、その結果、会社の製品であるマグネシウムに付加価値をもたらすアルミニウム・メッキの研究をきっかけに、今までの圧延による方法と異なる(電気化学法による)アルミニウム箔の生成に成功し、このアルミ箔が高い機械強度をもち、表面の修飾も安定しており、電極の基礎材料として優れていることを見い出された事例を紹介されました。また、会社では「どうすればよいか」「何をさせてくれるか」ではなく「何がしたいか」「何ができるか」、が問われる話をされ、最後に、技術者・研究者として必要な3つの基礎力として、「経験に基づく魅力」「多量の情報から本質を見抜く考察力」「長期的な目標をもつこと(5年後の自分を想像する力)」を涵養する必要性を強調されました。

これに対して、「社会人入学するにあたって、会社はウエルカムであったか?」(回答=ウエルカムである。自分の部署は“全員博士を取りなさい”という勢い。),「岡本様が博士後期課程で得たものは何だったか?」(回答=当時は苦しかったが、後になって、他人に自分の考えを主張する力がついたと思った。)などの質問があり、議論が盛り上がる中、予定の時間が来て終了しました。

◆第130回コンソーシアム人材セミナー(徳島) : K2 Partnering Solutions株式会社

【開催場所】 オンライン

【参加者】 68人

【開催報告】

未来を拓く地方協奏プラットフォーム(HIRAKU), 研究支援・産官学連携センター, キャリア支援室, 徳島大学ひかりフェローシップが共催しまして, 2021年7月27日, 現在IT業界のヘッドハンターとしてご活躍されている, 徳島大学卒業生の, 谷奥恵美子氏を講師としてお招きし, 「徳島大学キャリア支援セミナー2021(第130回コンソーシアム人材セミナー) “自分のキャリアの始め方, 作り方。”」を開催いたしました。

今回の講演では, ご自身のキャリアパスをご紹介いただきながら, 専門性を身につけることの重要性や, 楽しく生きていくための仕事という視点からキャリア選択にプラスになる能力やスキル等, キャリア選択のヒントをご提案いただきました。

当日は68名が参加されました。グループディスカッションへの参加や多数の質問もいただき, ご参加いただきました皆様, ありがとうございます。



◆第131回コンソーシアム人材セミナー (徳島)

【開催方法】 オンライン

【参加者】 70人

【開催報告】

未来を拓く地方協奏プラットフォーム(HIRAKU), 研究支援・産官学連携センター, キャリア支援室, 徳島大学ひかりフェローシップが共催しまして, 2021年8月3日, 現在IT業界のヘッドハンターとしてご活躍されている, 徳島大学卒業生の, 谷奥恵美子氏とTikTokで採用 (Talent Acquisition) ヘッドとしてご活躍されている, 土岐素子氏を講師としてお招きし, 「徳島大学キャリア支援セミナー2021(第131回コンソーシアム人材セミナー) “TikTok採用Headに聞く, インターンシップのこと, 面接のこと, キャリアのこと。”」を開催いたしました。

土岐氏ご自身の経験から, キャリア変遷とキャリア選択時のポイントについてお話しいただき, 谷奥氏とのパネルトーク形式で, 採用担当者として, 採用時に選ばれる魅力的な人材になるために心がけること, 履歴書や面接時に採用担当が見ているポイント等, 具体的なアドバイスをいただきました。また, 地方にいても参加できるインターンシップについても, 学生の皆さんをエンカレッジくださいました。

当日は学内外から70名の参加がありました。両講師も, アイスブレイキングのグループディスカッションに加わり, 参加者との意見交換で打ち解け合った雰囲気の中で, ご参加いただきました皆様には, 多数の質問もいただき, ありがとうございます。



◆第132回・第133コンソーシアム人材セミナー（山口）

【開催方法】山口大学 常盤キャンパス

【参加者】12月23日：150人 12月24日：40人

【開催報告】

12月23日（木）と12月24日（金）に、それぞれ第132回と第133回となる「コンソーシアム人材セミナーin山口」を山口大学常盤キャンパスで対面にて開催しました。

講師は、株式会社ダイセルの上級技師である北山健司氏で、内容は企業における必要とされる人材に関するものです。会場の都合で2回に分け、人数の偏りを避けるために学年により回を振り分けて開催されました。1回目の23日には学部3年生以下が主体で約150名が、2回目の24日には学部4年生以上が主体で約40名が参加しました。

西形孝司教授（応用化学）の講師紹介に続いて講演が始まり、まず北山氏から、ご自身が修士課程を修了後他大学の違う学部の博士課程に進学されたことや博士後期課程修了後に企業に入られたという経歴を紹介されました。次に「将来なりたい職業」のアンケート結果や化学工業企業の状況にも触れながら工学部化学系の進路の可能性について説明されました。

その後、ご自身の会社である株式会社ダイセルの事業内容や、今まで会社でご自身がやられてこられた仕事や、現在会社や自分が取り組んでいることを紹介されました。これらの豊富な経験を表す言葉として、「化学は物質を創る（学問）」、「（ビジネスの世界では、）自分の言ったこと・やったことの結果は必ず出る」「物事の原理まで立ち返って研究することで会社に貢献するのが博士課程修了者」などをいただきました。

なお、二回の講演ではスライドは同じでしたが、参加者の学年が異なるため、1日目には工学部化学系学生に対するやや一般的な進路説明、2日目には大学院時代や会社での具体的な研究活動に重点をおいて話していただきました。

講演に対して、「CO2を出さない火薬はあるか？」（回答＝ある程度CO2は出る。）、  
「（ダイセルは）グリーンケミストリーやっているか？」（やっている。）、  
「博士課程修了後に大学ではなく企業に行った理由は何か？」（ポストがすぐには無かった。大学だと研究以外の業務がある。）、  
「博士課程の時何を考えたか？」（限られた年限で学位が取れるか。すごい結果を追い求めるのではなく、自分の疑問を明らかにする。）、  
「博士課程で他大学に行った理由は？」（元々学部時代に居られた先生が転出されたものであり、その研究室のテーマで研究したかった。）、  
「会社に入っても学ぶ機会はあるか？」（ある。研修や本の購入・学会参加・研究者との面談など機会多い。）、  
などの質問があり、北山氏からそれぞれ（）内のようなご回答をいただきました。

最後に西形教授から、参加した学生に向けて「のめりこめるような研究テーマを是非見つけてください。」（1回目）の言葉があり、終了しました。





## ◆第134回コンソーシアム人材セミナー（徳島）

【開催方法】オンライン

【参加者】81人

【開催報告】

3月3日（木）、米国Outcome Capital社の代表取締役 Oded Ben-Joseph博士※による海外特別講演会を開催し、本学関係者、徳島県の高校生、県内企業等の研究者・医療関係者を含む81名の方が、オンラインで聴講しました。

当日は、ライフサイエンス領域のアントレプレナーが起業後に求められる戦略や、エコシステムを構成する各専門家との取引、大企業による買収取引について、バイオ医療分野におけるケーススタディの紹介も含めて、分かりやすくご講演いただきました。

講演後には、特に学長はじめ、県内医療関係者、教員、蔵本キャンパスから参加した学部生が意欲的な質問を行い、Ben-Joseph博士から丁寧なご説明と励ましをいただきました。

徳島大学では、今後もこのような講演会の開催を通して、アントレプレナーシップをもった人材を育成し、地域の新産業を牽引する人財育成の強化に取り組むとともに、地域振興を目指す次世代ひかりトクシマの取組として、新産業創出と起業家育成につながる取組の強化をさらに進めてまいります。

### Oded Ben-Joseph博士：

英国・ケンブリッジ大学で博士号を取得後、米国・ミシガン大学での研究を経て、ご自身による起業をふくめたライフサイエンス系企業約10社での会社役員を歴任。1991年には徳島大学酵素科学研究センター（現 先端酵素学研究所）の客員助教授として来日し、神経科学研究に従事されました。現在は、ライフサイエンスとヘルスケアのコンサルティング業務および投資銀行業務を専門とするOutcome Capital社の代表取締役として、米国・ボストンでご活躍されています。

The poster is titled "海外特別講演会(オンライン開催)" and "Life Sciences Entrepreneurship: Common Pitfalls and Misconceptions". The main title is "ライフサイエンスアントレプレナーシップ よくある落とし穴と誤解". The event date is "開催日時 2022年3月3日(木)18:00~19:30". The text describes the seminar's focus on strategies for success in the life sciences entrepreneurship ecosystem, common pitfalls, and misconceptions. It features a portrait of Dr. Oded Ben-Joseph, CEO of Outcome Capital. The poster also includes contact information for the organizing department and a QR code for registration.

## 5. 成果報告会

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム（HIRAKU）」（代表実施機関：広島大学、共同実施機関：山口大学、徳島大学）では、年2回の成果報告会を開催してきた。

### 成果報告会実績（平成27(2015)年度～令和3(2021)年度）



### <令和3（2021）年度実績>

#### 第13回成果報告会

【日 時】令和3（2021）年7月30日（金）13:00～15:30

【開催方法】オンライン(Microsoft Teams)

【参加者】74名

◆開会挨拶 佐々木 卓也（徳島大学 理事(研究担当)・副学長）

◆長期インターンシップの成果報告及び経験者の就職後の振り返り

【派遣先：日本製鉄株式会社】

・派遣者の声

SHRESTHA AMIT（インターンシップ派遣時：広島大学大学院先端物質科学研究科 D2）

・受入機関担当者の声

森口 晃治 氏 / 日本製鉄株式会社 技術開発本部先端技術研究所 主席研究員

【派遣先：国連訓練調査研究所(ユニタール)】

・派遣者の声

SAFI WALID AHMAD（インターンシップ派遣時：広島大学大学院工学研究科 D3）

・受入機関担当者の声

SHAMSUL HADI SHAMS 氏 / 国連訓練調査研究所広島事務所トレーニングアソシエイト

【経験者の声】

SIDDHANT DHONGADE 氏 / 国立研究開発法人産業技術総合研究所ポスドク研究員  
インターンシップ派遣時：徳島大学大学院先端技術科学教育部 D2

派遣先：国立研究開発法人産業技術総合研究所(AIST)

◆テニュアトラック教員着任報告



- ・富永 直臣 / 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻 助教
- ・TIWARI, Sandhya Premnath / 広島大学学術院 助教 (大学院統合生命科学研究科)
- ・相澤 宏旭 / 広島大学学術院 助教 (大学院先進理工系科学研究科)
- ・菊田 真由実 / 広島大学学術院 助教 (大学院統合生命科学研究科)
- ・緋田 安希子 / 広島大学学術院 助教 (大学院統合生命科学研究科)
- ・平尾 岳大 / 広島大学学術院 助教 (大学院先進理工系科学研究科)
- ◆閉会挨拶 (次回開催校) 安倍 学 (広島大学理事・副学長(学術・社会連携担当))



## 第14回成果報告会

【日 時】令和4 (2022) 年3月4日 (金) 13:00~15:20

【会 場】オンライン (Zoom)

【参加者】107名

### プログラム

- ◆開会挨拶 安倍 学 (広島大学 理事・副学長)
- ◆来賓挨拶 山村 康子 (国立研究開発法人 科学技術振興機構  
プログラム主管)

### <セッション I> 博士人材のためのキャリア開発

- ◎ イノベーション人材育成プログラムの8年間 13:10  
三須 敏幸 (広島大学グローバルキャリアデザインセンター長)
- ◎ 長期インターンシップ受入・採用企業の声  
「東ソーにおけるインターンシップについて (仮)」  
柳瀬 学 (東ソー(株) 有機材料研究所アミン誘導体グループリーダー)
- ◎ 長期インターンシップ経験者の就職後の振り返り
  - ・ 薛 劍飛 (東ソー(株) 有機材料研究所アミン誘導体G 研究員) (派遣時: 広島大学)
  - ・ 楊 典 (中国 南京科技職業学院 経済学 教員) (派遣時: 山口大学)
  - ・ SARDA Narendra Girish (日立造船(株) プロセス・エンジニア) (派遣時: 徳島大学)
  - ・ 阿部 夏希 (広島文教女子大学 人間科学部 心理学科 講師) (派遣時: 広島大学)

[Q&A]



◎ 未来博士3分間コンペティション受賞者の就職後の振り返り

- ・ 田代 啓吾 (成蹊大学理工学部 物質生命理工学科 助教) (出場時：山口大学)
- ・ 上田 梨紗 (OATアグリオ(株) 研究開発部 バイオアッセイグループ 研究員) (出場時：徳島大学)
- ・ 菅野 哲史 (東京大学大気海洋研究所 日本学術振興会特別研究員PD) (出場時：広島大学)

[Q&A]

<セッションⅡ> 若手教員の研究活動最前線

◎ テニユアトラックプログラムの8年間

相田 美砂子 (広島大学 学長特命補佐)

◎ HIRAKU教員が語る研究のビジョンと活動の振り返り

座長： 鈴木 榮一郎 (広島大学 客員教授/公益財団法人 木原記念横浜生命科学振興財団 常務理事/元・味の素(株) 上席理事)

(テニユアトラック着任教員)

- ・ 古居 彬 (広島大学大学院 助教 (大学院先進理工系科学研究科))
- ・ GALLEGOS RAMONET Alberto (徳島大学大学院社会産業理工学研究部 理工学域 助教)
- ・ 白石 レイ (山口大学大学院創成科学研究科 工学系学域 准教授)
- ・ 郭 方芹 (広島大学大学院 助教 (大学院先進理工系科学研究科))

(テニユアトラック経験教員)

- ・ 岡部 信広 (広島大学大学院 准教授 (大学院先進理工系科学研究科))
- ・ 原 裕貴 (山口大学大学院創成科学研究科 理学系学域 講師)
- ・ KARANJIT Sangita (徳島大学大学院医歯薬学研究部 薬学域 助教)
- ・ 緒形 ひとみ (広島大学大学院 准教授 (大学院人間社会科学部))

[ディスカッション]

◆HIRAKU事業の総括及び今後について

相田 美砂子 (広島大学 学長特命補佐)  
上西 研 (山口大学 理事・副学長 (学術研究担当))  
佐々木 卓也 (徳島大学 理事 (研究担当)・副学長)

◆閉会挨拶 相田 美砂子 (広島大学 学長特命補佐)



## 6. 若手研究人材の意識啓発を促す取組

### 6-1. ウェブサイト

本事業の取組内容は、オリジナルウェブサイトHIRAKU(<https://hiraku.hiroshima-u.ac.jp/>)を構築し、イベント参加者募集や公募などのお知らせも随時掲載している。そこには、より詳細な内容や連携機関の情報を掲載している。また、若手研究者ポートフォリオ(HIRAKU-PF)にリンクしている。



### ◆ 広島大学グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成

URL: [https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc\\_yr](https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc_yr)



◆山口大学 URL : <https://kenkyu.yamaguchi-u.ac.jp/HIRAKU/>

### 未来を拓く地方協奏プラットフォーム(HIRAKU)

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業

この度、文部科学省の平成26年度科学技術人材育成補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」に、山口大学が共同実施機関として採択されました。

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」をテーマに、広島大学を代表機関として、共同実施機関に山口大学、徳島大学、連携機関には中国の国立大学、公立大学、私立大学および多くの企業が参画して実施します。



長州五傑の橋 (山口大学吉田キャンパス)

[→ 過去のトピックス一覧](#)

#### トピックス

- 2021/01/12 [「第132 / 133回コンソーシアム人材セミナーin山口」を開催しました](#)
- 2021/11/19 [「第132 / 133回コンソーシアム人材セミナーin山口」を開催しました](#)
- 2021/11/18 [「未来博士3分間コンペティション2021 \(オンライン\)」の英語部門で共同獣医学研究科のLitaさんがSpringer Nature AwardとPeople's Choice Award を、日本語部門と創成科学研究科の伊藤さんがユニコムolta動画賞を受賞](#)
- 2021/7/7 [徳島大学開催 オンライン人材セミナー \(7月27日 \(火\)、K2 Partnering Solutions株式会社\)のお知らせ](#)
- 2021/7/6 [Call for applications - HIRAKU 3MT Competition 2021 \(Deadline August 4 17:00\)](#)
- 2021/7/6 [「未来博士3分間コンペティション2021」発表者募集 \(エントリー締切 8月4日 \(水\) 17:00\)](#)
- 2021/6/30 [「未来を拓く地方協奏プラットフォーム第13回成果報告会」をオンライン開催します](#)

◆徳島大学 URL: <https://www.tokushima-u.ac.jp/ccr/active/project/cons/index.html>

6-2. 学生むけ小冊子 HIRAKU (平成 26(2014)年度～平成 30(2018)年度発行)

HIRAKU Vol. 1 (平成 27 (2015) 年 3 月発行)

博士課程後期を知る読本

- ・次世代研究者インタビュー
- ・博士課程後期研究者 座談会
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



HIRAKU Vol. 2 (平成 28 (2016) 年 3 月 発行)

博士課程後期を知る読本

- ・ 「未来博士 3 分間コンペティション 2015」  
受賞者インタビュー
- ・ 未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



次世代研究者育成プログラム  
「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」

若きインベーターが  
次世代を探求する。

「未来博士 3 分間コンペティション 2015」受賞者インタビュー

星優亮  
前例のない挑戦は世界初のスタート！… 3  
鳥取大学 大学院総合理工学専攻 生物資源科学専攻 資源利用化学実習担当  
田崎 英祐

HIRAKU 学長特別賞  
引き出しの数だけ生まれる可能性… 7  
広島大学 大学院生物資源科学専攻 生物機能研究 分子生物化学専攻 3  
ソフィア スイダサリ

優秀賞  
手探りの試行錯誤から始まる謎解き… 11  
県立広島大学 大学院総合理工学専攻 生命科学専攻 1  
三浦 香織

優秀賞  
たった一つの真理が探求者にもたらされる栄誉… 15  
徳島大学 大学院総合理工学専攻 人間栄養科学専攻 1  
内田 貴之

企業賞  
普遍的価値観を技術で逆転させる… 19  
広島大学 大学院総合理工学専攻 化学専攻 1  
木下 拓矢

未来博士 3 分間コンペティション 2015  
発表者紹介… 23

未来を拓く地方協奏プラットフォームとは… 31  
博士課程後期を知ろう… 35

未来博士 3 分間コンペティション 2015  
未来の博士たちが、自身の研究のビジョンと魅力を 3 分間で分かりやすく語る「未来博士 3 分間コンペティション 2015」を 2015 年 11 月 1 日に開催しました。約 300 人の審査オーディエンスを前に、博士課程後期の学生 37 人が 1 枚のスライド、持ち時間 3 分で研究内容のプレゼンテーションを行いました。『HIRAKU Vol. 2』では、その受賞者にインタビューし、さらに研究内容を盛り下げてご紹介いたします。

未来博士 3 分間コンペティション 2015  
火星の地球化( терраフォーミング )  
火星には がある  
もあるし もある  
でも 火星( 地球 ) 本質は 無い

長沼 毅 教授も  
3 分間パフォーマンスに参戦!



HIRAKU Vol. 3 (平成 29 (2017) 年 3 月発行)

博士課程後期を知る読本

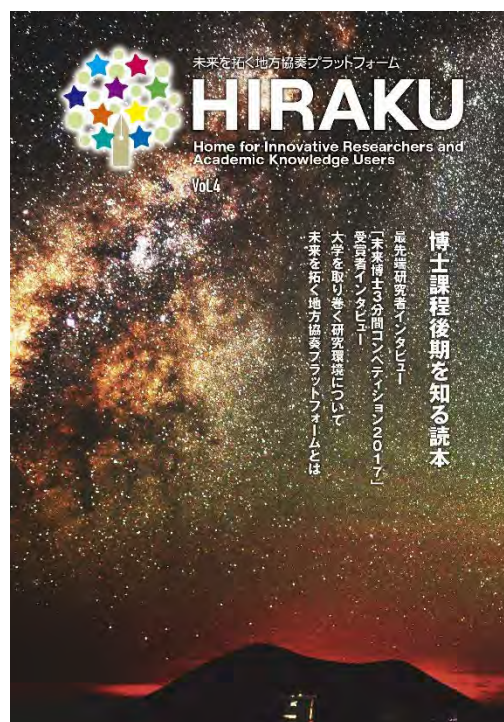
- ・「未来博士3分間コンペティション2016」  
受賞者インタビュー
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



## HIRAKU Vol. 4 (平成 30 (2018) 年 3 月発行)

### 博士課程後期を知る読本

- ・最先端研究者インタビュー
- ・「未来博士3分間コンペティション2017」受賞者インタビュー
- ・大学を取り巻く研究環境について
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



次世代研究者養成プログラム「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」

# 知の深奥を切り開く イノベーターたち。

最先端研究者インタビュー  
すばるの彼方に宇宙の始まりが見える... 3

岡部 信広 助教  
広島大学 大学院 理学部 物理学専攻

「未来博士3分間コンペティション2017」受賞者インタビュー  
田嶋 亮  
ゼロからヒーローを生み出すバイオ燃料の世界... 7  
広島大学 大学院 工学部 理工学研究室D3  
ノフィシャフテカ

HIRAKU 学長特別賞  
最先端のゲノム編集を用いて人に役立つトマトを生み出す... 11  
徳島大学 大学院 先端技術科学教育部 植物分子育種研究室D1  
上田 梨紗

グローバルチャレンジ賞  
薬剤師の視点から突き詰めるオーダーメイドな薬物治療... 15  
広島大学 大学院 医薬保健学研究所 生体機能分子動態研究室D3  
藤野 智恵里

大学を取り巻く研究環境について  
多様性を生かして可能性を創出する... 19  
広島大学 リサーチ・アドミニストレーター  
久保 琢也さん

未来博士3分間コンペティション2017 発表者紹介... 22  
未来を拓く地方協奏プラットフォームとは... 31  
博士課程後期を知ろう... 36

未来博士3分間コンペティション2017  
未来の博士たちが、自身の研究のビジョンと魅力を3分間で分かりやすく語る「未来博士3分間コンペティション2017」を2017年11月25日に開催しました。約300人の審査オーディエンスを前に、博士課程後期の学生36人が1枚のスライド、持ち時間3分で研究内容のプレゼンテーションを行いました。  
『HIRAKU Vol.4』では、その受賞者にインタビューし、さらに研究内容を掘り下げてご紹介いたします。

## HIRAKU Vol. 5 (平成 31 (2019) 年 3 月 発行)

### 博士課程後期を知る読本

- ・若手研究者座談会
- ・「未来博士 3 分間コンペティション 2018」  
受賞者インタビュー
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



「そもそも研究の道を選ぶ際、先輩たちに悩みや迷いはなかったのだろうか?」「研究者として歩みだすと、いったいどんな毎日が待っているのだろうか?」そんな後輩たちの疑問に答えるため、次代を担う若手研究者 3 人が、実体験に基づき研究者のリアルな日常について語ってくれました。

研究価値を伝えること、それも重要なミッション。Q、まずは自己紹介を兼ねて皆さんの研究について教えてくださいいただけますか?

谷原 私は学生の頃から生殖工学の研究をしていました。遺伝子改変ブタに取り組んでいます。マウスやラットと比較して、生理学的・病理学的・解剖学的にヒトに近いブタをつくりだすことで、創薬実験や治療法開発に貢献できればと思っています。

原 私の場合は、細胞内部の核やミトコンドリアといっ

た細胞小器官の大きさ、細胞の大きさとの関係性が研究テーマです。それらを制御する仕組みと機能性を解明することを目指しています。

松本 私は17世紀の英文学、中でも詩文学を専門としています。ヘンリー・ワグソンという詩人を主に研究しているのですが、彼の双子の弟が錬金術師であったことから、産業革命以前の科学思想と文学との関わりなどについて研究しています。

原 錬金術ですか?面白そうですね。英文学といっても、私たちが足場を置く科



若手研究者座談会  
走り出すことで、本当の未来が見えてきた。…2  
徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 谷原 史倫 特任助教  
山口大学 大学院創成科学研究科 (理学) 原 裕貴 助教  
広島大学 学術院 大学院文学研究科 松本 舞 助教

「未来博士 3 分間コンペティション 2018」受賞者インタビュー  
最優秀賞  
土壌汚染問題に植物のストレス耐性で解決を挑む…7  
愛媛大学 大学院総合農学研究科 生物資源利用学専攻 (香川大学配属) DI  
ホセイン イムデイヤハダット

グローバルチャレンジ賞  
細胞の未知の領域へ糖鎖の解明で挑む…11  
岐阜大学 大学院総合農学研究科 生物資源科学専攻 D2 浅野 早知

優秀賞 (日本語部門)  
患者の日常を取り戻すために新しい解を探そう…15  
広島大学 大学院医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻 D3 小島 玲子

企業賞 (マツダ賞)  
研究は自己表現の手段で共通言語でもある…18  
岡山大学 大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻 D2 福岡 早紀

未来博士 3 分間コンペティション 2018\* 発表者紹介…21  
未来を拓く地方協奏プラットフォームとは…31  
博士課程後期を知ろう…36

※未来博士 3 分間コンペティション 2018  
未来の博士たちが、自身の研究のビジョンと魅力を 3 分間で分かりやすく語る「未来博士 3 分間コンペティション 2018」を 2018 年 9 月 15 日に開催しました。約 300 人の審査オーディエンスを前に、博士課程後期の学生 31 人が 1 枚のスライド、持ち時間 3 分で研究内容のプレゼンテーションを行いました。HIRAKU Vol.5 では、その受賞者にインタビューし、さらに研究内容を掘り下げてご紹介します。

# HAKUSHI

博士課程後期を知ろう



HIRAKU

博士課程後期への進学は、  
あなたに与えられた  
かけがえのないチャンス。  
あなたがえのないチャンス。

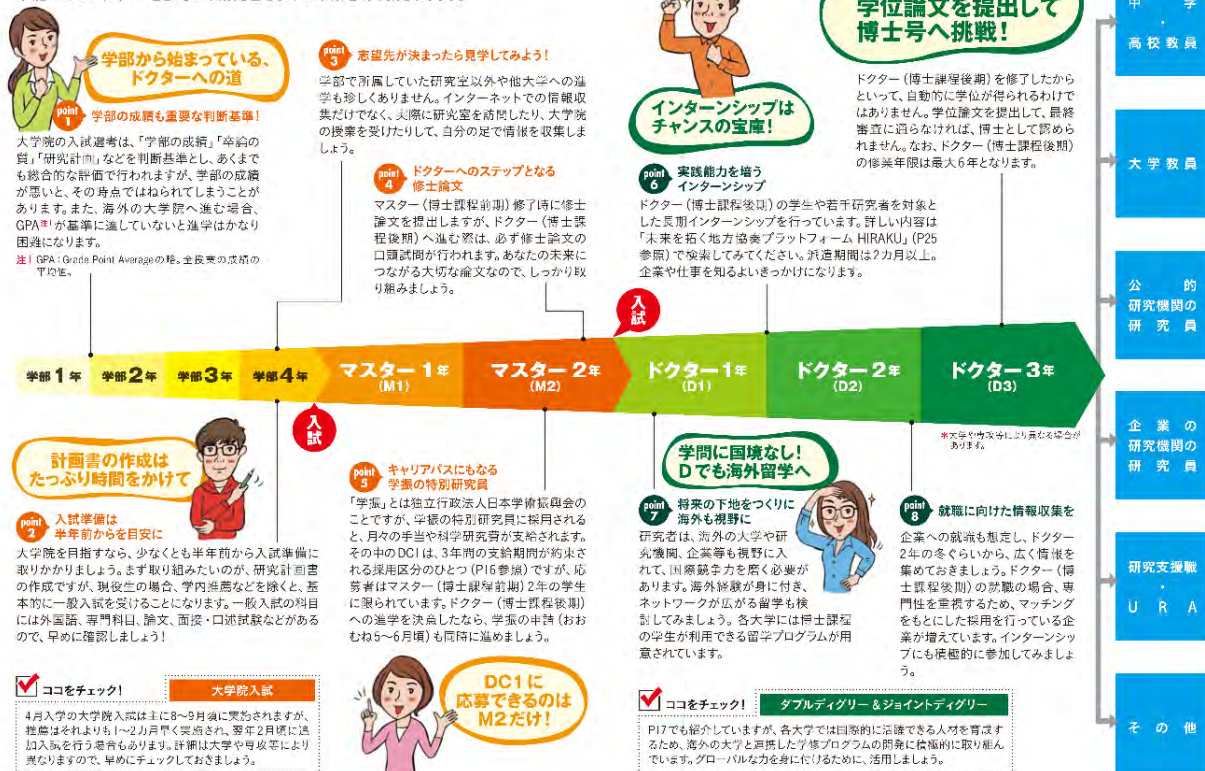
2015年10月版

HAKUSHI 平成 25 (2015) 年 10 月版

博士課程後期への進学は、  
あなたに与えられたかけがえのないチャンス。

- ・進学フロー
- ・研究者インタビュー
- ・学生インタビュー
- ・あなたの疑問にお答えします!!

研究者となるチャンスを見逃さないためには、十分な情報収集と早めの準備が必要です。  
下記のフローチャートを参考に、研究者としての未来を切り拓きましょう。



# HAKUSHI

博士課程後期を知らう



博士課程後期への進学は、  
あなたに与えられた  
かけがえのないチャンス。

2018年3月版

HAKUSHI 平成30(2018)年3月版

博士課程後期への進学は、  
あなたに与えられたかけがえのないチャンス。

- ・進学フロー
- ・研究者インタビュー
- ・対談
- ・HAKUSHI の先
- ・コラム
- ・HIRKU-PF
- ・あなたの疑問にお答えします!!

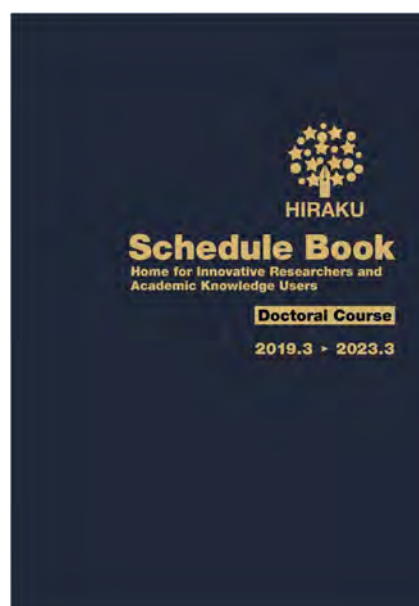
研究者となるチャンスを逃さないためには、十分な情報収集と早めの準備が必要です。  
下記のフローチャートを参考に、研究者としての未来を切り拓きましょう。



#### 6-4. 4年手帳

博士課程後期の心得，進路についてのプランニング，大学で行われている学生支援等について掲載している。博士課程後期の時間を有意義に過ごすために必要な内容を盛り込んだ手帳である。令和元（2019）年度まで，共同実施機関の新D1学生へ向けて配布してきた。

- ・ 入学年の3月から4年後の3月までのカレンダー・スケジュール帳
- ・ 博士課程後期の心得
- ・ 博士課程後期の学生支援
- ・ 税金・確定申告・健康保険・年金
- ・ For International Students



## 7. 若手研究人材のキャリアスタート支援

### 7-1. 若手研究人材ポートフォリオ HIRAKU-PF

「若手研究者ポートフォリオ(HIRAKU-PF)」は、本事業の基幹 IT システムとして、いろいろな「あつまる」・「つながる」・「まじわる」機能を通じて、博士課程学生を含む若手研究者が社会とのつながりを深め、新たな出会いや気づきの中で自らの未来を拓くことができるように構築し、平成28(2016)年3月に運用を開始した。その後、着実にユーザー数を増やしてきた。

(配布チラシ)

若手研究者ポートフォリオ **HIRAKU-PF**

若手研究者のポテンシャル、活用してみませんか?

■ 自社 PR ■ 共同開発 ■ 人材確保 ■ CSR

■ 自己 PR ■ 研究 PR ■ 就職活動 ■ 能力開発

連携企業 研究所さま

若手研究者のみなさん!!

キャリアの選択肢を広げよう!

まずは、利用登録を!!

【利用登録の手順】

1. HIRAKU ホームページへアクセス
2. ログイン/会員登録
3. ログイン/会員登録
4. ログイン/会員登録
5. ログイン/会員登録

【アクセスはこちら!】

【お問い合わせ先】

082-424-2058

HIRAKU-PF 若手研究者ポートフォリオ

こんなことができます。

■ 若手研究者・企業の情報発信 ■ eポートフォリオ

■ 研究技術や人材のマッチング ■ シーズ・ニュース

■ インターンシップ・求人情報 ■ インターンシップ

■ 能力アップを目指す ■ 能力開発

■ 将来を拓ける ■ キャリア相談

■ 仲を深えて交流する ■ 掲示板・メッセージ

■ 研究者をさがす ■ 検索機能

HIRAKU コミュニティのご案内

082-424-2058

◆HIRAKU-PF が網羅する主な機能

(1) 若手研究者も企業等のPR情報発信および検索— eポートフォリオ機能 検索機能

HIRAKUに参画する多くの国公立大学の博士課程学生・若手研究者、幅広い連携企業・公的機関がユーザー登録することにより利用可能となる。ユーザーとして付与されたアカウントを基にeポートフォリオを作成し、若手研究者は自分のプロフィールや研究業績、PR動画やファイル、所属研究室が公開するSNSなどを、連携機関は機関概要、求める博士人材、活躍している博士人材などを登録し、HIRAKU-PF内で相互にアピールすることができる。若手研究者については氏名、所属機関やキーワードを利用して検索することができ、eポートフォリオを閲覧することができる。公開を希望する研究者は、自分のeポートフォリオをネット上に公開することも可能であり、全世界に向けて発信することができる。

(若手研究者)

eポートフォリオを作成し、基本情報に加え、自己アピール文、研究活動など積極的にPRできる。

YouTubeやmp4ファイルなどのPR動画を埋め込みで掲載することができる。





Facebook ページや Twitter, ブログなど SNS 情報を埋め込みで表示させることができる。



検索条件を入力・選択することにより、登録されている若手研究者を検索し、eポートフォリオを閲覧することができる。(ネット公開設定している研究者であれば、外部検索エンジンでも検索可能)



閲覧した eポートフォリオから、直接システム内でメッセージを送信することができる。

基本情報(Profile)

 中外テクノス

**企業・団体(Organization)**  
中外テクノス株式会社/Chugai Technos Corporation

**部署(Department)**  
環境事業本部 取締役事業本部長 村岡 裕彦

---

機関紹介・PR>About us

**事業案内**  
Business

「スマートな技術でスマートな未来を」  
Smart technology, smart future.

電機・機械・情報・物理・化学・生物の各部門からなる中外テクノスの技術を融合し、多様なニーズにスマート(効果的・知

**専門調査** Investigation

環境、建設、工業あらゆる産業分野において、先進の調査技術を駆使した信頼性の高い調査データをご提供します。

- 環境調査・分析
- 環境微生物解析
- 環境特種性能試験
- 省エネ診断
- 揮発物調査

(連携企業・公的機関)  
連携企業・公的機関のeポートフォリオでは、各機関の概要を掲載できる。既存のホームページがあれば、画像やリンクなどもそのまま添付可能。

活躍中の博士人材(Doctorate Holders)

**キラキラした目の子どもたちをもっと増やしたい**  
博士(理学) 花里 美紗穂

**全員が誰かのために頑張っていることで**  
博士(工学) 上野 裕子

**研究室から外へ出て出た「書く」仕事**  
博士(生命科学) 磯貝 里子

**求める人材(Expected Talents)**

我々は高い夢と志を持って“ブレークスルー”に挑み挑戦をする人達と共創して、感動と夢

“ブレークスルー”とは、  
マツダにしかできないことを、考え抜く。  
マツダだからできることを、やり抜く。  
そこに、世界を牽引する走りが生まれる。

楽しく爽快な走りを生み出すにはパワフルなエンジンの開発が必要となり、一方で、環境に優しいクルマを生み出すには燃費性能を突き詰めなければならない。一般論としては、「相反する2つの最適なバランスを求める」という妥協が、技術の常識である。これに対しマツダは、飽くまでも常識にとらわれず、高い次元で両立させる選択を断行する。これが「ブレークスルー」の発想だ。バランスポイントを決めることは、ブレークスルーしないと決めたことに等しい。マツダならではの、自由に熟考を重ね進行するチャレンジスピリットから、世界に先がけたワクワクする走り、心奪われる美しいクルマが生み出されていく。その一点にしか、我々は喜びを見いださない。

●シニアエンジニアインタビュー  
クルマづくりで世界に貢献する。  
平野の街・広島でマツダの精神をカタチに。  
ロードスター主筆/山本修弘

1989年の誕生以来、世界中の人々から愛されているマツダロードスター。現在も、より多くの感動と走る喜びを与えるべく進化を続けている。その主筆である山本修弘がエンジニアを目指した自身の原点とマツダに流れるスピリット。そして広島での開発にこだわり続ける理由や次代を担う就活生への想いを語る。マツダ(株)HPへリンク  
<http://www.mazda.com/ja/careers/newgraduate/interview/yamamoto/>

求める人材や実際に活躍している人材など、博士人材に特化して情報発信ができる。

## (2) シーズ・ニーズ情報の発信・閲覧・交流促進ー シーズ・ニーズ機能

連携機関やシニア教員は、研究技術、研究人材などの「ニーズ」を登録し、全研究者ユーザーに対して発信できる。若手研究者や若手教員は、自分たちが持つ研究技術やスキルを「シーズ」として登録し発信できる。それぞれが選択した公開先に含まれるユーザーは、ログイン後に表示されるトップページ(ポータル)画面において、シーズ・ニーズの一覧情報を確認し、関心を持った場合には表明することができる。情報を登録したユーザーは、関心を表明したユーザーを招待して掲示板を作成し、コミュニケーションを開始することもできる。

The screenshot shows the SEEDS & NEEDS Mathing Square portal. The top part displays a list of needs with columns for 'Due Date' (2018/04/30) and 'Description' (様々な産業・環境に深く関わる部門でスキルを活かす、技術者). Below this, a detailed view of a need is shown, titled '様々な産業・環境に深く関わる微生物を解析するバイオ技術者を募集!' (Recruiting bio-technicians for analyzing microorganisms in various industries and environments!). The detailed view includes fields for 'Posted by' (HIRAKU運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office / HIRAKU / 広島大学 / Hiroshima University), 'Keywords' (環境 バイオテクノロジー技術 排水処理、メタン発酵 遺伝子解析データの処理 (QIIME, ARBZ など) 環境分析 (GC, LC, 顕微鏡観察など)), 'Release Date' (2018/02/12), 'Deadline' (2018/04/30), 'Status' (公開中/ Open), and 'Link' (https://odds.jp/DodaFront/New/JobSearchDetail/?id\_3002107867/Am\_B4/4p\_1f-mbrwd\_0/). The need description mentions '中外テクノス株式会社' (Chugai Technos Co., Ltd.), a company with over 60 years of history and a comprehensive inspection department, seeking bio-technicians to utilize their skills in its bio department.

ポータル画面上に登録したシーズやニーズが掲示され、閲覧者は☆マークをクリックすることで関心を表明することができる。

## (3) インターンシップ/求人/イベント情報の発信・入手ー インターンシップ機能 イベント機能

博士課程学生・若手研究者向けに集約されたインターンシップや求人情報などの情報が閲覧できるだけでなく、応募や必要書類のアップロードも HIRAKU-PF 上から行うことができる。HIRAKU-PF 上から連携企業/公的機関へ直接質問も可能である。若手研究者からの提案が新しいインターンシップや共同研究につながる流れも期待される。

## (4) キャリア相談の依頼および面談実績の管理ー キャリア相談機能 支援情報機能

キャリア相談やインターンシップ等の相談も、HIRAKU-PF を通じて依頼・設定可能であり、過去の相談状況を蓄積できる。また、各種支援情報も提供される。

## (5) ユーザー同士の気軽なコミュニケーションー 掲示板機能 メッセージ機能

(1)で前述のとおり、ユーザーは検索後に閲覧した他ユーザーのeポートフォリオからメッセージ機能を使って直接連絡を取ることができる。また掲示板機能もあり、博士課程学生・若手研究者同士が掲示板グループを作成して若手研究者主体のイベント運営や情報交換などに利用したり、連携機関と若手研究者がシーズ・ニーズ機能などを通じて掲示板グループを作成し、共同研究のきっかけ作りに利用したり、研修やワークショップなどを通じてできたワーキンググループで掲示板グループを作成し課題・演習のフォローに活用したりすることができる。

★ イノベーション演習 テーマ①(7件7 item/未読(Unread)0件0 item)

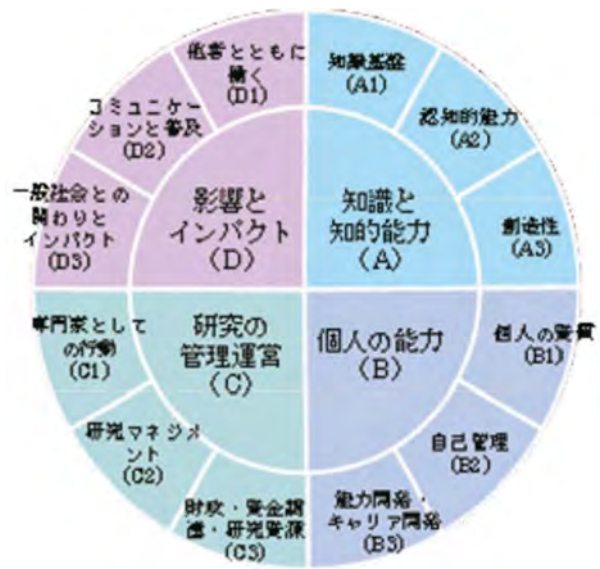
タイトル(Title)	投稿者(Posted by)	投稿数(No. of Posts)	最終更新日時(Last Updated)
10/21 フィールドワーク 写真共有	三浦敏幸	14	2017/11/15 09:42
(お知らせ) 第3回 11/17 演習開始前 放映案内	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	1	2017/11/16 19:37
第3回 ワークショップを振り返って	イノベーション演習総講師 1	3	2017/11/24 17:36
広報についてお願い	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	2	2017/11/27 12:33
第4回ワークショップ振り返りおよび最終発表準備について	川瀬典紀	9	2017/12/13 22:32
最終発表スライド	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	1	2017/12/18 15:08
成果発表会 開催報告(HP)およびコメント共有	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	1	2017/12/28 16:24

平成 29(2017)年,平成 30(2018)年,令和元(2019)年に開講した「課題提案型ワークショップ(広島大学大学院共通科目・大学院共通科目「イノベーション演習」)」では,履修生と参加企業からなるワーキンググループおよび各グループの担当教員やアシスタントで掲示板を作成し,情報共有や演習時間外のコミュニケーションに活用した。

(6) 研究者として能力チェック&講座情報の入手ー 能力開発支援機能

高等教育機関,研究機関の博士研究者や博士課程在籍者の自己啓発,専門的能力開発及びキャリア開発を支援する英国の非営利の全国的ネットワーク組織 Vitae が作成した研究者の総合的な能力指標,“Researchers Development Framework(RDF)”が組み込まれている。研究者に必要とされる 63 項目の能力について 5 段階のステージで表示しているので,現状把握や将来の指針として参考にすることができる。自分がどのステージにいるのか自己診断し,その根拠を記録することで,自分の能力を客観的に捉えることができ,さらなる向上を目指して目標を設定することができる。また対象能力を養成することが可能な授業やプログラムを確認し,その参加状況を記録することも可能。自己診断結果は,記録した根拠や設定目標と併せてレポート出力ができる。自分の能力養成状況を定期的に診断して更新し続けることにより,自分の成長状況を時系列で確認することができる。

(Vitae RDF)



Vitae ©2016 Careers Research Advisory Centre (CRAC) Limited.

詳細項目確認&診断(RDF Descriptor Phases & Assessment): RDF全項目診断(Full RDF Skills)

RDF No. A2.5 能力(Skills) 問題解決力 (Problem solving)

黄色がオレンジ色のフェーズが、あなたのロールに押し進められる目標フェーズです。Phase(s) highlighted in orange are the skill level(s) you are expected to achieve.

フェーズ(Phase)				
0	1	2	3	4
自分の研究における基本テーマを特定し、基本的な研究上の問いと仮説を導く。(Isolates basic themes of own research; formulates basic research questions and hypotheses.)	幅広い研究課題に対して解決策を導き上げて適用し、研究成果を効果的に分析、解釈している。(Formulates and applies solutions to a range of research problems and effectively analyses and interprets research results.)	研究の新たな動向、複雑な問い、広範な課題を捉え、大型のプロジェクトを立案している。(Identifies new trends, complex questions and broader problems; designs substantial projects. Challenges particular hypotheses and refines them in the light of results.)	物事の理解に大きく貢献することで研究課題によって、従来型の思考一般に異議を唱えている。(Leads a research agenda by making. Asks the pertinent questions and designing in general and progress research them)	

1

目標未達成の場合には自分の現在のフェーズを、達成しているフェーズを達成している場合には上書きしてoverwrite this field, if your achieved phase is what is displayed.

能力ごとに 5 段階のステージに分けて、期待される知識・行動・態度などが表示される。自分がどの段階にあるか自己診断する。

自己診断の根拠(エビデンス)、対象能力を伸ばすためのアクションプランを入力することができる。

アクションプラン(Action Plan) 中項目レベル(全12項目)で設定したいアクションプランがあれば入力してください。Please fill in your action plan/evidence per sub-domains if you have any.

視野を広げ、幅広い課題解決に向けて大型のプロジェクトを立案できるように、xxx関連企業におけるインターンシップに挑戦する(2018年8月まで)

エビデンス(Evidence) 目標フェーズを達成していると診断する場合、その証拠を入力してください。入力内容は自己評価レポートにも反映されます。Please fill in the evidence you can export in the Self-assessment Report.

ABCDの研究において、テーマを「=」に特定し、基本的な研究上の問いと仮説を導き、3分間コンペティション2015において企業賞XYZを受賞した。

3分間コンペ2015\_豊後芳真.mp4

読み込み(Import) 削除>Delete

保存(Save)

### 能力養成科目/プログラム詳細(Recommended Class/Program Description)

能力養成科目/プログラムの詳細です。一番下までスクロールすると、養成が期待される能力の一覧を確認することができます。the class/program. Scroll down to the bottom to check the full list of RDF skills expected to be developed by taking this class/program.

参加予定記録(Mark to attend) 参加予定取消(Cancel marking)

#### 長期インターンシップ

講師(Instructor)	三須敬幸
所属機関(Univ./Org.)	広島大学(Hiroshima University)
機関内番号コード(Class Code)	85025001
所属部局(Faculty/Dept.)	グローバルキャリアデザインセンター
所属期(Semester/Term)	2016年度
曜日・時間(Day/Period)	集中

対象能力を養成することが可能な講座、プログラムなどが登録されており、参加・受講を記録していくことができる。



## 8. 代表機関および共同実施機関独自の取組

### 8-1. 広島大学独自の取組

#### 8-1-1. 広島大学特別研究員制度

広島大学では、本学での学位取得者を広島大学特別研究員として採用し、多様な場で活躍する人材として育成する制度を平成13(2001)年度から実施してきた。

平成26年度から本学大学院博士課程(博士課程前期を除く。)を修了し博士の学位を取得した者を、広島大学特別研究員(グローバルキャリアデザインセンター所属)として雇用し、教育研究機関や産業界で活躍する人材となるためのキャリアスタート支援及び研究活動の推進を図ることを目的として、公募を行ってきた。

採用者は、「実践プログラム」を受講し、実務能力の基礎や幅広い研究展開能力を身につけると、その他のキャリア開発・ネットワークの構築に係る活動に積極的に参加するとともに、企業等でのインターンシップや共同研究を行い、アカデミアにとらわれない多様なキャリア構築を目指すことを奨励してきた。

その後、本学の若手研究者育成のための制度見直しに伴い、この名称での学内公募は、令和元(2019)年度第2期で終了した。

#### 広島大学特別研究員成果報告会実績(平成28(2016)年度～令和2(2020)年度(計9回))

第1回 2016年8月

第2回 2017年3月

第3回 2017年8月

第4回 2018年2月

第5回 2018年8月

広島大学特別研究員  
成果報告会(平成27年度第2期)  
【日時】: 8月2日(火) 15:30~17:00  
【場所】: 学生プラザ1階 東側

【参加申し込み】: 7月27日(木)までに  
【参加費】: 無料

【成果報告の依頼】:  
1. 論文の発表  
2. 講演  
3. 論文の発表  
4. 講演  
5. 論文の発表  
6. 講演

第2回  
広島大学特別研究員成果報告会  
【日時】: 3月1日(水) 15:00~17:00  
【場所】: 学生プラザ1階 東側

【参加申し込み】: 2月22日(木)までに  
【参加費】: 無料

【成果報告の依頼】:  
1. 論文の発表  
2. 講演  
3. 論文の発表  
4. 講演

知っていますか?  
広島大学特別研究員制度について

【日時】: 8月7日(火) 15:00~17:00  
【場所】: 学生プラザ1階 東側

【参加申し込み】: 7月31日(金)までに  
【参加費】: 無料

のぞいてみませんか?  
特別研究員の世界  
第4回広島大学特別研究員活動報告会  
2月20日(火)15:00-17:00  
道場の可能性、広げてみよ!

【日時】: 2月20日(火) 15:00~17:00  
【場所】: 学生プラザ1F フリースペース東側

【参加申し込み】: 2月13日(木)までに  
【参加費】: 無料

ふれてみよう!  
特別研究員の世界  
第5回広島大学特別研究員成果報告会  
道場の可能性、広げてみよ!

【日時】: 平成30年8月3日(金) 15:00~17:00  
【場所】: 学生プラザ1F フリースペース東側

【参加申し込み】: 7月27日(木)までに  
【参加費】: 無料

第6回 2019年2月

第7回 2019年7月

第8回 2020年2月

第9回 2020年8月

ふれてみよう! 特別研究員の世界  
第6回広島大学特別研究員成果報告会  
道場の可能性、広げてみよ!

【日時】: 平成31年2月28日(火) 15:00~17:00  
【場所】: 学生プラザ1F フリースペース東側

【参加申し込み】: 2月21日(木)までに  
【参加費】: 無料

第7回広島大学特別研究員成果報告会  
光り輝く  
若手研究者  
への道

特別研究員たちとの交流会  
【日時】: 令和1年7月30日(火) 15:00~17:00  
【場所】: 学生プラザ1F フリースペース東側

【参加申し込み】: 7月23日(木)までに  
【参加費】: 無料

広島大学  
第8回 広島大学特別研究員活動報告会  
若手研究者の  
過去、現在と未来  
~特別研究員たちとの交流会~

【日時】: 2020年2月14日(金) 15:00~16:30  
【場所】: 学生プラザ1F フリースペース東側

【参加申し込み】: 2月7日(金)までに  
【参加費】: 無料

広島大学特別研究員 オンライン産談会  
~ホストドクターのキャリア支援~

【日時】: 2020年8月28日(金)15:00~17:00(予定)  
【開催方法】: オンライン(Zoom)

【参加申し込み】: 8月21日(金)までに  
【参加費】: 無料

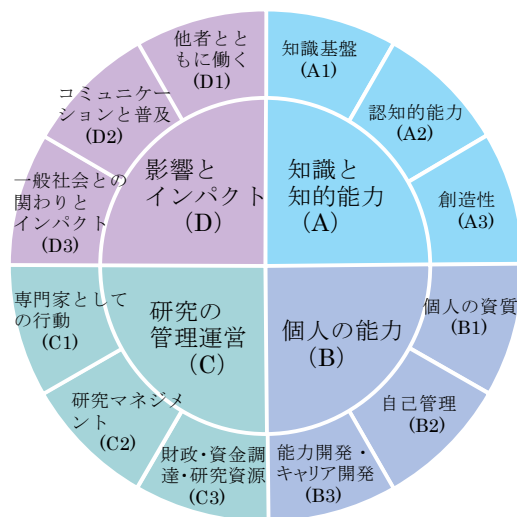
## 8-1-2. HIRAKU 実践プログラム


グローバルキャリアデザインセンターでは、研究キャリアの初期段階にある博士課程後期学生(D)及び若手研究者(PD)を対象に、新分野に挑戦する活力のある研究人材の育成を目的としたプログラム(HIRAKU 実践プログラム)を提供している。

この実践プログラムでは、若手研究者が社会の多方面で活躍するための能力(右図のドメイン(A)~(D))を身につけることができるよう、グローバルキャリアデザインセンターが担当している大学院共通科目や各研究科が開設する科目・独自セミナー等を用意している。

本センターが提供する「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の基幹 IT システムである若手研究者ポートフォリオ HIRAKU・PF(\*)を利用して若手研究人材としての能力を自己チェックし、必要な能力領域の科目を受講することで、自身の能力向上を図ることができる。

また、グローバルキャリアデザインセンターでは、若手研究者のキャリア形成に必要な指導・助言も受けることができる体制を整えている。



 Vitae ©2016 Careers Research Advisory Centre (CRAC) Limited.

(\*) [https://hiraku.hiroshima-u.ac.jp/younger\\_platform/](https://hiraku.hiroshima-u.ac.jp/younger_platform/)

### ◆令和2(2021)年度実践プログラム

#### ① 創造性の発揮 — 知識と知的能力 (ドメインA)

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講期	参考
イノベーション演習	大学院共通教育(博士課程後期・博士課程)	牧野 恵美	3T	詳細は第6章参照
データサイエンティスト養成	大学院共通教育(博士課程後期・博士課程)	三須 敏幸	前期/集中	

#### ② キャリア開発と自己管理能力の向上 — 個人の能力 (ドメインB)

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講期	参考
高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	大学院共通教育(博士課程後期・博士課程)	三須 敏幸	2T・4T	コンソーシアム人材セミナーとして実施。詳細は第7章参照
高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント<オンデマンド>	大学院共通教育(博士課程後期・博士課程)	三須 敏幸	2T	
長期インターンシップ	大学院共通教育(博士課程後期・博士課程)	三須 敏幸	前期・後期/集中	詳細は第4章参照
理工系キャリアマネジメント	大学院共通教育(博士課程前期)	原田 淳	前期/集中	
人文社会系キャリアマネジメント	大学院共通教育(博士課程前期)	竹内 正興	前期/集中	
		森田 佐知子	後期/集中	
人文社会系キャリアマネジメント<オンデマンド>	大学院共通教育(博士課程前期)	森 玲子	2T/集中	
ストレスマネジメント	大学院共通教育(博士課程前期)	原田 淳	前期/集中・4T	
		服部 稔	前期	



③ 他者との協働と影響力の向上 – 影響とインパクト (ドメインD)

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講期	参 考
リーダーシップ手法 ＜日本語・英語＞	大学院共通教育(博士 課程後期・博士課程)	三須 敏幸	前期/集中	
未来博士3分間コンペティ ション	グローバルキャリアデザインセンター		令和3(2021)年 11月3日	詳細は第6章参照

④ 上記以外の奨励科目 (主としてドメインD)

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講期	参 考
オンデマンド英語論文ワーク ショップ	ライティングセンター	河本 健	随時	
学術文章の書き方とその指導法 ・ 大学教員を目指して ・	ライティングセンター	柳澤 浩哉	前期	
大学教員養成講座	人間社会科学部研究科	丸山 恭司	2T・4T/集中	
コミュニケーション能力開発	統合生命科学研究科	舟橋 久景	2T	
Developing Designing Ability	先進理工系科学研究科	藤原 章正	前期	
知的財産及び財務・会計論	先進理工系科学研究科	伊藤 孝夫	3T	
技術移転論	先進理工系科学研究科	伊藤 孝夫	2T	
技術戦略論	先進理工系科学研究科	伊藤 孝夫	4T	
MOT とベンチャービジ ネス論 01/02	先進理工系科学研究科	伊藤 孝夫	1T	
プロテオミクス実験法・同実 習	統合生命科学研究科	泉 俊輔	2T/集中	
ナノ・バイオ・インフォ化学シ ンポジウム	先進理工系科学研究科		令和3(2021)年 12月14~15日	詳細は第8章参照

### 8-1-3. 博士人材キャリア相談室

センターのスタッフ等と一緒に自身のキャリア設計について考え、今後の進路に関する不安を一つ一つ解決する支援をしている。たとえば、就職を希望する博士課程後期学生や若手研究者には、履歴書を作成させ、履歴書の構成や文章の流れなどを指導したり、面接試験にあたっての基本的なマナーや礼儀作法、あるいは企業出身のコーディネーターや幅広い分野の専門家の先生と実践形式の面接指導などを行ったりしている。

※例:キャリア設計相談、進路・進学相談、履歴書作成・面接指導、プレゼンテーション能力の向上

【相談日時】 随時（但し、予約優先）

【場 所】 グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成（広島大学学生プラザ 2F）

【予 約】 「若手研究者ポートフォリオ（HIRAKU-PF）」面談機能を利用して予約すること。

【問合せ先】 グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成

E-MAIL [wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp)

URL（日本語） [https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc\\_yr/consultation](https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc_yr/consultation)

URL（英語） [https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc\\_yr/consultation/en](https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc_yr/consultation/en)

○面談記録簿（平成 26 年度～平成 29 年度）および HIRAKU-PF（平成 28 年度以降）に登録されたキャリア面談件数:

平成 26（2014）年度 11 月以降相談件数 110 件（内：新規面談者 D 44 名、PD 7 名）

平成 27（2015）年度相談件数 213 件（内：新規面談者 D 48 名、PD 13 名）

平成 28（2016）年度相談件数 192 件（内：新規面談者 D 47 名、PD 25 名）

平成 29（2017）年度相談件数 175 件（内：新規面談者 D 51 名、PD 21 名）

平成 30（2018）年度相談件数 115 件（内：新規面談者 D 32 名、PD 8 名）

令和 元（2019）年度相談件数 167 件（内：新規面談者 D 67 名、PD 13 名）

令和 2（2020）年度相談件数 111 件（内：新規面談者 D 52 名、PD 0 名）

令和 3（2021）年度（1 月末日現在）相談件数 76 件（内：新規面談者 D 50 名、PD 1 名）

※上述のキャリア面談件数は、正式に設定して行った面談のみ計上している。各キャリア相談員は面談後にメールや HIRAKU-PF 掲示板などのコミュニケーションツールを活用して細やかなフォローを行っている。

#### 8-1-4. ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム

(The 18th Nano Bio Info Chemistry Symposium)

融合領域研究の英語による口頭発表で構成するナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウムを毎年開催している。

英語による口頭発表をした学生のうち、一般参加者の投票により賞を授与している。

#### <令和3(2021)年度実績>

【日時】 令和3(2021)年12月14日(火)、15日(水)、  
(Zoomによるオンライン開催)

【一般講演】 16件(内:学生の発表15)

【参加者】 51名(学生36名,一般15名)

【学生賞】 参加者(学生は除く)の投票により、上位1名に Grand Prix が、3名に Student Award が授与された。

Grand Prix (1名)

Herry Wijayanto (D3)

“Cs desorption from clays and clay minerals by quaternary ammonium cations: the role of ammonium head group structures”

Student Award (3名)

Savinov Vladislav (Orenburg State University)

“Features of sedimentation of fine fraction of montmorillonite”

Doroshkevich A. V. (Orenburg State University)

“Inactivation of bacteria in solutions by shock acoustic waves”

Shusaku Takahashi (M1)

“Development of metal nanoparticles doped nanographene”

#### 8-1-5. 4年手帳

博士課程後期の心得、進路についてのプランニング、大学で行われている学生支援等について掲載している。博士課程後期の時間を有意義に過ごすために必要な内容を盛り込んだ手帳である。新D1全員に配付した。

Doctoral Course Schedule Book 2022. 4 ⇒ 2026. 3  
(令和4(2022)年3月発行)

- ・ 令和4(2022)年3月から令和8(2026)年3月までの  
カレンダー・スケジュール帳
- ・ 博士課程後期の心得
- ・ 研究に際して重要なこと
- ・ 博士課程後期の学生支援
- ・ 税金・確定申告・健康保険・年金
- ・ Reference for Hiroshima University's International Students



## 8-2. 山口大学独自の取組

### 8-2-1. 実施体制

山口大学においては、広島大学を中心とするコンソーシアム運営協議会で検討された事項を着実に実施するため、平成 27（2015）年度に「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業に係る国立大学法人山口大学実行委員会」（以下、「学内実行委員会」と呼ぶ。）を設置した（図 1）。以降、事業はこの学内実行委員会の下で実施している。

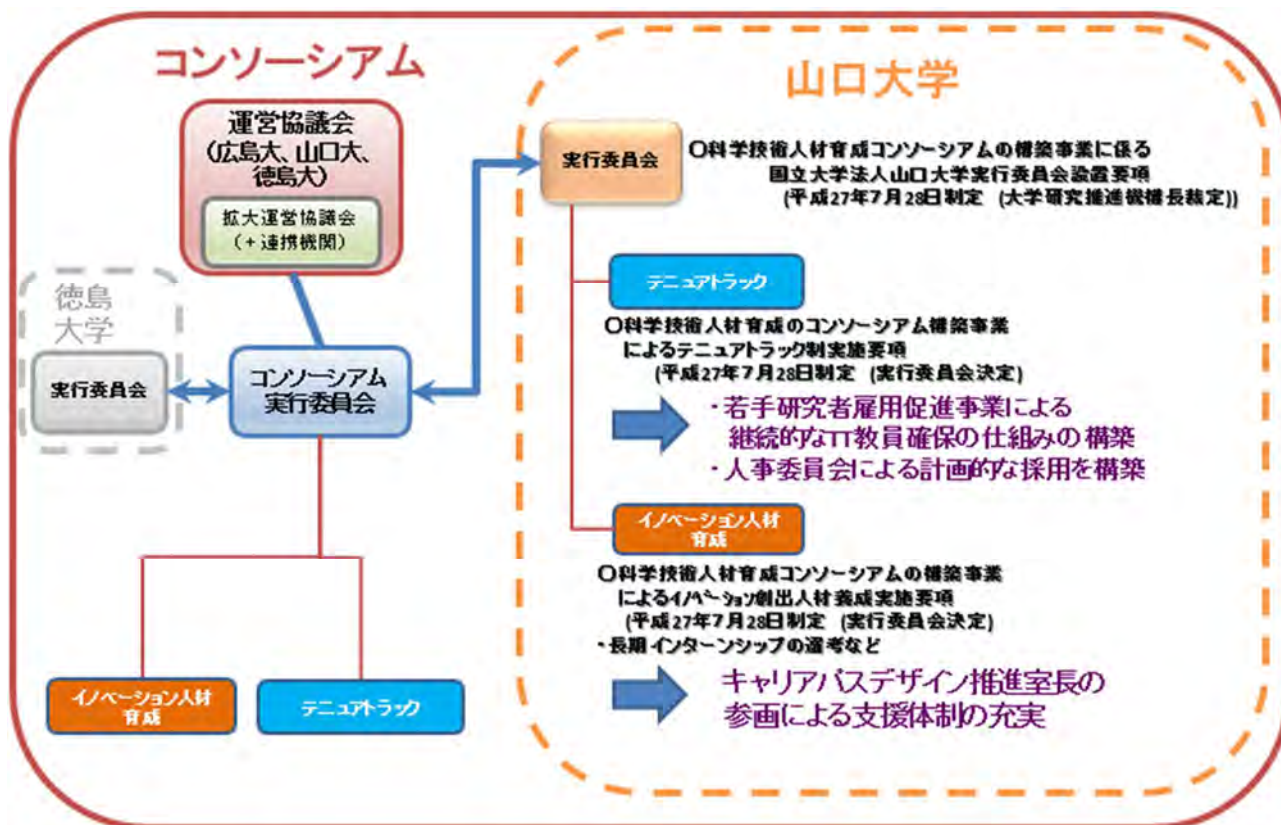


図 1 山口大学における本事業の実施体制

### 8-2-2. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

#### (1) 定着に向けた学内体制の整備

##### ◆長期インターンシップの共通科目化

山口大学では平成 28（2016）年度に理系大学院を再編成し、創成科学研究科を設置した。この研究科では、共通科目として長期インターンシップが設定されている。またこの研究科では、CPOT（実践教育プログラム）やイノベーション道場「志」（アントレプレナー工房）を立ち上げており、本事業としては今まで同様、今後もこの研究科との連携をはかり、イノベーション人材の養成を定着させていく。

##### ◆キャリアパスデザイン推進室との連携

前述の研究科の再編成に合わせ、従来理工学研究科に所属し大学院生の進路開拓の支援をしていたキャリアパス形成支援室が、創成科学研究科所属のキャリアパスデザイン推進室となり、同様の業務を行なっている。キャリアパスデザイン推進室長は学内実行委員会のメンバーでもあり、緊密な連携を可能としている。

(2) 長期インターンシップ

令和3（2021）年度は、実際の派遣の可否については新型コロナの感染状況を見て判断するという前提のもとに、広島大学により作成された受入先リストを提示し、ホームページにより学内公募したが、実際には応募者がいなかった（表1）。

表1 山口大学の長期インターンシップ派遣実績

年度	実績数		派遣期間		派遣された学生・研究者								受入れ先									
	計画数	応募者数	採用数	2か月程度以内	3か月程度以上	学年(派遣時)内訳				所属研究科内訳			性別内訳		国籍内訳		受入先セクター内訳			受入先国別内訳		
						D1	D2	D3	PD以上	理工農系	医学系	人社会系	男性	女性	日本人	留学生	民間企業			公的機関・独法など	国内	海外
																	東証一部上場	未上場・ベンチャー	民間小計			
平成27年度	2	3	2	2		2				2					2			1	1	1	2	
平成28年度	2	4	3	3		1	1	1		2		1	3		1	2		1	1	2	3	
平成29年度	2	3	3	3			1	2		1		2	2	1	1	2	1	2	3		3	
平成30年度	2	3	3	3		1			2	2		1	1	2		3		2	2	1	3	
令和元年度	2	1	0																			
令和2年度	2	注1	1	1			1			1					1					1	1	
令和3年度	2	0	0																			

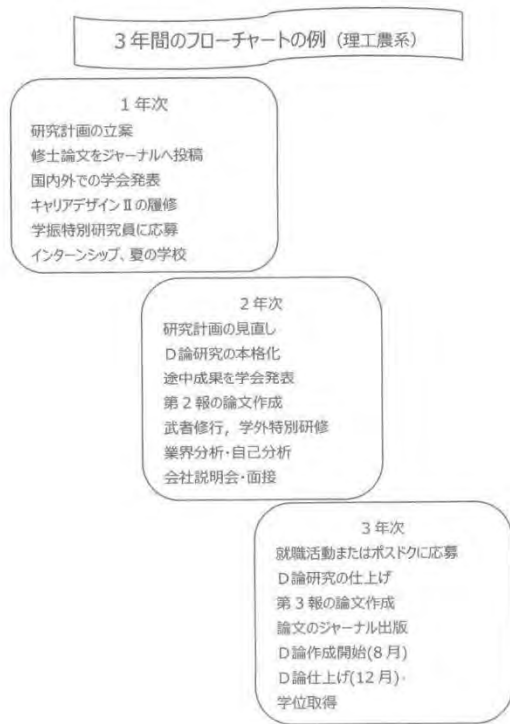
注1： 令和2年度は、新型コロナ感染拡大を受けて新規募集は見合わせし、令和元年度に応募し同年度末にマッチングが成立した1名の派遣のみ実施した。

(3) その他の取組：「山口大学大学院生研究手帳」の配布

博士課程学生がイノベーション創出人材となる一助として、本学では、博士課程学生（特に創成科学研究科の学生）の科目履修やキャリアデザイン関係科目について、きめ細かにガイダンスするための冊子、「山口大学大学院生研究手帳」を制作し配布している（図2、図3、表2）。



図2 「山口大学大学院生研究手帳」の表紙 6年分



5

岐にわたって行われるとき、学生自らがオリジナルなテーマを探すのは容易ではない。そのようなこともあって指導教員の知恵を仰ぐことになる。テーマが決まれば、文献を調べ、熟読する。その中で、未解決部分、不明部分を探す。この結果に基づいて研究計画を立てる。この研究計画は指導教員とよくディスカッションを行い、計画が出来上がった後に研究を実施する。研究結果をまとめて報告書作りをし、さらに論文形式にする。

現在のようにパソコンがあれば報告書を論文にするのは困難ではない。ただし、注意しなければならないのは過去のジャーナル論文のコピー＆ペースト(コピペ)である。早く仕上げるために、報告書の中にはコピペを行ったものがあってもよいが、論文では自分の文章にすること、さらに引用したところは文献として紹介する。たとえば「・・・氏は文献・・・で次のように述べている。」などである。コンピュータの進歩により、コピペが容易になっているが、逆に検出も可能となっている。これを避けるために自分の考えで記述することが望まれる。なお、コピペは盗用であり、この盗用は明らかな犯罪である。

いずれにしても、論文を書くためには、結果が出ればすぐに論文として仕上げるのが重要である。研究成果には レベル① 結果報告を口頭発表する。レベル② 結果をジャーナル（論文レベルは問わない）に投稿する。レベル③ 結果がしかるべきジャーナルに掲載される。博士前期課程ではレベル①でも良いかもしれないが、博士後期課程はレベル③が要求されている。博士後期課程に進学する学生はレベル②を③に上げることを目指すべきである。

論文として仕上がれば、指導教員と一語一句、ディスカッションする。こうすれば、大学院進学後2年で最低1論文は投稿できる。指導教員もジャーナル論文にふさわしいテーマを与えるべきであろう。（なお、キャリアデザインⅡではこれについての講義もしている。）

キャリアデザインⅡ（半数以上のコマは遠隔講義で、吉田キャンパス理学部棟にて聴講可）では、社会に出て必要となる様々なスキルを教えている。創成科学研究科以外でも他研究科の単位として、博士後期課程修了要件の単位に

6

図3 「山口大学大学院生研究手帳」の中身の一部

表2 「山口大学大学院生研究手帳」の配布先

年度	印刷部数	配布部数				配布先キャンパス内訳														
		うち学生への配布数	うち教員への配布数	吉田キャンパス											常盤キャンパス					
				学生(創成科学研究科=理・農のみ)			学生(東アジア研究科=Dのみの大学院)		教員				職員・その他	吉田キャンパス小計	学生		職員	常盤キャンパス小計		
				D1全員	M1全員	D2以上	D1全員	D2以上	理	農	時間学・総科セ	東アジア等			D1	M1				
平成28年度	1000	732	439	281	9	135	24			68	33	4	4	10	287	19	252	172	2	445
平成29年度	800	454	454		8	113	2	12	6	20	10		12	10	193	24	56	175	6	261
平成30年度	700	552	552		7	115		15		11	10			27	185	22	314	25	6	367
令和元年度	700	217	217		24	111		14		1	3			25	178	33			6	39
令和2年度	700	490	471	19	8	122		20		3	5			6	164	35	286	1	4	326
令和3年度	700	619	537	82	4	108	6	5	6	9	6	1	4	10	159	38	370	20	32	460

### 8-2-3. テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム

#### (1) 定着に向けた学内体制の整備

##### ◆若手研究者雇用促進事業の強化

本学では、平成 27 (2015) 年度に、補助金によらない本学独自のテニユアトラック (TT) 教員の雇用事業を開始している (表 3★の 7 名)。平成 28 (2016) 年度から、この制度によるスタート研究費支援や女性教員が採用された場合の部局へのインセンティブ付与など制度を一層整備・強化している。

##### ◆若手研究者の海外研修等事業

TT 制度とは別に、本学予算による若手研究者の海外研修等の制度 (国際共著論文数増加プロジェクト等) で若手研究者を海外に派遣した (令和 2 (2020) 年度と令和 3 (2021) 年度はコロナ禍を受けて中止)。

#### (2) テニユアトラック教員採用実績

表 3 に本学において各事業で採用したテニユアトラック教員数を示す。

コンソーシアム事業では、表 3 の●に示すように、平成 27 (2015) 年度の 2 名を皮切りに、平成 28 (2016) 年度以降令和 3 (2021) 年度まで各 1 名採用した。この中では、平成 28 (2016) 年度と令和 3 (2021) 年度は女性限定公募による採用であった。一方、平成 27 (2015) 年度に採用した 2 名は既にテニユアを獲得した。

令和 2 (2020) 年度からは、新たに文部科学省「世界で活躍できる研究者戦略育成事業 (プログラム名: 地方協奏による世界トップクラスの研究者育成 (HIRAKU-Global))」によるテニユアトラック教員の育成 (表 3 の□) も始まっている。

表 3 山口大学のテニユアトラック教員の採用実績

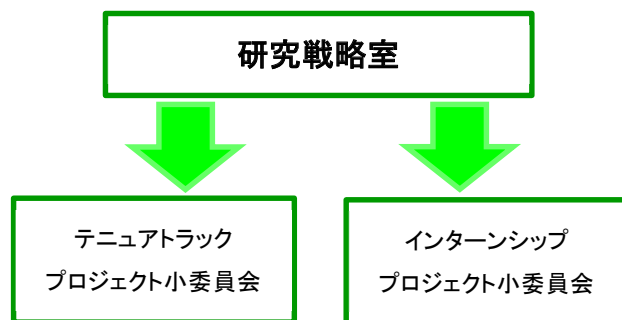
山口大学のテニユアトラック教員 (2022-3-31現在)											
現役TT教員のセルに着色。Wは女性教員を、( )は元TT教員のテニユア獲得日や転出年月を示す。											
所属部局	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
医学系研究科	1名 (平成28年7月 テニユア獲得) W	◆	1名 (平成28年3月 転出) W	▲					1名 (平成30年2月 転出) ★		1名 ●
創成科学研究科 (理)		1名 (平成29年4月 テニユア獲得) ■			1名(令和2年 4月テニユア獲得) ●	1名(令和2年4月 テニユア獲得) ★					
創成科学研究科 (工)	1名 (平成29年1月 テニユア獲得) ◆	1名 (平成29年10 月テニユア獲得) ■	1名 (平成28年3月 転出) ▲				1名 ●	1名 ●	1名 W ●		1名(令和3年 10月着任) W ● 1名(令和3年 4月着任) W ★ □
創成科学研究科 (農)			1名 (平成30年8 月テニユア獲得) ▲			1名 W ●			1名 ★		
共同獣医学部		1名 (平成29年 12月テニユア 獲得) W ■			1名(令和2年 2月テニユア獲得) ●					1名 ★ □	
時間学研究所					1名(令和2年 10月テニユア 獲得) ★			1名 ★			
年次別採用者数	2	3	3		3	2	2	2	2	2	2
採用者数累計	2	5	8	8	11	13	15	17	19	21	23
テニユアトラック普及・定着事業による採用 ●コンソーシアム事業による採用    ★自主財源による採用    □世界で活躍できる研究者戦略育成事業(HIRAKU-Global)による支援を受けている教員 ◆H23年度公募事業による採用    ■H24年度公募事業による採用    ▲H24年度(後期)公募事業による採用											

### 8-3. 徳島大学独自の取組

#### 8-3-1. 実施体制

事業開始とともに本学の研究戦略室（室長＝研究担当理事・副学長）において、若手研究者の自立・流動促進プログラムを推進する為の「テニユアトラックプロジェクト小委員会」と、イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラムを推進する為の「インターンシッププロジェクト小委員会」を設置する等、本事業を推進する体制を整備し、テニユアトラック教員の採用や長期インターンシップの派遣に向けて活動を実施している。

[学内実施体制]



#### 8-3-2. 若手研究者の自立・流動促進プログラム

テニユアトラック教員の公募に際しては、大学全体として計画的に取り組むため、研究戦略室会議にて、各部局からの採用提案を受けた上で、最も適切と考えられる部局で公募を実施することとしている。

令和3（2021）年度は、10月にテニユアトラック教員（情報ネットワーク・通信ネットワーク，外国人）を1名採用した。

なお、テニユアトラック教員の公募に際しては、特に次の点に配慮している。

- ・ JREC-IN，コンソーシアム HP，本学 HP 等に，英語及び日本語の公募要領を掲載するとともに，公募期間は原則2か月を確保するよう努力することで，幅広い人材を募る。
- ・ 公募要領に女性研究者への支援を明記することにより，女性研究者の応募を促す。
- ・ 公募期間の長期確保，英語版公募要領の作成，質問への英語対応等外国人研究者が応募しやすい環境を確保する。

採用後は，研究支援・産官学連携センターに配置している URA により，外部資金獲得に関するサポート（公募情報提供，説明会開催，申請書作成支援等）等を行っている。

[テニユアトラック教員採用数（計画）]

	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度
春着任		第 2 期	第 4 期	第 6 期	第 8 期	第 10 期	第 12 期	第 14 期
秋着任	第 1 期(冬)	第 3 期	第 5 期	第 7 期	第 9 期	第 11 期	第 13 期	第 15 期
徳島大学	0	1	1	1	1	1	1	1
コンソ全体	4	8	8	8	8	8	8	8



[テニユアトラック教員採用数（実績）]

	公募開始	公募締切	最終選考	採用日	応募分野	応募者数
第3期	平成27(2015)年 4月28日	平成27(2015)年 6月25日	平成27(2015)年 8月26日	平成28(2016)年 2月1日	家畜繁殖学	1
第4期	平成27(2015)年 10月13日	平成27(2015)年 12月28日	平成28(2016)年 2月29日	平成28(2016)年 4月1日	有機合成薬学	7(1)
第6期	平成28(2016)年 10月11日	平成28(2016)年 12月12日	平成29(2017)年 2月1日	平成29(2017)年 4月1日	メタボローム栄養学	1
第9期	平成29(2017)年 12月28日	平成30(2018)年 4月2日	平成30(2018)年 7月19日	平成30(2018)年 10月1日	ロボット工学	3(1)
第11期	平成31(2019)年 3月28日	令和元(2019)年 5月27日	令和元(2019)年 6月27日	令和元(2019)年 10月1日	次世代フォト ニクス研究	2(1)
第12期	令和元(2019)年 10月23日	令和元(2019)年 12月24日	令和2(2020)年 1月16日	令和2(2020)年 4月1日	創薬理論化学	1(1)
第15期	令和3(2021)年 2月1日	令和3年(2021)年 4月30日	令和3年(2021)年 7月7日	令和3(2021)年 10月1日	情報ネットワーク・ 通信ネットワーク	1

※( )は女性

8-3-3. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

(1) 長期インターンシップ

平成26(2014)年度から、毎年2名の長期インターンシップ派遣を目標として事業を進めている。令和3(2021)年度についても、第14期・第15期派遣者募集の準備をしていたが、コロナ禍のため、募集を見合わせた。

[長期インターンシップ派遣（計画）]

	平成26 (2014)年度	平成27 (2015)年度	平成28 (2016)年度	平成29 (2017)年度	平成30 (2018)年度	令和元 (2019)年度	令和2 (2020)年度	令和3 (2021)年度
前期		第2期	第4期	第6期	第8期	第10期	第12期	第14期
後期	第1期	第3期	第5期	第7期	第9期	第11期	第13期	第15期
徳島大学	2	2	2	2	2	2	2	2
コンソ全体	6	18	18	18	18	18	18	18

[長期インターンシップ派遣（実績）]

	所属	学年	派遣先	派遣期間
第1期	2名選考のみ			
第2期	先端技術科学教育部	D3	三菱レイヨン(株)・広島	平成27(2015)年9月3日 ～12月3日
第3期	先端技術科学教育部	D1	(株)インフォマティクス・大阪	平成27(2015)年11月9日 ～平成28(2016)年1月9日
第4期	先端技術科学教育部	D2	ニタコンサルタント(株)・徳島	平成28(2016)年6月10日 ～8月9日
第5期	栄養生命科学教育部	D1	理化学研究所・兵庫	平成28(2016)年10月1日 ～12月31日
第7期	薬科学教育部	D1	東京都医学総合研究所・東京	平成30(2018)年2月1日 ～3月31日

第 8 期	先端技術科学教育部	D3	理化学研究所・仙台地区	平成 30(2018)年 9 月 18 日 ～12 月 17 日
第 9 期	地方創生センター	助教	北欧研究所・デンマーク	平成 30(2018)年 12 月 29 日 ～平成 31(2019)年 3 月 29 日
第 10 期	先端技術科学教育部	D2	国立研究開発法人産業技術総合研究所つくばセンター	令和元(2019)8 月 20 日 ～令和元(2019)年 9 月 30 日
第 10 期	先端技術科学教育部	D1	株式会社ファーマフーズ	令和元(2019)9 月 9 日 ～令和元(2019)年 10 月 4 日
第 11 期	薬科学教育部	D1	日本テクノサービス株式会社	令和 2(2020)2 月 21 日 ～令和 2(2020)年 3 月 19 日
第 12 期・ 第 13 期	コロナ禍のため募集見合わせ	—	—	—
第 14 期・ 第 15 期	コロナ禍のため募集見合わせ	—	—	—

## (2) その他の活動

博士後期課程学生のコミュニケーション能力の向上を目的として、徳島大学の博士後期課程の学生も毎年秋に広島で開催される未来博士 3 分間コンペティションに参加している。令和 3 (2021) 年度も昨年に続き、コロナ禍のため、全国の博士課程後期学生を対象としたオンライン開催となり、徳島大学からは、日本語部門 9 名、英語部門 4 名が動画審査を経て、うち 1 名が準決勝（日本語部門）に出場し、優秀賞及び JSW 日本製鋼所動画賞を受賞した。受賞学生は、徳島大学定例記者会見にて、未来博士 3 分間コンペティションの概要を説明し、受賞報告を行った（右写真）。



## (3) 特筆すべき活動

コンソーシアムの連携機関への新規加入を促進するため、広島大学とともに事業紹介の為に一般事業向けパンフレットを作成し、企業、機関への説明を積極的に行っている。徳島大学では、令和 3 (2021) 年度は、本事業についての理解・関心を広めるべく、地元企業や地元高校生・一般等が多く参加する徳島ビジネスチャレンジメッセ 2021（徳島市）にて、ポスター展示を行い、本事業の紹介を行った（右画像）。



また、徳島大学では、令和 3 (2021) 年度は、人材セミナーを 3 回オンライン開催し、人事関係者等を講師に招聘し、キャリア選択のヒントや、企業の求める人材像、インターンシップ等について講演いただいた。

### ・第 130 回コンソーシアム人材セミナー in 徳島

「ヘッドハンターが語る”自分のキャリアの始め方、作り方。”

令和 3 (2021) 年 7 月 27 日（徳島大学研究支援・産官学連携センター，徳島大学キャリア支援室，徳島大学ひかりフェローシップと連携）

### ・第 131 回コンソーシアム人材セミナー in 徳島

「TikTok 採用 Head に聞く、インターンシップのこと、面接のこと、キャリアのこと。」

令和 3 (2021) 年 8 月 3 日（徳島大学研究支援・産官学連携センター，徳島大学キャリア支援室，徳島大学ひかりフェローシップと連携）

### ・第 134 回コンソーシアム人材セミナー in 徳島

「海外特別講演会” Life Sciences Entrepreneurship: Common Pitfalls and Misconceptions”」

令和4(2022)年3月3日 (内閣府地方大学・地域産業創生交付金事業と連携)



併せて、博士学生や若手研究者の研究力アップやキャリア開発を目的として、以下のセミナーを開催した。

- ・令和4年度科学研究費申請オンライン勉強会～ワークを通じた強みや不足要素の再確認～  
令和3(2021)年7月20日(研究支援・産官学連携センターと連携)
- ・KAKENHI (Grants-in-Aid for Scientific Research) FY2022 Writing Seminar in English  
令和3(2021)年8月18日、8月20日(研究支援・産官学連携センターと連携)
- ・英語論文セミナー  
令和3(2021)年9月29日(AWAサポートセンター, 研究支援・産官学連携センターと連携)
- ・第1回キャリア開発セミナー「ビジネスマナー研修」  
令和4(2022)年1月20日(学際的次世代研究者育成プログラムと連携)
- ・令和3年度徳島大学産業院セミナー『淡路島で挑戦する地方創生』  
令和4(2022)年2月3日(産業院, 研究支援・産官学連携センター, 共創の場, 学際的次世代研究者育成プログラムと連携)  
※新型コロナ感染拡大のため開催延期
- ・第2回キャリア開発セミナー「ロジカルシンキング基礎」  
令和4(2022)年2月10日(学際的次世代研究者育成プログラムと連携)
- ・第3回キャリア開発セミナー「博士のキャリアデザイン」  
令和4(2022)年2月17日(学際的次世代研究者育成プログラムと連携)
- ・第4回キャリア開発セミナー「プレゼンテーション基礎」  
令和4(2022)年3月3日(学際的次世代研究者育成プログラムと連携)
- ・令和3年度研究倫理コンプライアンス研修会  
令和4(2022)年3月2日(研究支援・産官学連携センター, AWAサポートセンターと連携)
- ・日本学術振興会(JSPS)特別研究員制度オンライン説明会  
令和4(2022)年3月30日(研究支援・産官学連携センター, 学際的次世代研究者育成プログラムと連携)

令和4年度  
科学研究費申請に向けた  
オンライン勉強会  
"ワークを通じた悩みや不安要素の再確認"

**7.20** 火  
17:00~19:00  
オンライン開催 (Zoom)

**17:00~18:00** 開会式  
18:00~18:30 講演  
18:30~19:00 質疑応答

**講師**  
山崎 隆夫 (東京大学)

**参加費**  
無料

**申し込み**  
2022年7月12日(水) 15時迄

**申し込み先**  
徳島大学 学務課 学務管理センター

KAKENHI FY2022 Tokushima University  
Writing Seminar in English  
How do the researchers acquire Grants-in-Aid for science (research expenses in Japan)? - Some tips

**Akashi Campus (20:00)**  
Date & Time: Wednesday, August 18, 2021 15:00-18:00  
Venue: 3-2-1-1011 (20:00)

**Kuramoto Campus (20:00)**  
Date & Time: Friday, August 20, 2021 13:00-16:00  
Venue: 1-1-1 (20:00)

**講師**  
Richard Kasper (University of British Columbia)

**申込先**  
徳島大学 学務課 学務管理センター

2021年度 第26回 研究力研修セミナー  
英語論文セミナー2021  
オンライン開催 (英語)  
**9.29** [水] 17:00-19:00

**講師**  
David Kipler (京都大学)

**講演内容**  
① Writing and Revising a Research Article (研究論文の執筆と修正)  
② Sentence Structure in Science/Technical Writing (学術論文の文法と構文)

**申し込み**  
2022年9月22日(水) 15時迄

令和4年度 令和4年2月3日開催セミナー  
ビジネス  
マナー  
研修  
オンライン (ZOOM)

**日時**  
2022年1月20日  
① 14時~16時  
② 17時~19時

**講師**  
北本由紀 (徳島大学)

**参加方法**  
Zoom

**問合せ**  
学務課 学務管理センター

令和3年度  
徳島大学産業界セミナー  
令和4年2月3日(木) 場所 徳島大学 けやきホール  
14:30-17:30  
オンライン同時開催

**講師**  
徳島大学 学務課 学務管理センター

**参加費**  
無料

**申し込み**  
2022年1月11日(水) 15時迄

令和4年度 令和4年2月10日開催セミナー  
ロジカル  
シンキング  
研修  
オンライン (ZOOM)

**日時**  
2022年2月10日  
① 14時~16時  
② 17時~19時

**講師**  
藤田 雄 (徳島大学)

**参加方法**  
Zoom

**問合せ**  
学務課 学務管理センター

令和4年度 令和4年2月17日開催セミナー  
博士学生のための  
キャリア  
ガイダンス  
オンライン (ZOOM)

**日時**  
2022年2月17日(木)  
17時00分~18時30分

**講師**  
山崎 隆夫 (東京大学)

**参加方法**  
Zoom

**問合せ**  
学務課 学務管理センター

令和4年度 令和4年3月3日開催セミナー  
プレゼン  
テーション  
基礎研修  
オンライン (ZOOM)

**日時**  
2022年3月3日(木)  
① 14時~16時  
② 17時~19時

**講師**  
山崎 隆夫 (東京大学)

**参加方法**  
Zoom

**問合せ**  
学務課 学務管理センター

令和3年度 研究倫理  
コンプライアンス研修会  
令和4年 3月2日(水)

**完全オンライン開催**  
1[開会] 14:30-16:20  
2[閉会] 18:00-19:50

**講師**  
山崎 隆夫 (東京大学)

**参加費**  
無料

**申し込み**  
2022年2月22日(水) 15時迄

日本学術振興会  
特別研究員制度説明会  
令和4年 3月30日(水) 14:00~16:00

**第1章 特別研究員制度について**  
特別研究員制度の概要  
特別研究員の種類  
特別研究員の選任  
特別研究員の待遇

**第2章 特別研究員として特別研究員申請をするプロセス**  
特別研究員申請の概要  
特別研究員申請書の作成  
特別研究員申請書の提出

**第3章 特別研究員としての生活**  
特別研究員としての生活  
特別研究員としての生活

## 9. 外部評価

### 9-1. 外部評価委員会

若手研究人材養成担当では、外部の関連組織・有識者の方に外部評価委員を委嘱し、本システムの外部評価を受けている。外部の方の意見を真摯に受け止め、より良い取組とするよう努めている。

平成 30（2018）年度に HIRAKU 事業の補助金が終了後、独自経費での運営が 2 年間経過し、HIRAKU 事業の最終年度となる令和 3（2021）年度に、6 回目の外部評価を受けた。

### <令和 3（2021）年度実績>

#### 第 6 回外部評価委員会

【日 時】 令和 3（2021）年 12 月 6 日（月） 15：30～17：20

【場 所】 Zoom によるオンライン開催

#### ◆外部評価委員（五十音順）

三菱ケミカル株式会社 広島研究所 主席研究員	入江 菊枝
広島県商工労働局 総括官（イノベーション推進）	川野 真澄
近畿大学 次世代基盤技術研究所 特任教授	京極 秀樹
公益財団法人とくしま産業振興機構 理事長	熊谷 幸三
株式会社広島銀行法人営業部 シニアマネージャー	栗栖 徹
国立大学法人東京工業大学 荣誉教授	鈴木 啓介
地方独立行政法人 山口県産業技術センター イノベーション推進センター バイオ関連推進チーム プロジェクトプロデューサー	中野 哲郎
経済産業省中国経済産業局 地域経済部 次長	近村 淳

#### 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」第 6 回外部評価委員会の記録

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」第 6 回外部評価委員会を令和 3 年 12 月 6 日（月）15：30～17：20 に Zoom オンラインで開催し、外部評価を行った。外部評価委員は、入江 菊枝 委員（三菱ケミカル株式会社広島研究所主席研究員）、川野 真澄 委員（広島県商工労働局総括官（イノベーション推進））、京極 秀樹 委員（近畿大学工学次世代基盤技術研究所特任教授）、熊谷 幸三 委員（公益財団法人とくしま産業振興機構理事長）、栗栖 徹 委員（株式会社広島銀行法人営業部シニアマネージャー）、鈴木 啓介 委員（国立大学法人東京工業大学荣誉教授）、中野 哲郎 委員（地方独立行政法人山口県産業技術センターイノベーション推進センター医療関連推進チームプロジェクトプロデューサー）、近村 淳 委員（経済産業省中国経済産業局地域経済部次長）、の 8 名である。

安倍 学「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」運営協議会議長、広島大学理事・副学長（学術・社会連携担当）から、開会の挨拶と委員の方々にオンラインでご出席いただいたことについて感謝を述べた。

続いて、安倍理事から名簿順に委員全員の紹介を行った後、委員長選出について、京極 秀樹 委員に委員長をお願いしたい旨の発言があり、京極 委員を委員長に選出した。ここからの進行は、京極 委員長が行った。

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の事業実施責任者である相田 美砂子 広島大学学長特命補佐（研究人材育成担当）から、配布された資料に基づき、令和2年度事業報告及び令和3年度事業計画及び進捗状況を含めた今後の事業計画について説明があった。

その後、相田学長特命補佐の説明をもとに、質疑応答、意見交換が行われた。以下がその内容である。

- ・企業目線から共同研究の実績、学生のアントレプレナーへの取組について、HIRAKUの中での位置づけを説明して頂きたい。

(回答)

アントレプレナーについては、広島大学の他の取組みの中で、授業やセミナーを実施しており、HIRAKUでは、あまり重点を置いていない。企業との共同研究に関しては、研究機関等への長期インターンシップ派遣において、研究の一部を担い、一定の成果を出したとの報告や、その企業へ就職した例もある。

- ・テニユアの先生方が、企業等から研究を依頼され、大学で研究するような例はあるか？

(回答)

1年目、2年目のテニユアトラック教員面談の際に確認しているが、多く（7～8割）の教員は、連携機関に限らず、何らかの形で共同研究を行っている。

- ・連携機関の公的団体の中に、広島県全体を対象とする広島産業振興機構が入っていないのはなぜ？また、強力に進めるため、各組織と協定を結んでいるのか？

(回答)

学術・社会連携室での連携もあるが、事業開始の8年前は現状の組織で始めたが、地域との連携の重要性が増していることから、今後は、学術・社会連携室と一体化してさらに取組みを進めて行く。

- ・アウトカムズについて、事業の成果として、最終的にどういうところで目に見える形で出てくるのか？ 共通教員重要業績指標（CKPI®）は、具体的にどのようなもので、この事業を始めた時から数値はどのように変化してきたのかを教えてください。

(回答)

CKPI®は、2016年に広島、山口、徳島、愛媛大学、2019年に島根大学も加わり、大学教員のすべての業績を一元化して共通の指標を作って、同じ尺度で各大学間や教員間の業績等の比較が出来るようにデータをとっている。テニユアトラック教員についても、どの程度の業績等を有しているかを見ようとしている。

- ・AKPI®について、数値目標を2015年の500から2023年には1000にするとのことであるが、現在どのような状況か教えてください。

(回答)

AKPI®は、研究力を強化する事業の一環で作っており、世界トップ100に入るには、数値が1000となるような指標を作っている。

BKPI®は、大学教員のほぼ全ての活動が入る指標を使って、全分野の教員の業績等を可視化できるようにしている。AKPI®, BKPI®は広島大学独自のものであるが、CKPI®はBKPI®とほぼ同じ項目であり、他大学（山口大学、徳島大学等）との比較は、CKPI®を使って比較することが可能である。

AKPI®の数値は、毎年増え、現在 6 百数十の数値となっている。また、テニュアトラック教員の外部資金の獲得も AKPI®に反映され、数値を上げる一助となっている。テニュアトラック教員がどの程度平均値を上げているか等の分析も行いたいと思う。

- ・長期インターンシップの直近 2 年間について、外国人のほうが日本人より活発なのは、全国的な傾向なのか？

(回答)

ドクターコースの学生対象の取組みは、多くの大学で実施しているが、全国の状況を示すデータを持っていないため、ここでお示しが出来ない。

- ・また、このようなコロナ禍の状況でも学生の活動が活発となるようなプログラム等のアイデアがあればお聞かせ願いたい。

(回答)

日本全体でドクターコースへの進学者が減っている状況を打破するために、昨年度の暮れから文科省の大学院リサーチフェロシップによるドクターコース学生への生活費相当額を支援する取組みが始まっている。この取組みにより進学者の増加が見込まれるが、アカデミック以外の企業等で活躍する人材が増えることも重要である。そのためにも企業等へのインターンシップの仕組みと地域との連携を保つことで、日本人学生のインターンシップ参加者の増加が図れると思う。また、大学院共通科目に長期インターンシップを選択必修科目として単位化しており、学生が長期インターンシップに行きやすいような工夫もしている。

- ・HIRAKU のプログラムから新しいプログラムへの移行についての関係性、実情をお聞かせ願いたい。

(回答)

HIRAKU では、テニュアトラック教員の採用と研究支援、ドクターコースの学生とポストクの長期インターンシップ派遣が 2 つの大きな柱であり、その他にシンポジウム、小冊子作成、3 分間コンペティション、HIRAKU-PF の作成等がある。

テニュアトラック教員の雇用経費は、HIRAKU 補助金からではなく大学の共通経費から支出し、スタートアップ経費、活動経費を補助金から出すように制度設計をしていたことから、無理なく、自己経費への移行ができたと思う。

長期インターンシップ派遣に関しては、そもそも国の補助金はなく、企業からの支援で賄うべきとの意見もあり、当初は呼び水的ではあったが、自己経費となってからは、企業からの支援を頂き派遣する方向に移行した。

3 分間コンペティションについては、Zoom 開催にも慣れ、運営する事務スタッフがいれば継続可能である。

Zoom ブレックアウトルームでの 8 名の委員による〈外部評価のまとめ〉

京極委員長から以下のとおり【総評】及び【各委員からの評価と要望】の報告があった。

#### 【総評】

本事業は、平成 26 年度から平成 30 年度までの 5 年間は補助事業として実施され、その後令和 3 年度までの 3 年間は自己経費での運営をされ、地域におけるイノベーション創出や地域経済活性化の促進を目的として、博士およびポストドクの人材育成のための「イノベーション創出人材の実践的溶製・活用プログラム」と「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進

プログラム」の2本柱として、多くのプログラムを改善・付加され、初期の目標を達成されるとともに、我が国の課題となっている博士人材育成プログラムとして優れたプログラムに仕上げられたことに敬意を表します。引き続き、これまでのプログラムを基礎に、「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」にも取り組まれており、地域で育て地域で活躍できる世界に通用する研究人材を輩出されることを期待します。

#### 【各委員からの評価と要望】

次世代研究者育成プログラムでは、博士課程後期学生・ポスドク・若手研究者を対象として、その将来を切り拓くための数々の教育的プログラムとそれを支援する仕組みを考案し着実に実行されてきました。中国四国地域における大学が連携して計画した数値目標はほぼ達成されており、その中にはテニユアトラック教員の女性限定公募等もあり、女性活躍促進という社会課題への取り組みにも貢献されてきました。外部からの意見も取り入れつつ育成プログラムの内容はきめ細かく検討され、それぞれのタスクは年々進化し続けています。地方から全国へ更には世界に向けて情報発信し、グローバルに優秀な人材を発掘されているところは、本プログラムの目指す地方活性化に貢献していると考えます。8年間という長いようで文化を変えるという視点では短い期間に多くの取組みを注意深くかつ大胆に計画実施され軌道に乗せられたことは評価されるべきことではないでしょうか。

企業においては、大学との共同研究と優秀な人材獲得は世界で戦っていく上で重要なファクターになります。本プログラムの中で実施されていた「若手研究者向けキャリア・能力開発システム」の内容は、企業が必要とする人材とも合致しており、「長期インターンシップ」等企業との連携に関する施策の更なる発展も期待いたします。

全体的な取り組みとしては、盛りだくさんであり、各種資源が限られる中で、良好な実績を残されているものと思料致します。中でも、未来博士3分間コンペティションの取り組みは、是非とも継続頂きたい取り組みの一つです。オンラインでの実績もあることから、コロナが沈静化した時には、オンライン、オフライン合わせたハイブリッド方式での開催で、現地参加者、および視聴者の増強を図ってほしいと思います。特に、中・高校生への発信、繋がり強化による理系人材の育成は、非常に重要な課題と考えており、次世代研究者の育成を図る中で、同時進行していくことが大事かと思えます。

以下に、各委員からの要望を列挙しておきます。

長期インターンシップについては、日本人学生の申込みが著しく減少したという結果でした。ご説明のように引っ込みがちな日本人の特性が少なからず影響したという考察は同意できますが、対象者の選定にも根本的な課題があるとも考えます。博士後期課程という時期は、学生は自身の研究テーマを深掘りしながら博士論文の完成に向けて邁進し傾注する時期です。それゆえ、博士後期課程の日本人の学生で、自身の研究を中断して民間企業の研究開発活動や視点を学びたいと思う学生は、多くはないはずですが、また、長期インターンシップを就職の機会にも活用してほしいとする事務局の想いと裏腹に、企業の目線を知らず（ズレがちな視点で）学内研究に傾注する学生の姿は、企業からはマイナスの側面が見えがちとなります。このように、博士後期課程の日本人学生にとっても企業にとっても魅力を感じにくいプログラムにしていた可能性について、振り返りをお願いします。長期インターンシップの対象者は、自身の研究テーマを模索するタイミングの博士前期課程の学生への修正をご検討いただくとよいかと拝察します。

私どもが力を入れている事業に、①大学発ベンチャー企業の発掘、事業化支援と②企業（特に中小企業）との産学連携強化があげられます。①、②においても、次世代研究者の方々に、何らかの形で積極的に関与頂ければ幸いです。



これらのためには、コーディネータの役割は大事ですので、地域の産学連携機関との連携によるコーディネート機能を強化することは重要と考えます。また、優秀な若手研究者が地方で育ち活躍できる仕組み作りという HIRAKU の目的は、地域においてイノベーション創出や地域経済活性化を促進するためにも極めて重要な取り組みと評価されますが、人材マッチングを発展させるため、共同実験施設やインキュベーション施設、オープンイノベーション推進施設が必要となれば、R3 補正で「地域の中核大学の産学融合拠点の整備」を経産省が打ち出しているので活用を検討いただくのもよいかと思います。

アウトカムについては、研究業績指数 CKPI®や AKPI®の指標がありその数値が目標には届かないまでも着実に伸びており評価できますが、研究業績指標（CKPI®）の中で、地域の中核大学等が持つ強みや特色を有する研究分野を更に評価することで、若手研究人材の研究背景・指導環境が分かり、企業の求める人材とのマッチングがより進み易くなるのではないのでしょうか。

中国四国地域における若手研究人材の育成プログラムというスタンスは維持して欲しいと願っています。HIRAKU が全国の若手研究人材の育成プログラムにベクトルを変えたのだということを知りましたが、その方針転換に違和感を覚えました。地方大学としてのポジショニングを考えると、中国四国地域の色を出せる施策を志向することで、大学とその大学で学ぶ学生の両方が、魅力的なオンリーワンの存在になれる近道と考えます。

京極 秀樹 外部評価委員長の講評に引き続き、相田 広島大学学長特命補佐から、この取り組みは、ドクターコースに進んだ学生が、より自分の足で人生を歩むことができ、また、さらに伸びるようにシステムを作っておきたいという気持ちでやっている。

本日も指摘頂いたように、企業との連携は、学術・社会連携室と一緒に取組みを強化していきたい。また、これまで 6 回の外部評価委員会での意見を十分反映し、今後も頑張っていきたいとの閉会挨拶があった。

未来を拓く地方協奏プラットフォーム  
平成26(2014)～令和3(2021)年度 成果報告書

【発行年月】令和4(2022)年3月

【編集・発行】「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」運営協議会事務局  
広島大学グローバルキャリアデザインセンター  
(若手研究人材養成担当)

【所在地】〒739-8514 東広島市鏡山一丁目7番1号(学生プラザ2F)

【TEL】082-424-2058 【FAX】082-424-4565

※無断複写・転載を禁じます





未来を拓く地方協奏プラットフォーム

**HIRAKU**

Home for Innovative Researchers and  
Academic Knowledge Users